

注3

大学番号：045

[平成29年度設置]

計画の区分：研究科の設置

注1

事前伺い

名古屋大学大学院 人文学研究科

注2

【事前伺い】設置に係る設置計画履行状況報告書

国立大学法人 名古屋大学
平成29年5月1日現在

作成担当者

担当部局（課）名 企画部企画課

職名・氏名 カチョウ ヒロイシ タカシ
課長・廣石 孝

電話番号 052-789-5466

（夜間） 同上

F A X 052-747-6500

e-mail sougoukikakusitu1@adm.nagoya-u.ac.jp

(注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。

2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。

設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には設置時の旧名称を記載し、その下欄に（ ）書きにて、現在の名称を記載してください。

例) 〇〇大学 △△学部 □□学科

(◇◇学部(平成◇◇年度より学科名称変更))

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例)

- ・学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」
- ・学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」
- ・短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」
- ・大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」
- ・通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」

3 大学番号の欄については、平成29年3月31日付事務連絡「大学等の設置に係る設置計画履行状況報告書等の提出について(依頼)」の別紙に記載のある大学番号を記載してください。

目次

大学院人文学研究科

<人文学専攻（博士前期課程）>	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	1
2. 授業科目の概要	6
3. 施設・設備の整備状況、経費	22
4. 既設大学等の状況	23
5. 教員組織の状況	36
6. 留意事項等に対する履行状況等	51
7. その他全般的事項	56

<人文学専攻（博士後期課程）>	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	59
2. 授業科目の概要	64
3. 施設・設備の整備状況、経費	71
4. 既設大学等の状況	72
5. 教員組織の状況	85
6. 留意事項等に対する履行状況等	92
7. その他全般的事項	97

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

国立大学法人 名古屋大学

(2) 大学名

名古屋大学大学院

(3) 大学の位置

〒464-8601
愛知県名古屋市千種区不老町

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
学長	(マツオ セイイチ) 松尾 清一 (平成27年4月)		
理事	(ワタナベ ヨシヒト) 渡辺 芳人 (平成24年4月)		
理事	(マツシタ ユウシュウ) 松下 裕秀 (平成27年4月)		
理事	(キムラ ショウゴ) 木村 彰吾 (平成27年4月)		
理事	(ザイマ シゲアキ) 財満 鎮明 (平成29年4月)		
理事	(タカハシ マサヒデ) 高橋 雅英 (平成29年4月)		
理事	(イソガイ ケイスケ) 磯谷 桂介 (平成29年1月)		
理事	(ゴウ ミチコ) 郷 通子 (平成27年4月)		

研究科長	(サクマ ジュンイチ) 佐久間 淳 一 (平成29年4月)		
副研究科長	(サクライ タツヒコ) 櫻 井 龍 彦 (平成29年4月)		
副研究科長	(フルオヤ トモヒロ) 古尾谷 知 浩 (平成29年4月)		

(注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。

(例) 平成27年度に報告済の内容 → (27)

平成29年度に報告する内容 → (29)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載（昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正）するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
- ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
- ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象研究科等の名称, 定員, 入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部/学科または研究科の専攻等, 定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。
 ・ 様式は, 平成27年度開設の博士後期課程の場合(平成29年度までの3年間)ですが, 開設年度・修業年限に合わせて作成してください。(修業年限が2年以下の場合には欄を削除し, 4年以上の場合には, 欄を設けてください。)

(5) - ① 調査対象研究科等の名称等

調査対象研究科等の名称(学位)	学位又は学科の分野	設置時の計画			備考
		修業年限	入学定員	収容定員	
人文学研究科 人文学専攻 (博士前期課程) 修士(文学) 修士(歴史学) 修士(学術)	文学関係	2年	104人	208人	基礎となる学部等 文学部

- (注) ・ 「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
 ・ 定員を変更した場合は, 「備考」に変更前的人数, 変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。
 ・ 学生募集停止を予定している場合は, 「備考」にその旨記載してください。
 ・ 「学位又は学科の分野」には, 「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要(別記様式第2号(その2の1))」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。

(5) - ② 調査対象研究科等の入学者の状況

区分	報告年度		平成29年度		平成30年度		平均入学定員超過率	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期		
A 入学定員	104 () [-]						1.03倍	
志願者数	216 (14) [129]	() []	() []	() []				
受験者数	204 (13) [122]	() []	() []	() []				
合格者数	114 (3) [65]	() []	() []	() []				
B 入学者数	108 (3) [65]	() []	() []	() []				
入学定員超過率 B/A	1.03							

- (注) ・ 数字は, 平成29年5月1日現在の数字を記入してください。
 ・ ()内には, 社会人の状況について**内数**で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 ・ 「社会人」については, 認可申請書において貴学が定める社会人の定義に従って記入してください。
 ・ []内には, 留学生の状況について**内数**で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 ・ 留学生については, 「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により, 我が国の大学(大学院を含む。), 短期大学, 高等専門学校, 専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 ・ 短期交換留学生など, 定員内に含めていない学生については記入しないでください。
 ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は, 春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は, その他の学期欄は「-」を記入してください。また, その他の学期に入学定員を設けている場合は, 備考欄にその人数を記入してください。
 ・ 「入学定員超過率」については, **各年度の春季入学とその他を合計した入学定員, 入学者数で算出**してください。なお, 計算の際は**小数点以下第3位を切り捨て, 小数点以下第2位まで記入**してください。
 ・ 「平均入学定員超過率」には, 開設年度から提出年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。なお, 計算の際は「**入学定員超過率**」と同様にしてください。

(5) - ③ 調査対象研究科等の在学者の状況

学 年	平成29年度		平成30年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	108 [65] (-)	[] ()	[] ()	[] ()	
2年次	/		[] ()	[] ()	
計	108 [65] (-)		[] ()		

- (注) ・ 数字は、平成29年5月1日現在の数字を記入してください。
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 - ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 - ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、**各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数**を記入してください。
 - ・ ()内には、**留年者の状況について、内数**で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	入学者数(b)	退学者数(a)	退学者数(内訳)			主な退学理由	入学者数に 対する退学者数 の割合 (a/b)
			退学した年度	退学者数	退学者数の うち留学生数		
平成29年度 入学者	108 人	0 人	平成29年度	人	人		0.00 %
			平成30年度	人	人		
平成30年度 入学者	人	0 人	平成30年度	人	人	%	
合 計	108 人	0 人				0.00 %	

(注)・数字は、平成29年5月1日現在の数字を記入してください。

- 各年度の入学者数については、該当年度当初に入学した人数を記入してください。(途中で退学者がいた場合でも、その退学者数を減らす必要はありません。)
- 各年度の退学者数については、退学年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記入してください。
- 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
- 「入学者数に対する退学者数の割合」は、【当該対象年度の入学者のうち、平成29年5月1日現在までに退学した学生数の合計】を、【当該対象年度の入学者数】で除した割合(%)を記入してください。その際、小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位までを記入してください。
- 「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(○人)」というように、その人数も含めて記入してください。
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
 ・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

2 授業科目の概要

<人文学研究科 人文学専攻（前期課程）>

(1) 授業科目表

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手			
基礎科目	人文学基礎	1前	1			2 4	5 4		1			担当教員の変更(29)	
	リサーチ・倫理・情報リテラシー	1前 1後	1			2	1 2					カリキュラムの調整のため開講期変更(29) 担当教員の変更(29)	
	テキスト学Ⅰ	1・2通 1・2前		2		4 3	5 2					教育内容の充実のため教員追加(29) カリキュラムの調整のため開講期変更(29)	
	テキスト学Ⅱ	1・2後		2		3	2						
	文化資源学研究Ⅰ	1・2前		2		1	1						
	文化資源学研究Ⅱ	1・2前		2		2 1						教育内容の充実のため教員追加(29)	
	文化資源学研究Ⅲ	1・2後		2		2 1						教育内容の充実のため教員追加(29)	
	文化資源学研究Ⅳ	1・2集中		2		1							
	比較社会文化論	1前		2		2	5 4		1			教育内容の充実のため教員追加(29)	
	英語学術論文演習a	1・2前		2							兼1		
	英語学術論文演習b	1・2後		2							兼1		
	基礎選択科目	日本語論文作成法Ⅰa	1・2前		2							兼1	
日本語論文作成法Ⅰb		1・2前 1・2後		2							兼1	カリキュラムの調整のため開講期変更(29)	
日本語論文作成法Ⅱa		1・2前		2							兼1		
日本語論文作成法Ⅱb		1・2前 1・2後		2							兼1	カリキュラムの調整のため開講期変更(29)	
ギリシア語a		1・2前		2			1						
ギリシア語b		1・2後		2			1						
ラテン語a		1・2前		2							兼1		
ラテン語b		1・2後		2							兼1		
人文学社会連携演習		1・2後		2		1							
専門科目	言語文化系 言語学分野	音声学研究a	1前		2			1					
		音声学研究b	1後		2			1					
		音韻論研究	1前		2			1					
		統語論研究a	1前		2		1						
		統語論研究b	1後		2		1						
		意味論研究Ⅰa	1前		2			1					
		意味論研究Ⅰb	1後		2			1					
		意味論研究Ⅱ	未開講 1前		2			1					履修希望者がいなかったため未開講(29)
		歴史言語学研究Ⅰ	1後		2		1					兼1	平成29年3月退職のため担当者変更(29)
		歴史言語学研究Ⅱ	1前		2			1					
		言語対照基礎演習Ⅰ	1前		2			1					
		言語対照基礎演習Ⅱ	1後		2			1					
		言語類型論研究	1後		2			1					
		個別言語基礎演習Ⅰa	1前		2			1					
		個別言語基礎演習Ⅰb	1後		2			1					
		個別言語基礎演習Ⅱ	1後		2				1				
		音声学特殊研究	1・2後		2				1				
		言語類型論特殊研究	1・2前		2			1					
言語学特殊研究Ⅰa	1・2前		2		1			1			平成29年3月退職のため担当者変更(29)		
言語学特殊研究Ⅰb	1・2後		2		1			1			平成29年3月退職のため担当者変更(29)		
言語学特殊研究Ⅱa	1・2前		2			1							
言語学特殊研究Ⅱb	1・2後		2			1							
言語学特殊研究Ⅲ	1・2後		2			1							

	言語学特殊研究Ⅳ	未開講 1+2前	2		1			履修希望者がいなかったため未開講(29)	
	言語学特殊研究Ⅴa	1・2前	2		1				
	言語学特殊研究Ⅴb	1・2後	2		1				
	個別言語総合演習Ⅰa	未開講 1+2前	2	1	1			履修希望者がいなかったため未開講(29) 平成29年3月退職のため担当者変更(29)	
	個別言語総合演習Ⅰb	未開講 1+2後	2	1	1			履修希望者がいなかったため未開講(29) 平成29年3月退職のため担当者変更(29)	
	個別言語総合演習Ⅱ	1・2後	2		1				
	個別言語総合演習Ⅲ	1・2前	2		1				
	個別言語総合演習Ⅳa	1・2後 1+2前	2		1			カリキュラムの調整のため開講期変更(29)	
	個別言語総合演習Ⅳb	1・2後	2		1				
日本語 日本文学 分野	日本語学史特論a	1・2前	2		1				
	日本語学史特論b	1・2後	2		1				
	日本語文体史特論a	1・2前	2		1				
	日本語文体史特論b	1・2後	2		1				
	日本語文法史特論a	1・2前	2			1		隔年開講(平成30年度開講予定)	
	日本語文法史特論b	1・2後	2			1			
	日本語学特殊研究Ⅰa	1・2前	2		1			隔年開講(平成30年度開講予定)	
	日本語学特殊研究Ⅰb	1・2後	2		1				
	日本語学特殊研究Ⅱ	1・2前	2			1			
	日本語学特殊研究Ⅲ	1・2後	2			1			
	日本語学基礎演習Ⅰa	1・2前	2		1				
	日本語学基礎演習Ⅰb	1・2後	2		1				
	日本語学基礎演習Ⅱa	未開講 1+2前	2		1				履修希望者がいなかったため未開講(29)
	日本語学基礎演習Ⅱb	1・2後	2		1				
	日本語学基礎演習Ⅲa	1・2前	2		1				
	日本語学基礎演習Ⅲb	1・2後	2		1				
	日本語学基礎演習Ⅳ	1・2前	2			1			
	日本語学総合演習a	1・2前	2		2	1			
	日本語学総合演習b	1・2後	2		2	1			
	日本語学発展演習Ⅰa	1・2前	2		1				
	日本語学発展演習Ⅰb	1・2後	2		1				
	日本語学発展演習Ⅱ	1・2後	2			1			
	日本文学先端研究Ⅰa	1・2前	2		1				
	日本文学先端研究Ⅰb	1・2後	2		1				
	日本文学先端研究Ⅱa	未開講 1+2前	2			1			履修希望者がいなかったため未開講(29)
	日本文学先端研究Ⅱb	1・2後	2			1			
	日本文学特論Ⅰa	1・2前	2		1				
	日本文学特論Ⅰb	1・2後	2		1				
	日本文学特論Ⅱa	1・2前	2			1			
	日本文学特論Ⅱb	1・2後	2			1			
	日本文学特論Ⅲa	未開講 1+2前	2		1				兼1 履修希望者がいなかったため未開講(29) 担当教員の変更(29)
	日本文学特論Ⅲb	1・2後	2		1				
	日本文学特論Ⅳa	1・2後 1+2前	2			1			兼1 カリキュラムの調整のため開講期変更(29) 担当教員の変更(29)
	日本文学特論Ⅳb	1・2後	2			1			
	日本文学特論Ⅴa	1+2前	2			1			兼1 担当教員の変更(29)
	日本文学特論Ⅴb	1・2後	2			1			
日本文学先端演習Ⅰa	未開講 1+2前	2		1				履修希望者がいなかったため未開講(29)	
日本文学先端演習Ⅰb	1・2後	2		1					
日本文学先端演習Ⅱa	1・2前	2			1				
日本文学先端演習Ⅱb	1・2後	2			1				
日本文学基礎演習Ⅰa	1・2前	2		1					
日本文学基礎演習Ⅰb	1・2後	2		1					
日本文学基礎演習Ⅱa	1・2前	2			1				
日本文学基礎演習Ⅱb	1・2後	2			1				

	日本文学総合演習a	1・2前	2		1	1			
	日本文学総合演習b	1・2後	2		1	1			
英語 英米 文学 分野	英語学特殊研究Ⅰa	未開講 1・2前	2		1				履修希望者がいなかったため未開講(29)
	英語学特殊研究Ⅰb	1・2後	2		1				
	英語学特殊研究Ⅱa	未開講 1・2前	2			1			履修希望者がいなかったため未開講(29)
	英語学特殊研究Ⅱb	1・2後	2			1			
	共時英語学基礎演習 a	未開講 1・2前	2		1				履修希望者がいなかったため未開講(29)
	共時英語学基礎演習 b	1・2後	2		1				
	通時英語学研究Ⅰa	未開講 1・2前	2		1				履修希望者がいなかったため未開講(29)
	通時英語学研究Ⅰb	1・2後	2		1				
	通時英語学研究Ⅱa	未開講 1・2前	2					兼 1	履修希望者がいなかったため未開講(29)
	通時英語学研究Ⅱb	1・2後	2					兼 1	
	英語学理論講義 a	未開講 1・2前	2				1		履修希望者がいなかったため未開講(29)
	英語学理論講義 b	1・2後	2				1		
	英語学特論 a	未開講 1・2前	2		1				履修希望者がいなかったため未開講(29)
	英語学特論 b	1・2後	2		1				
	英語学総合演習 a	未開講 1・2前	2		2				履修希望者がいなかったため未開講(29)
	英語学総合演習 b	1・2後	2		2				
	共時英語学演習Ⅰa	未開講 1・2前	2		1				履修希望者がいなかったため未開講(29)
	共時英語学演習Ⅰb	1・2後	2		1				
	共時英語学演習Ⅱa	未開講 1・2前	2				1		履修希望者がいなかったため未開講(29)
	共時英語学演習Ⅱb	1・2後	2				1		
	英語学理論演習 a	未開講 1・2前	2		1				履修希望者がいなかったため未開講(29)
	英語学理論演習 b	1・2後	2		1				
	近代英文学基礎演習a	1・2前	2		1				
	近代英文学基礎演習b	1・2後	2		1				
	イギリス小説研究Ⅰa	未開講 1・2前	2		1				履修希望者がいなかったため未開講(29)
	イギリス小説研究Ⅰb	1・2後	2		1				
	イギリス小説研究Ⅱa	1・2前	2		1				
	イギリス小説研究Ⅱb	1・2後	2		1				
	アメリカ文学研究 a	未開講 1・2前	2		1				履修希望者がいなかったため未開講(29)
	アメリカ文学研究 b	1・2後	2		1				
	英米文学研究Ⅰa	未開講 1・2前	2				1		履修希望者がいなかったため未開講(29)
	英米文学研究Ⅰb	1・2後	2				1		
英米文学研究Ⅱa	未開講 1・2前	2				1		履修希望者がいなかったため未開講(29)	
英米文学研究Ⅱb	1・2後	2				1			
英米児童文学研究	未開講 1・2前	2		1				履修希望者がいなかったため未開講(29)	
イギリス演劇・詩特殊研究a	未開講 1・2前	2		1				履修希望者がいなかったため未開講(29)	
イギリス演劇・詩特殊研究b	1・2後	2		1					
イギリス文化特殊研究a	1・2前	2		1				隔年開講(平成30年度開講予定)	
イギリス文化特殊研究b	1・2後	2		1					
イギリス小説特殊研究a	1・2前	2		1				隔年開講(平成30年度開講予定)	
イギリス小説特殊研究b	1・2後	2		1					
アメリカ文学特殊研究a	未開講 1・2前	2		1				履修希望者がいなかったため未開講(29)	

	アメリカ文学特殊研究b	1・2後	2	1					
フ ラ ン ス 語 フ ラ ン ス 文 学 分 野	フランス文学論 I	1・2後 1+2前	2	1				兼 1	担当教員の変更(29) カリキュラムの調整のため開講期変更(29)
	フランス文学論 II	1・2前	2	1					隔年開講(平成30年度開講予定)
	フランス語学論 I	1・2後	2		1				
	フランス語学論 II	1・2後	2		1				
	フランス語学基礎演習 I	未開講 1+2前	2	1	1				履修希望者がいなかったため未開講(29) 担当教員の変更(29)
	フランス語学基礎演習 II	1・2前	2	1	1				担当教員の変更(29) 隔年開講(平成30年度開講予定)
	フランス文学基礎演習 I	1・2後	2	1	1				担当教員の変更(29)
	フランス文学基礎演習 II	1・2後	2		1				
	フランス文化学研究 I a	未開講 1+2前	2		1				履修希望者がいなかったため未開講(29)
	フランス文化学研究 I b	1・2後	2		1				
	フランス文化学研究 II a	1・2前	2		1				隔年開講(平成30年度開講予定)
	フランス文化学研究 II b	1・2後	2		1				
	フランス文学基礎講読 I a	1・2前	2		1				
	フランス文学基礎講読 I b	1・2後	2		1				
	フランス文学基礎講読 II a	1・2前	2		1				隔年開講(平成30年度開講予定)
	フランス文学基礎講読 II b	1・2後	2		1				
	フランス文学特殊研究 I a	1・2前	2		1				
	フランス文学特殊研究 I b	1・2後	2	1	1				担当教員の変更(29)
	フランス文学特殊研究 II a	1・2前	2		1				隔年開講(平成30年度開講予定)
	フランス文学特殊研究 II b	1・2後	2		1				
	フランス語学特殊研究 I a	1・2前	2		1				
	フランス語学特殊研究 I b	1・2後	2	1	1				担当教員の変更(29)
	フランス語学特殊研究 II a	1・2前	2		1				隔年開講(平成30年度開講予定)
	フランス語学特殊研究 II b	1・2後	2		1				
	フランス文学特論 I a	1・2前	2	1	1				担当教員の変更(29)
	フランス文学特論 I b	1・2前 1+2後	2		1				カリキュラムの調整のため開講期変更(29)
	フランス文学特論 II a	1・2前	2		1				隔年開講(平成30年度開講予定)
フランス文学特論 II b	1・2後	2		1					
フランス語学特論 I a	1・2前	2	1	1				担当教員の変更(29)	
フランス語学特論 I b	1・2後	2		1					
フランス語学特論 II a	1・2前	2		1				隔年開講(平成30年度開講予定)	
フランス語学特論 II b	1・2後	2		1					
フランス文学総合演習 I a	1・2前	2		1					
フランス文学総合演習 I b	1・2後	2		1					
フランス文学総合演習 II a	1・2前	2		1				隔年開講(平成30年度開講予定)	
フランス文学総合演習 II b	1・2後	2		1					
ド イ ツ 語 ド イ ツ 文 学 分 野	ドイツ文学研究 I a	1・2前	2		1				
	ドイツ文学研究 I b	1・2後	2		1				
	ドイツ文学研究 II a	未開講 1+2前	2		1				履修希望者がいなかったため未開講(29)
	ドイツ文学研究 II b	1・2後	2		1				
	ドイツ文学上級演習 I a	1・2前	2		1				
	ドイツ文学上級演習 I b	1・2後	2		1				
	ドイツ文学上級演習 II a	1・2前	2		1				
	ドイツ文学上級演習 II b	1・2後	2		1				
	ドイツ文化学研究 I	未開講 1+2前	2		1				履修希望者がいなかったため未開講(29)
	ドイツ文化学研究 II	未開講 1+2前 1+2後	2		1				履修希望者がいなかったため未開講(29) カリキュラムの調整のため開講期変更(29)
ドイツ文化学研究 III	未開講 1+2前	2		1				履修希望者がいなかったため未開講(29)	
ドイツ文化学研究 IV	1・2後	2		1					
ドイツ文化学上級演習 I	1・2後	2		1					
ドイツ文化学上級演習 II	1・2後 1+2前	2		1				カリキュラムの調整のため開講期変更(29)	

	ドイツ文化学上級演習Ⅲ	1・2後	2		1				
	ドイツ文化学上級演習Ⅳ	1・2前	2		1				
	ドイツ語学研究Ⅰ	1・2後 1+2前	2	1				カリキュラムの調整のため開講期変更(29)	
	ドイツ語学研究Ⅱ	1・2後	2				兼1		
	ドイツ語学上級演習Ⅰ	未開講 1+2前 1+2後	2		1			履修希望者がいなかったため未開講(29) カリキュラムの調整のため開講期変更(29)	
	ドイツ語学上級演習Ⅱ	未開講 1+2前	2				兼1	履修希望者がいなかったため未開講(29)	
	ドイツ文学特殊研究Ⅰa	1・2前	2	1					
	ドイツ文学特殊研究Ⅰb	1・2後	2	1					
	ドイツ文学特殊研究Ⅱa	未開講 1+2前	2		1			履修希望者がいなかったため未開講(29)	
	ドイツ文学特殊研究Ⅱb	1・2後	2		1				
	ドイツ文化学特殊研究Ⅰa	1・2前	2	1					
	ドイツ文化学特殊研究Ⅰb	1・2後	2	1					
	ドイツ文化学特殊研究Ⅱa	未開講 1+2前	2	1				履修希望者がいなかったため未開講(29)	
	ドイツ文化学特殊研究Ⅱb	1・2後	2	1					
	ドイツ文化学特殊研究Ⅲa	1・2前	2		1				
	ドイツ文化学特殊研究Ⅲb	1・2後	2		1				
	ドイツ文化学特殊研究Ⅳ	1・2後	2		1				
中国語 中国 文学 分野	現代中国語学研究	1・2前	2		1				
	中国古典語学研究	1・2後	2		1				
	中国近現代文学研究	1・2後	2		1				
	中国古典文学研究Ⅰ	1・2後	2		1				
	中国古典文学研究Ⅱ	1・2前	2		1			隔年開講(平成30年度開講予定)	
	現代中国語学基礎演習a	1・2前	2	1					
	現代中国語学基礎演習b	1・2後	2		1				
	中国古典語学基礎演習	1・2後	2		1				
	中国古典文学基礎演習Ⅰ	1・2後	2		1				
	中国古典文学基礎演習Ⅱ	1・2前	2		1				
	中国近現代文学基礎演習	1・2後	2		1				
	中国古典語学特論	1・2前	2		1				
	現代中国語学特論	1・2後	2	1					
	中国古典文学特論Ⅰ	1・2前	2		1				
	中国古典文学特論Ⅱ	1・2後	2		1				
	中国近現代文学特論	1・2前	2		1				
	中国古典語学特殊研究a	1・2前	2		1				
	中国古典語学特殊研究b	1・2後	2		1				
	現代中国語学特殊研究Ⅰa	1・2前	2	1					
	現代中国語学特殊研究Ⅰb	1・2後	2	1					
	現代中国語学特殊研究Ⅱa	1・2前	2		1				
	現代中国語学特殊研究Ⅱb	1・2後	2		1				
	中国古典文学特殊研究Ⅰa	未開講 1+2前	2		1				履修希望者がいなかったため未開講(29)
	中国古典文学特殊研究Ⅰb	1・2後	2		1				
	中国古典文学特殊研究Ⅱa	1・2前	2		1				
	中国古典文学特殊研究Ⅱb	1・2後	2		1				
中国近現代文学特殊研究a	1・2前	2		1					
中国近現代文学特殊研究b	1・2後	2		1					
日本語 教育 学 分野	日本語教育学概論a	1・2前	2		1				
	日本語教育学概論b	1・2後	2		1				
	日本語文法表現論a	1・2前	2	1					
	日本語文法表現論b	1・2後	2	1					
	日本語教育文法論a	1・2前	2		1				
	日本語教育文法論b	1・2後	2		1				
	日本語教育学講義Ⅰa	1・2前	2	1					
	日本語教育学講義Ⅰb	1・2後	2	1					
	日本語教育学講義Ⅱa	1・2前	2		1				
	日本語教育学講義Ⅱb	1・2後	2		1				

	日本語教育学演習 I a	1・2前	2	1							
	日本語教育学演習 I b	1・2後	2	1							
	日本語教育学演習 II a	1・2前	2		1						
	日本語教育学演習 II b	1・2後	2		1						
	日本語教育学特殊研究 I a	1・2前	2	1							
	日本語教育学特殊研究 I b	1・2後	2	1							
	日本語教育学特殊研究 II a	1・2前	2		1						
	日本語教育学特殊研究 II b	1・2後	2		1						
	日本語教育学特殊研究 III a	1・2前	2		1						
	日本語教育学特殊研究 III b	1・2後	2		1						
	日本語教育基礎実習a	未開講 1・2前	2		1						履修希望者がいなかったため未開講(29)
	日本語教育基礎実習b	1・2後	2		1						
英語教育学分野	英語教授法概論	1前	2		1						
	第二言語習得論	1前	2	1							
	第二言語運用論	未開講 1前	2		1						履修希望者がいなかったため未開講(29)
	言語評価論	1前	2	1							
	言語教育科学論	1前	2	1							
	第二言語処理論	1前	2	1							
	英語コミュニケーション論	1前	2		1						
	英語教育学	1後	2	1							兼 1
	言語統計処理a	1前	2								兼 1
	言語統計処理b	1後	2								
	英語教材研究特論	1・2前	2	1							
	第二言語処理論演習	1・2後	2	1							
	英語教育学演習	1・2前	2	1							
	英語コミュニケーション論演習	1・2後	2		1						
	言語評価論演習	1・2後	2	1							
	言語教育科学論特論	1・2後	2	1							
	第二言語習得論特論	1・2後	2	1							
	第二言語運用論特論	1・2後	2		1						
	英語教授法特論	1・2後	2		1						
	第二言語処理論特論	1・2後	2	1							
英語教育学特論	1・2後	2	1								
応用日本語学分野	現代日本語学研究a	1・2前	2	1							
	現代日本語学研究b	1・2後	2	1							
	応用日本語学研究 I a	1・2前	2	1							
	応用日本語学研究 I b	1・2後	2	1							
	応用日本語学研究 II	1・2前	2		1						
	応用日本語学研究 III	1・2後	2		1						
	応用日本語学研究 IV	1・2後	2		1						
	日本語文法論 I	1・2前	2		1						
	日本語文法論 II	1・2後	2			1					
	日本事情論	1・2前	2	1							
	日本語意味論特殊研究a	1・2前	2	1							
	日本語意味論特殊研究b	1・2後	2	1							
	日本語意味論総合演習a	1・2前	2		1						
	日本語意味論総合演習b	1・2後	2		1						
	日本語語彙論特殊研究a	1・2前	2		1						
	日本語語彙論特殊研究b	1・2後	2		1						
	日本語教育方法論発展演習a	未開講 1・2前	2	1							履修希望者がいなかったため未開講(29)
	日本語教育方法論発展演習b	1・2後	2	1							
	日本語教育学特論a	1・2前	2		1						
	日本語教育学特論b	1・2後	2		1						
	日本語教材開発総合演習a	1・2前	2		1						
	日本語教材開発総合演習b	1・2後	2		1						
	日本語談話分析総合演習a	1・2前	2		1						
日本語談話分析総合演習b	1・2後	2		1							
日本語文化論	1・2後	2	1								

哲学倫理学領域	哲学分野	哲学・倫理学基礎演習Ⅰ	1・2前	2	1						
		哲学・倫理学基礎演習Ⅱ	1・2後	2	1						
		西洋哲学史基礎演習Ⅰ	1・2前	2	1						
		西洋哲学史基礎演習Ⅱ	1・2後	2	1						
		西洋哲学史基礎演習Ⅲ	1・2前	2		1					
		西洋哲学史基礎演習Ⅳ	1・2前 1・2後	2	1	1				カリキュラムの調整のため開講期変更(29) 担当教員の変更(29)	
		哲学・倫理学研究Ⅰ	1・2前	2	1						
		哲学・倫理学研究Ⅱ	1・2後	2		1					
		哲学・倫理学研究Ⅲ	1・2後	2	1						
		哲学・倫理学研究Ⅳ	1・2後 1・2前	2	1					カリキュラムの調整のため開講期変更(29)	
		西洋哲学史研究Ⅰ	1・2後	2	1						
		西洋哲学史研究Ⅱ	1・2後 1・2前	2	1	1				カリキュラムの調整のため開講期変更(29) 担当教員の変更(29)	
		哲学・倫理学発展演習Ⅰ	1・2前	2	2	2				担当教員の変更(29)	
		哲学・倫理学発展演習Ⅱ	1・2後	2	2	2				担当教員の変更(29)	
西洋古典学分野	西洋古典学分野	西洋古典学発展セミナーa	未開講 1・2前	2		1				履修希望者がいなかったため未開講(29)	
		西洋古典学発展セミナーb	1・2後	2		1					
		西洋古典学研究a	1・2前	2					兼1		
		西洋古典学研究b	1・2後	2					兼1		
		西洋古典文献学演習Ⅰa	未開講 1・2前	2		1				履修希望者がいなかったため未開講(29)	
		西洋古典文献学演習Ⅰb	1・2後	2		1					
		西洋古典文献学演習Ⅱa	未開講 1・2前	2					兼1	履修希望者がいなかったため未開講(29)	
		西洋古典文献学演習Ⅱb	1・2後	2					兼1		
		西洋古典学基礎演習Ⅰa	未開講 1・2前	2		1				履修希望者がいなかったため未開講(29)	
		西洋古典学基礎演習Ⅰb	1・2後	2		1					
		西洋古典学基礎演習Ⅱa	未開講 1・2前	2		1				履修希望者がいなかったため未開講(29)	
		西洋古典学基礎演習Ⅱb	1・2後	2		1					
		西洋古典学発展演習	未開講 1・2通 1・2前	2		1				履修希望者がいなかったため未開講(29) カリキュラムの調整のため開講期変更(29)	
		中国哲学分野	中国哲学分野	中国哲学史研究Ⅰ	未開講 1前	2	1				
中国哲学史研究Ⅱ	1後			2		1					
中国哲学史研究Ⅲ	未開講 1前			2					兼1	履修希望者がいなかったため未開講(29)	
中国哲学史基礎演習Ⅰa	1前			2	1						
中国哲学史基礎演習Ⅰb	1後			2	1						
中国哲学史基礎演習Ⅱa	未開講 1前			2	1	1				履修希望者がいなかったため未開講(29) 担当教員の変更(29)	
中国哲学史基礎演習Ⅱb	1後			2	1	1				担当教員の変更(29)	
中国哲学史基礎講読a	未開講 1前			2	1					履修希望者がいなかったため未開講(29)	
中国哲学史基礎講読b	1後			2	1						
中国哲学史発展演習Ⅰa	2前			2	1						
中国哲学史発展演習Ⅰb	2後			2	1						
中国哲学史発展演習Ⅱa	2前			2	1	1					
中国哲学史発展演習Ⅱb	2後			2	1	1				担当教員の変更(29)	
インド哲学分野	インド哲学分野			インド哲学研究Ⅰ	未開講 1前	2	1				
		インド哲学研究Ⅱ	1後	2		1			兼1	平成28年11月退職のため教員変更(29)	
		サンスクリット文献学演習Ⅰ	未開講 1前	2	1					履修希望者がいなかったため未開講(29)	
		サンスクリット文献学演習Ⅱ	1後	2		1			兼1	平成28年11月退職のため教員変更(29)	
		仏教思想史演習Ⅰ	1後	2	1						

		野	仏教思想史演習Ⅱ	未開講 1前	2	1					履修希望者がいなかったため未開講(29)	
			インド哲学総合演習a	未開講 1+2前	2	1	+				履修希望者がいなかったため未開講(29) 平成28年11月退職のため教員変更(29)	
			インド哲学総合演習b	1・2後	2	1	+				平成28年11月退職のため教員変更(29)	
			インド言語論演習Ⅰ	2前	2	1						
			インド言語論演習Ⅱ	2後	2	1						
			インド論理学演習	2後	2	1						
			インド宗教論演習	2前	2	1						
歴史文化系	歴史学・人類学領域		日本古代史研究	1・2前	2	1						
		日本中世史研究	1・2前 1+2後	2	1	+				カリキュラムの調整のため開講期変更(29) 担当教員の変更(29)		
		日本近世史研究	1・2前	2	1							
		日本近・現代史研究	1・2後	2	1	+				担当教員の変更(29)		
		日本古代史基礎演習a	未開講 1+2前	2	1					履修希望者がいなかったため未開講(29)		
		日本古代史基礎演習b	1・2後	2	1							
		日本中世史基礎演習a	1・2前	2	1							
		日本中世史基礎演習b	1・2後	2	1							
		日本近世史基礎演習a	未開講 1+2前	2	1					履修希望者がいなかったため未開講(29)		
		日本近世史基礎演習b	1・2後	2	1							
		日本近・現代史基礎演習a	未開講 1+2前	2	1					履修希望者がいなかったため未開講(29)		
		日本近・現代史基礎演習b	1・2後	2	1							
		日本史史料学基礎演習a	1・2前	2	1							
		日本史史料学基礎演習b	1・2後	2	1							
		日本古代史発展演習a	未開講 1+2前	2	1					履修希望者がいなかったため未開講(29)		
		日本古代史発展演習b	1・2後	2	1							
		日本中世史発展演習a	1・2前	2	1	+				担当教員の変更(29)		
		日本中世史発展演習b	1・2後	2	1	+				担当教員の変更(29)		
					日本近世史発展演習a	未開講 1+2前	2	1				履修希望者がいなかったため未開講(29)
					日本近世史発展演習b	1・2後	2	1				
			日本近・現代史発展演習a	未開講 1+2前	2	1	+			履修希望者がいなかったため未開講(29) 担当教員の変更(29)		
			日本近・現代史発展演習b	1・2後	2	1	+			担当教員の変更(29)		
東洋史学分野			中国史研究Ⅰ	未開講 1前	2					兼1	履修希望者がいなかったため未開講(29)	
	中国史研究Ⅱ	1後	2						兼1			
	中国民族史研究	1後	2			1						
	東南アジア史研究	1前	2			1						
	西南アジア史研究	1後	2					1				
	中国近世史史料講読a	未開講 1+2前	2			1				履修希望者がいなかったため未開講(29)		
	中国近世史史料講読b	1・2後	2			1						
	中国近代史演習a	未開講 1+2前	2			1				履修希望者がいなかったため未開講(29)		
	中国近代史演習b	1・2後	2			1						
	中国近世史演習a	1・2前	2			1						
	中国近世史演習b	1・2後	2			1						
	中国民族史演習a	1・2前	2			1						
	中国民族史演習b	1・2後	2			1						
	東南アジア近世史英書講読a	1・2前	2			1	1					
	東南アジア近世史英書講読b	1・2後	2			1	1					
	東南アジア近世史演習a	1・2前	2			1						
	東南アジア近世史演習b	1・2後	2			1						
	東洋史学方法論演習a	1・2前	2			2	1					
	東洋史学方法論演習b	1・2後	2			2	1					
				中国近代史史料演習a	未開講 1+2前	2						履修希望者がいなかったため未開講(29)

	中国古代史史料演習b	1・2後	2	1					
	中国近世史史料演習a	未開講 1+2前	2	1					履修希望者がいなかったため未開講(29)
	中国近世史史料演習b	1・2後	2	1					
	中国民族史史料演習a	未開講 1+2前	2		1				履修希望者がいなかったため未開講(29)
	中国民族史史料演習b	1・2後	2		1				
	東南アジア史史料演習a	未開講 1+2前	2	1					履修希望者がいなかったため未開講(29)
	東南アジア史史料演習b	1・2後	2	1					
西洋史学分野	西洋古代史研究a	1・2前	2	1					
	西洋古代史研究b	1・2後	2	1					
	西洋中世史研究a	1・2前	2	1	+				担当者の職位の変更(29)
	西洋中世史研究b	1・2後	2	1	+				担当者の職位の変更(29)
	西洋近代史研究a	1・2前	2	1					
	西洋近代史研究b	1・2後	2	1					
	西洋現代史研究Ⅰa	1・2前	2	1					隔年開講(平成30年度開講予定)
	西洋現代史研究Ⅰb	1・2後	2	1					
	西洋現代史研究Ⅱa	1・2前	2	1	+				担当者の職位の変更(29) 隔年開講(平成30年度開講予定)
	西洋現代史研究Ⅱb	1・2後	2	1	+				担当者の職位の変更(29)
	西洋古代史基礎演習a	1・2前	2	1					
	西洋古代史基礎演習b	1・2後	2	1					
	西洋中世史基礎演習a	1・2前	2	1	+				担当者の職位の変更(29)
	西洋中世史基礎演習b	1・2後	2	1	+				担当者の職位の変更(29)
	西洋近代史基礎演習a	未開講 1+2前	2	1					履修希望者がいなかったため未開講(29)
	西洋近代史基礎演習b	1・2後	2	1					
	西洋現代史基礎演習Ⅰa	1・2前	2	1					隔年開講(平成30年度開講予定)
	西洋現代史基礎演習Ⅰb	1・2後	2	1					
	西洋現代史基礎演習Ⅱa	未開講 1+2前	2		+				兼1 履修希望者がいなかったため未開講(29) 担当教員の変更(29)
	西洋現代史基礎演習Ⅱb	1・2後	2		+				兼1 担当教員の変更(29)
	西洋古代史発展演習a	1・2前	2	1					
	西洋古代史発展演習b	1・2後	2	1					
	西洋中世史発展演習a	1・2前	2	1	+				担当者の職位の変更(29)
	西洋中世史発展演習b	1・2後	2	1	+				担当者の職位の変更(29)
	西洋近代史発展演習a	未開講 1+2前	2	1					履修希望者がいなかったため未開講(29)
	西洋近代史発展演習b	1・2後	2	1					
	西洋現代史発展演習Ⅰa	1・2前	2	1					
	西洋現代史発展演習Ⅰb	1・2後	2	1					
西洋現代史発展演習Ⅱa	1・2前	2		+				兼1 隔年開講(平成30年度開講予定) 担当教員の変更(29)	
西洋現代史発展演習Ⅱb	1・2後	2		+				兼1 担当教員の変更(29)	
相関歴史科学特殊研究a	1・2前	2	4 3	2				担当教員の変更(29) 担当者の職位の変更(29)	
相関歴史科学特殊研究b	1・2後	2	4 3	2				担当教員の変更(29) 担当者の職位の変更(29)	
美学美術史学分野	日本美術史研究a	1・2前	2	1					
	日本美術史研究b	1・2後	2	1					
	日本美術史演習a	1・2前	2	1					
	日本美術史演習b	1・2後	2	1					
	西洋美術史演習Ⅰa	1・2前	2	1		1			担当教員の変更(29)
	西洋美術史演習Ⅰb	1・2後	2	1					
	西洋美術史演習Ⅱa	未開講 1+2前	2	1					履修希望者がいなかったため未開講(29)
	西洋美術史演習Ⅱb	1・2後	2	1					
	西洋美術史研究	1・2前	2	1					
	宗教芸術論研究	1・2後	2	1					
	視覚文化論演習a	1・2前	2	3					
視覚文化論演習b	1・2後	2	3						

考古学分野	先史考古学研究	1後	2	1							
	先史考古学基礎演習	1前	2	1							
	先史考古学発展演習	1後	2	1							
	歴史考古学研究	1後	2		1						
	歴史考古学基礎演習	1後 1前	2		1					カリキュラムの調整のため開講期変更(29)	
	外国考古学研究	1後	2								兼 1
	先史考古学特殊研究	2後 2前	2	1						カリキュラムの調整のため開講期変更(29)	
	先史考古学総合演習	2前	2	1	1						
	歴史考古学特殊研究	2前 2後	2		1					カリキュラムの調整のため開講期変更(29)	
	歴史考古学発展演習	1前	2		1						
	歴史考古学総合演習	2後	2	1	1						
	フィールド調査実習	1通	2	1	1			2 1		教育内容の充実のため教員追加(29)	
	文化人類学分野	日本思想文化特論	1前	2	1						
アーカイヴス・テキスト学基礎演習		1前 1後	2	1	1					カリキュラムの調整のため開講期変更(29) 教育内容の充実のため教員追加(29)	
アーカイヴス・テキスト学概論		1後 1前	2	1	1					カリキュラムの調整のため開講期変更(29) 教育内容の充実のため教員追加(29)	
アーカイヴス・テキスト学フィールドワーク実習		未開講 1前 1後	2	1	1					履修希望者がいなかったため未開講(29) カリキュラムの調整のため開講期変更(29) 教育内容の充実のため教員追加(29)	
宗教人類学基礎演習a		1前	2	1							
宗教人類学基礎演習b		1後	2	1							
社会人類学基礎講読a		1前	2	1							
社会人類学基礎講読b		1後	2	1							
現代人類学基礎演習a		未開講 1前	2		1					履修希望者がいなかったため未開講(29)	
現代人類学基礎演習b		1後	2		1						
現代人類学基礎講義		1後	2		1						
テキスト学先端研究		2前	2	1							
アーカイヴス・テキスト学発展演習		2後	2	1							
宗教人類学発展演習a		2前	2	1							
宗教人類学発展演習b		2後	2	1							
社会人類学発展演習a		2前	2	1							
社会人類学発展演習b		2後	2	1							
現代人類学発展演習a		2前	2		1						
現代人類学発展演習b		2後	2		1						
比較人文学総合演習	1・2通	2	2	2	2 1				教育内容の充実のため教員追加(29)		
総合文化学領域	映像批評分析論Ⅰ	1前	2	1	1					担当教員の変更(29)	
	映像批評分析論Ⅱ	1・2後	2		1						
	古典映像理論	未開講 1・2前 1・2後	2	1						履修希望者がいなかったため未開講(29) カリキュラムの調整のため開講期変更(29)	
	現代映像理論	1・2後	2	1							
	映像研究方法論Ⅰ	1後 1前	2	1	1					カリキュラムの調整のため開講期変更(29) 担当教員の変更(29)	
	映像研究方法論Ⅱ	1前 1後	2	1	2					カリキュラムの調整のため開講期変更(29) 教育内容の充実のため教員追加(29)	
	日本映画史Ⅰ	1・2前 1・2後	2	1						カリキュラムの調整のため開講期変更(29)	
	日本映画史Ⅱ	1・2後	2	1							
	アジア映画史Ⅰ	1・2後	2	1	2 1					教育内容の充実のため教員追加(29)	
	アジア映画史Ⅱ	未開講 1・2前	2		1					履修希望者がいなかったため未開講(29)	
	映像研究先端論	1・2後 1・2前	2	1	1					カリキュラムの調整のため開講期変更(29) 担当教員の変更(29)	

	視覚文化批評分析論	1・2後 4・2前	2		1				カリキュラムの調整のため開講期変更(29)
	映像文化特論 I	1・2前	2		1				
	映像文化特論 II	1・2前 4・2後	2		1				カリキュラムの調整のため開講期変更(29) 担当教員の変更(29)
	映像理論・実践特論 I	未開講 1・2前 4・2後	2						履修希望者がいなかったため未開講(29) カリキュラムの調整のため開講期変更(29)
	映像理論・実践特論 II	1・2後 4・2前	2						カリキュラムの調整のため開講期変更(29)
日本文化学分野	日本文化論a	1・2前	2		1				
	日本文化論b	1・2後	2		1				
	日本近現代文化研究 I a	1・2前	2		1				
	日本近現代文化研究 I b	1・2後	2		1				
	日本近現代文化研究 II	1・2後	2						履修希望者がいなかったため未開講(29)
	日本近現代文化研究 III	未開講 1・2前	2						
	日本文化学超域研究a	1・2前	2		3				
	日本文化学超域研究b	1・2後	2		3				
	日本文化学特殊研究 I a	1・2前	2		1				
	日本文化学特殊研究 I b	1・2後	2		1				
	日本文化学特殊研究 II a	1・2前	2						1
	日本文化学特殊研究 II b	1・2後	2						1
	日本文化学特論a	1・2前	2		1				
	日本文化学特論b	1・2後	2		1				
	表象文化論 I a	1・2前	2		1				
	表象文化論 I b	1・2後	2		1				
表象文化論 II	1・2後	2		1					
文化動態学分野	国際社会動態論 I a	1・2前	2						
	国際社会動態論 I b	1・2後	2						
	国際社会動態論 II a	1・2前	2						隔年開講(平成30年度開講予定)
	国際社会動態論 II b	1・2後	2						
	多元文化論 I	1・2前	2						
	多元文化論 II	1・2後 4・2前	2						カリキュラムの調整のため開講期変更(29)
	多元文化論 III	未開講 1・2前 4・2後	2						履修希望者がいなかったため未開講(29) カリキュラムの調整のため開講期変更(29)
	多元文化論 IV	1・2後	2						1
	文化動態学講義 I a	1・2前	2		1				
	文化動態学講義 I b	1・2後	2		1				
	文化動態学講義 II a	1・2前	2		1				隔年開講(平成30年度開講予定)
	文化動態学講義 II b	1・2後	2		1				隔年開講(平成30年度開講予定)
	文化動態学総合演習 I a	1・2前	2		1				
	文化動態学総合演習 I b	1・2後	2		1				
	文化動態学総合演習 II a	未開講 1・2前	2		1				履修希望者がいなかったため未開講(29)
	文化動態学総合演習 II b	1・2後	2		1				
	文化動態学総合演習 III a	1・2前	2						1
	文化動態学総合演習 III b	1・2後	2						1
	文化動態学総合演習 IV a	1・2前	2						1
	文化動態学総合演習 IV b	1・2後	2						1
文化動態学総合演習 V a	1・2前	2						1	
文化動態学総合演習 V b	1・2後	2						1	
文化動態学総合演習 VI a	1・2前	2						1	
文化動態学総合演習 VI b	1・2後	2						1	
ジェンダ	ジェンダー批評概論	1・2前	2		1				
	ジェンダー学概論	1・2後	2						1
	テキスト分析方法論	1・2前	2		1				
	社会調査方法論	1・2前	2						1
	セクシュアリティ論	1・2前	2		1				

1 学分野	デジタル文化・社会論	1・2前 1・2後	2		1			カリキュラムの調整のため開講期変更(29)	
	ジェンダー学リサーチ演習 I a	1・2前	1		1				
	ジェンダー学リサーチ演習 I b	1・2後	1		1				
	ジェンダー学リサーチ演習 II a	1・2前	1		1				
	ジェンダー学リサーチ演習 II b	1・2後	1		1				
	ジェンダー学リサーチ演習 III a	1・2前	1			1			
	ジェンダー学リサーチ演習 III b	1・2後	1			1			
	ジェンダー学リサーチ演習 IV a	1・2前	1			1			
	ジェンダー学リサーチ演習 IV b	1・2後	1			1			
	ジェンダー批評	1・2後	2		1				
	クィア理論	1・2後	2		1				
	文化記号論	1・2後	2			1			
	オンライン・コミュニケーション	1・2後 1・2前	2			1		カリキュラムの調整のため開講期変更(29)	
	ジェンダー学特論a	1・2前	2			1			
	ジェンダー学特論b	1・2後	2			1			
	言語文化／歴史文化系	高度実践英語科目群	英米文化演習a	1・2前	2		1		
			英米文化演習b	1・2後	2		1		
			英語圏文化研究a	1・2前	2			1	
			英語圏文化研究b	1・2後	2			1	
			英語教授法	未開講 1・前	2			1	
英語習得論			未開講 1・前	2			1		履修希望者がいなかったため未開講(29)
英語情報処理演習			未開講 1・前	2		1			履修希望者がいなかったため未開講(29)
英語教育測定評価論			未開講 1・前	2		1			履修希望者がいなかったため未開講(29)
英語教材開発演習			1前	2		1			
翻訳理論a			1・2前	2		1			
翻訳理論b			1・2後	2		1			
通訳技術演習 I a			1・2前	2					兼 1
通訳技術演習 I b			1・2後	2					兼 1
英語表現演習 I b			1後	2			1		
言語処理プログラミング演習a			未開講 1・2前	2			1		履修希望者がいなかったため未開講(29)
言語処理プログラミング演習b			1・2後	2			1		
英語圏文化特殊研究a			1・2前	2		1			隔年開講(平成30年度開講予定)
英語圏文化特殊研究b			1・2後	2		1			
英語習得論特論			1・2後	2		1			
英語習得論演習			1・2後	2			1		
英語教育測定評価論演習			1・2後	2		1			
英語e-ラーニング開発演習			1・2前	2		1			
英語e-ラーニング開発特論			1・2後	2		1			
英語教育実践演習			未開講 1・2前	2		3			履修希望者がいなかったため未開講(29)
翻訳技術演習a			1・2前	2		1			隔年開講(平成30年度開講予定)
翻訳技術演習b			1・2後	2		1			
通訳技術演習a			1・2前	2					兼 1
通訳技術演習b			1・2後	2					兼 1
英語表現演習 I a			2前	2			1		
英語表現演習 II a			1・2前	2		1			
英語表現演習 II b			1・2後	2		1			
英語表現演習 III a			1・2前	2			1		
英語表現演習 III b	1・2後	2			1				
英語表現演習 IV	1・2後	2		1					
多文化	井	グローバル化社会共生論 I	1・2前	2		1			
		グローバル化社会共生論 II	1・2前	2		1		隔年開講(平成30年度開講予定)	
		グローバル化社会共生論 III	1・2後	2		1			
		グローバル化社会共生論 IV	1・2前	2		1			
		グローバル化社会共生論 V	1・2後	2		1			

〔生 科 目 群〕	地域社会共生論Ⅰ	1・2前	2		1				
	地域社会共生論Ⅱ	1・2後	2		1				
	地域社会共生論Ⅲ	1・2後	2		1				
	多文化共生基礎演習Ⅰ	1・2通 4・2前	2		4 1			カリキュラムの調整のため開講期変更(29) 教育内容の充実のため教員追加(29)	
	多文化共生基礎演習Ⅱ	1・2後 4・2前	2		1			カリキュラムの調整のため開講期変更(29)	
	多文化共生基礎演習Ⅲ	1・2前 4・2後	2		1			カリキュラムの調整のため開講期変更(30)	
	多文化共生基礎演習Ⅳ	1・2後	2		1				
	多文化共生基礎演習Ⅴ	未開講 4・2前	2		1	1		履修希望者がいなかったため未開講(29) 担当教員の変更(29)	
	多文化共生基礎演習Ⅵa	1・2前	2		1	1		隔年開講(平成30年度開講予定) 担当教員の変更(29)	
	多文化共生基礎演習Ⅵb	1・2後	2		1	1		担当教員の変更(29)	
	多文化共生基礎演習Ⅶa	未開講 4・2前	2		1			履修希望者がいなかったため未開講(29)	
	多文化共生基礎演習Ⅶb	1・2後	2		1				
	多文化共生特殊研究Ⅰa	1・2前	2		1			隔年開講(平成30年度開講予定)	
	多文化共生特殊研究Ⅰb	1・2後	2		1				
	多文化共生特殊研究Ⅱa	1・2前	2		1				
	多文化共生特殊研究Ⅱb	1・2後	2		1				
	多文化共生実地研修特論	1・2後	2					兼 1	
	多文化共生実地研修実習	未開講 4・2前	1					兼 1 履修希望者がいなかったため未開講(29)	
	多文化共生総合演習Ⅰa	未開講 4・2前	2		2 1	4		教育内容の充実のため教員追加(29) 履修希望者がいなかったため未開講(29)	
	多文化共生総合演習Ⅰb	1・2後	2		2 1	4		教育内容の充実のため教員追加(29)	
	多文化共生総合演習Ⅱa	1・2前	2		1	1		隔年開講(平成30年度開講予定) 担当教員の変更(29)	
	多文化共生総合演習Ⅱb	1・2後	2		1	1		担当教員の変更(29)	
	多文化共生総合演習Ⅲa	未開講 4・2通 4・2前	2		1	1		履修希望者がいなかったため未開講(29) カリキュラムの調整のため開講期変更(29) 教育内容の充実のため教員追加(29)	
	多文化共生総合演習Ⅲb	1・2後	2		1	1		教育内容の充実のため教員追加(29)	
	多文化共生総合演習Ⅳa	未開講 4・2前	2		1	1		履修希望者がいなかったため未開講(29) 担当教員の変更(29)	
	多文化共生総合演習Ⅳb	1・2後	2		1 2	1		担当教員の変更(29)	
	多文化共生総合演習Ⅴa	未開講 4・2前	2		1			履修希望者がいなかったため未開講(29)	
	多文化共生総合演習Ⅴb	1・2後	2		1				
	多文化共生総合演習Ⅵa	未開講 4・2前	2		1			履修希望者がいなかったため未開講(29)	
	多文化共生総合演習Ⅵb	1・2後	2		1				
	〔国 際 科 目 群 (言 語 学 ・ 文 化 研 究)〕	第二言語習得Ⅰa	1後	2		1			
		第二言語習得Ⅰb	1・2前	2		1			
第二言語習得Ⅱa		1後	2		1				
第二言語習得Ⅱb		1前	2		1				
第二言語習得Ⅲa		1後	2		1				
第二言語習得Ⅲb		1前	2		1				
言語と社会Ⅰ		1・2後 4・2前	2		1			カリキュラムの調整のため開講期変更(29)	
言語と社会Ⅱ		1・2前	2		1				
言語と社会Ⅲ		1・2後	2		1				
言語と社会Ⅳ		1前	2			1			
理論的言語学Ⅰ		1・2後	2		1				
理論的言語学Ⅱ		1後	2		1				
中国・日本の出版文化		1後	2		1				
日本中世文化論	1後	2		1					
日本視覚文化論	1後	2		1					

	日本古典文学論	1後	2		1						
	日本近世文化論	1前	2		1						
	日本近世文学論	1前	2		1						
	世界のアニメーション	1後	2	1							
	ジェンダーとセクシュアリティ	1前	2	1							
	オンライン・コミュニケーション	1後	2		1						
	近現代日本の技術文化論	1後	2			1					
	メディア・ディスコース	1前	2	1							
	批評理論	1後	2		1						
	文学理論	1後 1前	2		1						カリキュラムの調整のため開講期変更(29)
	比較文学	1後	2		1						
	比較文化	1前	2		1						
	リサーチ・スキルズa	1後	2							兼 1	
	リサーチ・スキルズb	1前	2							兼 1	
	第二言語理解論a	1・2後	2	1							
	第二言語理解論b	1・2前	2	1							
	応用言語学 I a	1・2後	2	1							
	応用言語学 I b	1・2前	2	1							
	日本語言語学	1・2後	2		1						
	言語類型論と日本語	1・2前	2	1							
	文化研究概論	1・2前	2		1						
	日本絵巻物研究	1・2前	2		1						
	モダニズムと翻訳	1・2後	2	1							
国際科目群 (アジアの中の日本文化)	文化・歴史研究方法論 I	1・2後	2					1			
	文化・歴史研究方法論 II	1・2前	2					1			
	社会的行為と言語	1・2前	2			1					
	思想史	1・2前	2	1							
	中世日本文化	1・2後	2		1						
	近世日本文化	1・2前	2		1						
	中国・日本の印刷文化	1・2後	2		1						
	近代日本文化とアジア	1・2後	2		1						
	近代日本史講読	1・2後	2		1						
	世界史の中の東アジア	1・2前	2		1						
	近代日本史への新視点	1・2前	2		1						
	古典日本文学	1・2後	2		1						
	近世日本文学	1・2前	2		1						
	文学テキスト分析	1・2後	2		1						
	日本文学と翻訳	1・2前	2		1						
	文学と東アジア	1・2前	2								兼 1
	日本文学とジェンダー	1・2前	2		1						
	トランスナショナル/マイノリティ文学	1・2後	2		1						
	近代日本文学への新視点	1・2前	2		1						
	映像テキスト分析	1・2後	2		1						
	古典映像理論	1・2前	2	1							
	現代映像理論	1・2前	2	1							
	1945年以前の日本映画	1・2後	2	1							
	1945年以後の日本映画	1・2後	2	1							
	1945年以前のアジア映画	1・2後	2		1						
	1945年以後のアジア映画	1・2前	2		1						
	映像学への新視点	1・2前	2		1						
	視覚文化テキスト分析	1・2前	2		1						
	日本の視覚文化	1・2前	2		1						
	大学院演習：近代日本史 I	1・2後	2		1						
	大学院演習：近代日本史 II	1・2前	2		1						
	大学院演習：文学理論・実践 I	1・2後	2		1						
	大学院演習：文学理論・実践 II	1・2前	2		1						
	大学院演習：映像理論・実践 I	1・2後	2		1						
	大学院演習：映像理論・実践 II	1・2前	2		1						

- (注) ・ 認可申請書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
- ・ 設置認可時の授業科目全て(兼任、兼任教員が担当する科目を含む。)を黒字で記載してください。その上で、前年度報告時(平成28年度に認可(届出)された大学等は設置認可(届出)時)より変更されているものは赤字見え消し修正し、「備考」に赤字で理由・変更年月等を記入してください。
 - ・ なお、昨年度の報告書において赤字で見え消した部分については、見え消しそのまま黒字にしてください。
 - ・ 兼任、兼任の教員が担当する授業科目については、備考欄に担当する教員数を「兼〇」と記入してください。
 - ・ 授業科目を追加又は内容を変更する場合、専任教員が担当するため教員審査が必要なものについては、「専任教員採用等設置計画変更書」の審査予定年月等を「備考」に記入してください。(今後審査を受ける場合には、「平成〇年〇月 提出予定」と記入してください。)
 - ・ 「配当年次」について、設置認可申請時に開講時期を記入する必要がなかった学部等(平成19年度認可以前)についても、設置認可時の状況を黒字で記入してください。また、前年度報告時より修正があれば、赤字で見え消し修正をしてください。
 - ・ 履修希望者がいなかったため未開講(29)に未開講となった科目についても記入してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計(A)	必修	選択	自由	計	
科目	科目	科目	科目	科目	科目	科目	科目	
2	698	0	700	2	698	0	700	
				[0]	[0]	[0]	[0]	

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[]内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：△1)

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由, 代替措置の有無
1	該当なし					
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあった授業科目が配当年次に達しているにも関わらず, 何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお, 理由については可能な限り具体的に記入してください。
 ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については, 記入しないでください。
 ・ 教職大学院の場合は, 「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由, 代替措置の有無
1	該当なし					
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり, 何らかの理由で廃止(教育課程から削除)した授業科目について記入してください。なお, 理由については可能な限り具体的に記入してください。
 ・ 教職大学院の場合は, 「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{\quad}{700} = \boxed{\quad} \%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て, 小数点以下第2位までを記入してください。
 ・ 「未開講科目と廃止科目の計」が, 「(3)未開講科目」と「(4)廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況, 経費

区 分		内 容				備考					
(1) 校地等	区 分	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計	大学全体 うち附属病院 51,789㎡					
	校舎敷地	617,966 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	617,966 ㎡						
	運動場用地	105,994 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	105,994 ㎡						
	小 計	723,960 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	723,960 ㎡						
	そ の 他	2,495,186 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	2,495,186 ㎡						
	合 計	3,219,146 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	3,219,146 ㎡						
(2) 校舎	専 用	578,743 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	578,743 ㎡	大学全体					
	(578,743 ㎡)	(0 ㎡)	(0 ㎡)	(578,743 ㎡)							
(3) 教室等	講義室	234 室	演習室	240 室	実験実習室	1,326 室	情報処理学習施設	17 室	語学学習施設	14 室	大学全体
	(補助職員 1 人)		(補助職員 0 人)								
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称				室 数						
	人文学研究科 人文学専攻				134 室						
(5) 図書・設備	新設学部等の名称	図 書	学術雑誌	電子ジャーナル	視聴覚資料	機械・器具	標 本				
		〔うち外国書〕	〔うち外国書〕						〔うち外国書〕		
	人文学研究科 人文学専攻	596,741 [252,195] (580,346 [245,395])	(5,365 [1,972]) (5,365 [1,972])	82 [82] (82 [82])	5,807 (5756)	43 (43)	0 (0)				
	計	596,741 [252,195] (580,346 [245,395])	(5,365 [1,972]) (5,365 [1,972])	82 [82] (82 [82])	5,807 (5756)	(43)	0 (0)				
(6) 図書館	面 積	24,829 ㎡	閱 覧 座 席 数	2,031 席	収 納 可 能 冊 数	3,140,500 冊	大学全体				
	面 積										
(7) 体育館	面 積						9,229 ㎡	弓道場, プール (25m×7コース), 陸上競技場 (400mトラック), テニスコート (11面), 野球場 (1面), 相撲道場・ボクシング練習場・ゴルフ練習場・アーチェリー練習場・ライフル射撃場 (各1か所)	大学全体		
	体育館以外のスポーツ施設の概要										
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度			
		教員 1 人当り研究費等	千円	千円	図書購入費	千円	千円	千円			
	共同研究費等	千円	千円	設備購入費	千円	千円	千円				
	学生 1 人当り納付金	第 1 年次	第 2 年次	第 3 年次	第 4 年次	第 5 年次	第 6 年次				
		千円	千円	千円	千円	千円	千円				
	学生納付金以外の維持方法の概要										

- (注) ・ 設置時の計画を, 申請書の様式第 2 号 (その 1 の 1) に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合, 複数の様式に分ける必要はありません。なお, 「(1) 校地等」及び「(2) 校舎」は大学全体の数字を, その他の項目は AC 対象学部等の数値を記入してください。)
- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は, その旨 (所要時間・距離等) を「備考」に記入してください。
 - ・ 「(5) 図書・設備」については, 上段に完成年度の予定数値を, 下段には平成 29 年 5 月 1 日現在の数値を記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては, 変更部分を赤字で見え消し修正するとともに, その理由及び報告年度「(29)」を「備考」に赤字で記入してください。
なお, 昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については, 見え消しのまま黒字にしてください。
 - ・ 校舎等建物の計画の変更 (校舎又は体育館の総面積の減少, 建築計画の遅延) がある場合には, 「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
 - ・ 国立大学については「(8) 経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4 既設大学等の状況

大学の名称	名古屋大学							備考	
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	開年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍			
文学部 人文学科	4	125	3年次10	520 520	学士(文学)	1.06	昭和24年度 平成8年度	愛知県名古屋市千種区不老町	
教育学部 人間発達科学科	4	65	3年次10	280 280	学士(教育学)	1.10	昭和24年度 平成9年度	愛知県名古屋市千種区不老町	
法学部 法律・政治学科	4	150	3年次10	620 620	学士(法学)	1.05	昭和24年度 平成9年度	愛知県名古屋市千種区不老町	
経済学部 経済学科	4	140		840 560	学士(経済学)	1.06	昭和24年度 昭和24年度	愛知県名古屋市千種区不老町	経済学部の定員超過率については、学部単位で入学者を募集しているため学部単位で記入した。
経営学科	4	65		260	学士(経済学)		昭和24年度		
学部共通				20					
情報文化学部 自然情報学科	4	—		—	学士(情報文化学)	—	平成5年度 平成5年度	愛知県名古屋市千種区不老町	平成29年より学生募集停止 平成29年より学生募集停止
社会システム情報学科	4	—		—	学士(情報文化学)	—	平成5年度		
学部共通			3年次10	20					
情報学部 自然情報学科	4	38	—	135 38	学士(情報学)	1.02	平成29年度 平成29年度	愛知県名古屋市千種区不老町	
人間・社会情報学科	4	38	—	38	学士(情報学)	1.02	平成29年度		
コンピュータ科学科	4	59	—	59	学士(情報学)	1.11	平成29年度		
理学部 数理学科	4	55	—	1080 220	学士(理学)	1.05	昭和24年度 平成7年度	愛知県名古屋市千種区不老町	理学部の定員超過率については、学部単位で入学者を募集しているため学部単位で記入した。
物理学科	4	90	—	360	学士(理学)		昭和24年度		
化学科	4	50	—	200	学士(理学)		昭和24年度		
生命理学科	4	50	—	200	学士(理学)		平成8年度		
地球惑星科学科	4	25	—	100	学士(理学)		平成4年度		
医学部 医学科	6	107	3年次5	1520 662	学士(医学)	1.01	昭和24年度 昭和24年度	愛知県名古屋市昭和区鶴舞町65	
保健学科	4	200	3年次20 2年次6	858	学士(看護学) 学士(保健学) 学士(リハビリテーション学)	1.04	平成9年度	愛知県名古屋市東区大幸南1-1-20	

大学の名称	名古屋大学								備考	
既設学部等の名称	修業年限	入学員	編入学員	収容員	学位又は称号	平均入学定員超過率	開年度	所在地		
	年	人	年次人	人		倍				
工学部				—				昭和24年度 平成8年度	愛知県名古屋市千種区不老町	平成29年より学生募集停止 平成29年より学生募集停止 平成29年より学生募集停止 平成29年より学生募集停止 平成29年より学生募集停止 平成29年より学生募集停止
化学・生物工学科	4	—	—	—	学士（工学）	—				
物理工学科	4	—	—	—	学士（工学）	—	平成9年度			
電気電子・情報工学科	4	—	—	—	学士（工学）	—	平成7年度			
機械・航空工学科	4	—	—	—	学士（工学）	—	平成6年度			
環境土木・建築学科	4	—	—	—	学士（工学）	—	平成8年度			
化学生命工学科	4	99	—	99	学士（工学）	1.04	平成29年度			
物理工学科	4	83	—	83	学士（工学）	1.04	平成29年度			
マテリアル工学科	4	110	—	110	学士（工学）	0.99	平成29年度			
電気電子情報工学科	4	118	—	118	学士（工学）	1.02	平成29年度			
機械・航空宇宙工学科	4	150	—	150	学士（工学）	1.04	平成29年度			
エネルギー理工学科	4	40	—	40	学士（工学）	0.95	平成29年度			
環境土木・建築学科	4	80	—	80	学士（工学）	1.00	平成29年度			
農学部				680				昭和26年度	愛知県名古屋市千種区不老町	
生物環境科学科	4	35	—	140	学士（農学）	1.07	平成18年度			
資源生物科学科	4	55	—	220	学士（農学）	1.05	平成18年度			
応用生命科学科	4	80	—	320	学士（農学）	1.06	平成18年度			

大学の名称	名古屋大学								備考	
既設学部等の名称	修業年限	入学員	編入学員	収容員	学位又は称号	平均入学定員超過率	開年度	所在地		
	年	人	年次人	人		倍				
文学研究科								昭和28年度 平成12年度	愛知県名古屋市千種区不老町	平成29年より学生募集停止
人文学専攻 （博士前期課程）	2	—	—	—	修士（文学） 修士（歴史学）	—				
（博士後期課程）	3	—	—	—	博士（文学） 博士（歴史学）	—				
人文学研究科							平成29年度 平成29年度			
人文学専攻 （博士前期課程）	2	104	—	104	修士（文学） 修士（歴史学） 修士（学術）	1.03			愛知県名古屋市千種区不老町	
（博士後期課程）	3	61	—	61	博士（文学） 博士（歴史学） 博士（学術）	0.86				

大学の名称	名古屋大学							備考
既設学部等の名称	修業年限	入学員 入定	編入学員 入定	収容員 入定	学位又は 称号	平均入学 定員 超過率	開 設 年 度	所 在 地
	年	人	年次 人	人		倍		
教育発達科学研究科 教育科学専攻 (博士前期課程)	2	32	—	64	修士(教育学)	0.67	昭和28年度 平成12年度	愛知県名古屋市千種区不老町
(博士後期課程)	3	16	—	48	修士(教育) 博士(教育学) 博士(教育)	0.99		
心理発達科学専攻 (博士前期課程)	2	22	—	44	修士(心理学) 修士(臨床心理学)	0.83	平成12年度	
(博士後期課程)	3	15	—	45	博士(心理学)	1.06		
法学研究科 綜合法政専攻 (博士前期課程)	2	35	—	70	修士(法学) 修士(比較法学) 修士(現代法学)	0.87	昭和28年度 平成16年度	愛知県名古屋市千種区不老町
(博士後期課程)	3	17	—	51	博士(法学) 博士(比較法学) 博士(現代法学)	0.72		
実務法曹養成専攻 (専門職学位課程)	3	50	—	170	法務博士 (専門職)	0.52	平成16年度	
経済学研究科 社会経済システム専攻 (博士前期課程)	2	30	—	60	修士(経済学) 修士(経営管理学)	0.84	昭和28年度 平成12年度	愛知県名古屋市千種区不老町
(博士後期課程)	3	15	—	45	博士(経済学)	0.51		
産業経営システム専攻 (博士前期課程)	2	14	—	28	修士(経済学)	1.25	平成12年度	
(博士後期課程)	3	7	—	21	博士(経済学)	0.76		
情報学研究科 数理情報学専攻 (博士前期課程)	2	14	—	14	修士(情報学) 修士(学術)	0.78	平成29年度 平成29年度	愛知県名古屋市千種区不老町
(博士後期課程)	3	4	—	4	修士(情報学) 修士(学術)	0.75		

大学の名称	名古屋大学							備考
既設学部等の名称	修業 年限	入 学 員	編入学 定員	収 容 員	学位又 は称号	平均入学 定員 超過率	開 年 設 度	所 在 地
	年	人	年次 人	人		倍		
複雑系科学専攻 (博士前期課程)	2	36	—	36	修士(情報学)	1.27	平成29年度	
(博士後期課程)	3	8	—	8	修士(情報学) 修士(学術)	0.75		
社会情報学専攻 (博士前期課程)	2	18	—	18	修士(情報学)	0.88	平成29年度	
(博士後期課程)	3	5	—	5	修士(情報学) 修士(学術)	0.80		
心理・認知科学専攻 (博士前期課程)	2	15	—	15	修士(情報学)	0.33	平成29年度	
(博士後期課程)	3	7	—	7	修士(情報学) 修士(学術)	1.42		
情報システム学専攻 (博士前期課程)	2	32	—	32	修士(情報学)	0.96	平成29年度	
(博士後期課程)	3	9	—	9	修士(情報学) 修士(学術)	0.66		
知能システム学専攻 (博士前期課程)	2	29	—	29	修士(情報学)	1.13	平成29年度	
(博士後期課程)	3	10	—	10	修士(情報学) 修士(学術)	0.60		
理学研究科 素粒子宇宙物理学専攻 (博士前期課程)	2	66	—	132	修士(理学)	1.08	昭和28年度 平成7年度	愛知県名古屋市千種区不老町
(博士後期課程)	3	30	—	90	博士(理学)	0.73		
物質理学専攻 (博士前期課程)	2	63	—	126	修士(理学)	1.21	平成7年度	
(博士後期課程)	3	22	—	67	博士(理学)	0.68		

大学の名称	名古屋大学								備考
既設学部等の名称	修業 年限	入 定 学 員	編入学 定 員	収 定 容 員	学位又 は称号	平均入学 定員 超過率	開 年 設 度	所 在 地	
	年	人	年次 人	人		倍			
生命理学専攻 (博士前期課程)	2	42	—	84	修士(理学)	1.03	平成8年度		
(博士後期課程)	3	18	—	55	博士(理学)	0.30			
名古屋大学・エディンバラ大学国際連携理学専攻 (博士後期課程)	3	2	—	4	博士(理学)	0.25	平成29年度		
医学系研究科 総合医学専攻 (博士課程)	4	153	—	628	博士(医学)	1.14	昭和30年度 平成25年度	愛知県名古屋市昭和区鶴舞町65	
名古屋大学・アデレード大学国際連携総合医学専攻 (博士課程)	4	4	—	12	博士(医学)	0.33	平成27年度		
名古屋大学・ルンド大学国際連携総合医学専攻 (博士課程)	4	4	—	4	博士(医学)	0.50	平成29年度		
分子総合医学専攻 (博士課程)	4	—	—	—	博士(医学)	—	平成12年度		平成25年より募集停止
細胞情報医学専攻 (博士課程)	4	—	—	—	博士(医学)	—	平成11年度		平成25年より募集停止
機能構築医学専攻 (博士課程)	4	—	—	—	博士(医学)	—	平成12年度		平成25年より募集停止
健康社会医学専攻 (博士課程)	4	—	—	—	博士(医学)	—	平成10年度		平成25年より募集停止
医科学専攻 (修士課程)	2	20	—	40	修士(医科学)	1.07	平成13年度		
医療行政コース	1	10	—	10	修士(医療行政学)	1.00			
看護学専攻 (博士前期課程)	2	18	—	36	修士(看護学)	0.86	平成14年度	愛知県名古屋市東区大幸南1-1-20	
(博士後期課程)	3	6	—	18	博士(看護学)	1.33			

大学の名称	名古屋大学							備考		
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学員定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	開年度	所在地		
	年	人	年次人	人		倍				
医療技術学専攻 (博士前期課程)	2	20	—	40	修士(医療技術学)	1.27	平成14年度	愛知県名古屋市東区大幸南1-1-20		
(博士後期課程)	3	7	—	21	博士(医療技術学)	0.56				
リハビリテーション療法学専攻 (博士前期課程)	2	10	—	20	修士(リハビリテーション療法学)	1.40	平成14年度		愛知県名古屋市東区大幸南1-1-20	
(博士後期課程)	3	4	—	12	博士(リハビリテーション療法学)	1.50				
工学研究科 化学・生物工学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(工学)	—	昭和28年度 平成16年度	愛知県名古屋市千種区不老町	平成29年より学生募集停止	
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(工学)	—				
マテリアル理工学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(工学)	—	平成16年度		平成29年より学生募集停止	
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(工学)	—				
電子情報システム専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(工学)	—	平成16年度		平成29年より学生募集停止	
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(工学)	—				
機械理工学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(工学)	—	平成16年度		平成29年より学生募集停止	
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(工学)	—				
航空宇宙工学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(工学)	—	昭和35年度		平成29年より学生募集停止	
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(工学)	—				
社会基盤工学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(工学)	—	平成16年度		平成29年より学生募集停止	
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(工学)	—				

大学の名称	名古屋大学								備考
既設学部等の名称	修業 年限	入 学 定 員	編入学 定 員	収 容 定 員	学位又 は称号	平均入学 定員 超過率	開 設 年 度	所 在 地	
	年	人	年次 人	人		倍			
結晶材料工学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(工学)	—	昭和52年度		平成29年より学生 募集停止
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(工学)	—			
エネルギー理工学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(工学)	—	平成5年度		平成29年より学生 募集停止
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(工学)	—			
量子工学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(工学)	—	平成3年度		平成29年より学生 募集停止
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(工学)	—			
マイクロ・ナノシステム工学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(工学)	—	平成16年度		平成29年より学生 募集停止
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(工学)	—			
物質制御工学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(工学)	—	平成8年度		平成29年より学生 募集停止
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(工学)	—			
計算理工学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(工学)	—	平成9年度		平成29年より学生 募集停止
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(工学)	—			
有機・高分子化学専攻 (博士前期課程)	2	34	—	34	修士(工学)	1.23	平成29年度		
(博士後期課程)	3	8	—	8	博士(工学)	1.00			
応用物質化学専攻 (博士前期課程)	2	34	—	34	修士(工学)	1.00	平成29年度		
(博士後期課程)	3	8	—	8	博士(工学)	0.25			

大学の名称	名古屋大学							備考
既設学部等の名称	修業 年限	入 学 員	編入学 員	収 容 員	学位又 は称号	平均入学 定員 超過率	開 設 年 度	所 在 地
	年	人	年次 人	人		倍		
生命分子工学専攻 (博士前期課程)	2	28	—	28	修士(工学)	1.07	平成29年度	
(博士後期課程)	3	6	—	6	博士(工学)	1.16		
応用物理学専攻 (博士前期課程)	2	39	—	39	修士(工学)	0.97	平成29年度	
(博士後期課程)	3	9	—	9	博士(工学)	0.22		
物質科学専攻 (博士前期課程)	2	39	—	39	修士(工学)	0.94	平成29年度	
(博士後期課程)	3	9	—	9	博士(工学)	0.33		
材料デザイン工学専攻 (博士前期課程)	2	34	—	34	修士(工学)	1.08	平成29年度	
(博士後期課程)	3	8	—	8	博士(工学)	0.00		
物質プロセス工学専攻 (博士前期課程)	2	35	—	35	修士(工学)	1.28	平成29年度	
(博士後期課程)	3	9	—	9	博士(工学)	0.33		
化学システム工学専攻 (博士前期課程)	2	34	—	34	修士(工学)	1.14	平成29年度	
(博士後期課程)	3	8	—	8	博士(工学)	0.12		
電気工学専攻 (博士前期課程)	2	34	—	34	修士(工学)	0.97	平成29年度	
(博士後期課程)	3	9	—	9	博士(工学)	0.44		
電子工学専攻 (博士前期課程)	2	47	—	47	修士(工学)	1.19	平成29年度	
(博士後期課程)	3	13	—	13	博士(工学)	0.38		

大学の名称	名古屋大学							備考
既設学部等の名称	修業 年限	入 学 定 員	編入学 定 員	収 容 定 員	学位又 は称号	平均入学 定員 超過率	開 設 年 度	所 在 地
	年	人	年次 人	人		倍		
情報・通信工学専攻 (博士前期課程)	2	33	—	33	修士(工学)	1.33	平成29年度	
(博士後期課程)	3	8	—	8	博士(工学)	0.62		
機械システム工学専攻 (博士前期課程)	2	66	—	66	修士(工学)	0.78	平成29年度	
(博士後期課程)	3	14	—	14	博士(工学)	0.35		
マイクロ・ナノ機械理工学専攻 (博士前期課程)	2	36	—	36	修士(工学)	1.19	平成29年度	
(博士後期課程)	3	8	—	8	博士(工学)	0.75		
航空宇宙工学専攻 (博士前期課程)	2	38	—	38	修士(工学)	1.15	平成29年度	
(博士後期課程)	3	8	—	8	博士(工学)	0.62		
エネルギー理工学専攻 (博士前期課程)	2	18	—	18	修士(工学)	1.33	平成29年度	
(博士後期課程)	3	5	—	5	博士(工学)	0.60		
総合エネルギー専攻 (博士前期課程)	2	18	—	18	修士(工学)	1.11	平成29年度	
(博士後期課程)	3	4	—	4	博士(工学)	1.25		
土木工学専攻 (博士前期課程)	2	36	—	36	修士(工学)	0.88	平成29年度	
(博士後期課程)	3	9	—	9	博士(工学)	0.22		
生命農学研究科 生物圏資源学専攻 (博士前期課程)	2	35	—	70	修士(農学)	1.12	昭和30年度 平成11年度	愛知県名古屋市千種区不老町
(博士後期課程)	3	10	—	30	博士(農学)	0.86		

大学の名称	名古屋大学								備考
既設学部等の名称	修業 年限	入 学 員 定 員	編入 学 員 定 員	収 容 員 定 員	学位又 は称号	平均入 学 定 員 超 過 率	開 年 設 度	所 在 地	
	年	人	年次 人	人		倍			
生物機構・機能科学専攻 (博士前期課程)	2	37	—	74	修士(農学)	1.14	平成9年度		
(博士後期課程)	3	11	—	33	博士(農学)	0.54			
応用分子生命科学専攻 (博士前期課程)	2	39	—	78	修士(農学)	1.21	平成10年度		
(博士後期課程)	3	12	—	36	博士(農学)	0.44			
生命技術科学専攻 (博士前期課程)	2	28	—	56	修士(農学)	1.10	平成16年度		
(博士後期課程)	3	9	—	27	博士(農学)	1.14			
国際開発研究科 国際開発専攻 (博士前期課程)	2	22	—	44	修士(国際開発学) 修士(学術)	1.22	平成3年度 平成3年度	愛知県名古屋市千種区不老町	
(博士後期課程)	3	11	—	33	博士(国際開発学) 博士(学術)	0.99			
国際協力専攻 (博士前期課程)	2	22	—	44	修士(国際開発学) 修士(学術)	1.20	平成4年度		
(博士後期課程)	3	11	—	33	博士(国際開発学) 博士(学術)	0.84			
国際コミュニケーション専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(学術)	—	平成5年度		平成29年より学生募集停止
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(学術)	—			
多元数理科学研究科 多元数理科学専攻 (博士前期課程)	2	47	—	94	修士(数理学)	1.07	平成7年度 平成7年度	愛知県名古屋市千種区不老町	
(博士後期課程)	3	30	—	90	博士(数理学)	0.39			

大学の名称	名古屋大学							備考	
既設学部等の名称	修業 年限	入 学 員	編入学 員	収 容 員	学位又 は称号	平均入学 定員 超過率	開 年 設 度	所 在 地	
	年	人	年次 人	人		倍			
国際言語文化研究科 日本語文化専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(文学)	—	平成10年度	愛知県名古屋市千種区不老町	平成29年より学生募集停止
(博士後期課程)	3	—	—	—	修士(学術) 博士(文学) 博士(学術)	—	平成10年度		
国際多元文化専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(文学)	—	平成10年度		
(博士後期課程)	3	—	—	—	修士(学術) 博士(文学) 博士(学術)	—			
環境学研究科 地球環境科学専攻 (博士前期課程)	2	53	—	107	修士(環境学)	0.89	平成13年度		
(博士後期課程)	3	24	—	74	修士(理学) 博士(環境学) 博士(理学)	0.42	平成13年度		
都市環境学専攻 (博士前期課程)	2	47	—	94	修士(環境学)	1.31	平成13年度		
(博士後期課程)	3	21	—	63	修士(工学) 修士(建築学) 博士(環境学) 博士(工学) 博士(建築学)	0.47			
社会環境学専攻 (博士前期課程)	2	27	—	63	修士(環境学)	1.00	平成13年度		
(博士後期課程)	3	13	—	49	修士(社会学) 修士(地理学) 修士(法学) 修士(経済学) 博士(環境学) 博士(社会学) 博士(地理学) 博士(法学) 博士(経済学)	0.58			

大学の名称	名古屋大学							備考	
既設学部等の名称	修業 年限	入 定 学 員	編入学 定 員	収 定 容 員	学位又 は称号	平均入学 定員 超過率	開 年 設 度	所 在 地	
	年	人	年次 人	人		倍			
情報科学研究科 計算機数理学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(情報科学) 修士(工学) 修士(学術)	—	平成15年度 平成15年度	愛知県名古屋市千種区不老町	平成29年より学生募集停止
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(情報科学) 博士(工学) 博士(学術)	—			
情報システム学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(情報科学) 修士(工学) 修士(学術)	—	平成15年度		
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(情報科学) 博士(工学) 博士(学術)	—			
メディア科学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(情報科学) 修士(工学) 修士(学術)	—	平成15年度		
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(情報科学) 博士(工学) 博士(学術)	—			
複雑系科学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(情報科学) 修士(工学) 修士(学術)	—	平成15年度		
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(情報科学) 博士(工学) 博士(学術)	—			
社会システム情報学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(情報科学) 修士(工学) 修士(学術)	—	平成15年度		
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(情報科学) 博士(工学) 博士(学術)	—			

大学の名称	名古屋大学								備考
既設学部等の名称	修業 年限	入 学 員	編入学 員	収 容 員	学位又 は称号	平均入学 定員 超過率	開 年 設 度	所 在 地	
	年	人	年次 人	人		倍			
創薬科学研究科 基盤創薬学専攻 (博士前期課程)	2	32	—	59	修士(創薬科学)	1.05	平成24年度 平成24年度	愛知県名古屋市千 種区不老町	
(博士後期課程)	3	10	—	30	博士(創薬科学)	0.80			

(注) ・ 本調査の対象となっている大学等の設置者(国立大学法人)が設置している全ての大学(学部, 学科)及び大学院(専攻)(AC対象学部等含む)について, それぞれの学校種ごとに, 平成29年5月1日現在の上記項目の情報を記入してください。

- ・ 学部の学科または研究科の専攻等, 「入学定員を定めている組織」ごとに記入してください。
※「入学定員を定めている組織ごと」には, 課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
※なお, 課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は, 法令上規定されている組織上の最小単位(大学であれば「学科」, 短期大学であれば「専攻課程」)でも記載してください。
- ・ 専攻科に係るものについては, 記入する必要はありません。
- ・ AC対象学部等についても必ず記入してください。
- ・ 「平均入学定員超過率」には, 標準修業年限に相当する期間における入学定員に対する入学者の割合の平均の小数点以下第2位まで(小数点以下第3位を切り捨て)を記入してください。
- ・ 学生募集を停止している学部等がある場合, 入学定員・収容定員・平均入学定員超過率は「—」とし, 「備考」に「平成〇〇年より学生募集停止」と記入してください。

5 教員組織の状況

<人文学研究科 人文学専攻（前期課程）>

(1) 担当教員表

設置時の計画				変更状況				備考
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	
専	教授	佐久間 淳一	平成29年4月	専	教授	佐久間 淳一	平成29年4月	平成29年3月 町田健教授退職のため担当科目変更(29)
専	教授	堀江 薫	平成29年4月					
専	教授	町田 健	平成29年4月	専 兼任 専 専	教授 講師 講師 准教授	佐久間 淳一 櫻井 健 安井 永子 加藤 高志	平成29年4月 平成29年4月 平成29年4月 平成29年4月	平成29年3月 町田健教授退職のため担当教員変更(29)
専	教授	釘真 亨	平成29年4月					
専	教授	齋藤 文俊	平成29年4月	専	教授	齋藤 文俊	平成29年4月	教育内容の充実のため担当科目変更(29)
専	教授	塩村 耕	平成29年4月	専 兼任	教授 講師	塩村 耕 甘露 純規	平成29年4月 平成29年4月	担当教員の変更(29)
専	教授	大室 剛志	平成29年4月					
専	教授	田中 智之	平成29年4月					

専	教授	大名 力	平成29年4月	リサーチ・倫理・情報リテラシー 英語学特殊研究 I a 英語学特殊研究 I b 英語学特論 a 英語学特論 b	専	教授	大名 力	平成29年4月	英語学特殊研究 I a 英語学特殊研究 I b 英語学特論 a 英語学特論 b	担当科目調整のため担当科目変更 (29)
専	教授	滝川 睦	平成29年4月	近代英文学基礎演習 a 近代英文学基礎演習 b 英米児童文学研究 イギリス演劇・詩特殊研究 a イギリス演劇・詩特殊研究 b						
専	教授	長畑 明利	平成29年4月	アメリカ文学研究 a アメリカ文学研究 b アメリカ文学特殊研究 a アメリカ文学特殊研究 b 英語表現演習 IV モダニズムと翻訳						
専	教授	松岡 光治	平成29年4月	イギリス小説研究 I a イギリス小説研究 I b イギリス文化特殊研究 a イギリス文化特殊研究 b 英米文化演習 a 英米文化演習 b 翻訳技術演習 a 翻訳技術演習 b						
専	教授	上原 早苗	平成29年4月	イギリス小説研究 II a イギリス小説研究 II b イギリス小説特殊研究 a イギリス小説特殊研究 b 翻訳理論 a 翻訳理論 b 英語圏文化特殊研究 a 英語圏文化特殊研究 b						
専	教授	中村 靖子	平成29年4月	ドイツ文学研究 I a ドイツ文学研究 I b ドイツ文学上級演習 I a ドイツ文学上級演習 I b ドイツ文学特殊研究 I a ドイツ文学特殊研究 I b						
専	教授	藤井 たぎる	平成29年4月	ドイツ化学研究 I ドイツ化学上級演習 I ドイツ化学特殊研究 I a ドイツ化学特殊研究 I b						
専	教授	西川 智之	平成29年4月	人文学基礎 ドイツ化学研究 II ドイツ化学上級演習 II ドイツ化学特殊研究 II a ドイツ化学特殊研究 II b	専	准教授	山口 庸子	平成29年4月	人文学基礎	
					専	教授	西川 智之	平成29年4月	ドイツ化学研究 II ドイツ化学上級演習 II ドイツ化学特殊研究 II a ドイツ化学特殊研究 II b	担当教員の変更 (29)
専	教授	成田 克史	平成29年4月	ドイツ語学研究 I	専	教授	成田 克史	平成29年4月	ドイツ語学上級演習 I ドイツ語学研究 I	担当科目調整のため担当科目変更 (29)
専	教授	松澤 和宏	平成29年4月	フランス文学論 I フランス文学論 II フランス文学特殊研究 I a フランス文学特殊研究 II a フランス文学特論 I b フランス文学特論 II b	兼任	講師	Yannick DEPLAEDT	平成29年4月	フランス文学論 I	担当教員の変更 (29)
					専	教授	松澤 和宏	平成29年4月	フランス文学論 II フランス文学特殊研究 I a フランス文学特殊研究 I b フランス文学特殊研究 II a フランス文学特論 I b フランス文学特論 II b	担当科目調整のため担当科目変更 (29)
専	教授	藤村 逸子	平成29年4月	フランス語学特殊研究 II b フランス語学特論 II a フランス語学特論 I a	専	教授	藤村 逸子	平成29年4月	フランス語学基礎演習 I フランス語学基礎演習 II フランス語学特殊研究 I b フランス語学特殊研究 II b フランス語学特論 II a	担当科目調整のため担当科目変更 (29)
					専任	准教授	奥田 智樹	平成29年4月	フランス語学特論 I a	担当教員の変更 (29)
専	教授	丸尾 誠	平成29年4月	現代中国語学基礎演習 a 現代中国語学特論 現代中国語学特殊研究 I a 現代中国語学特殊研究 I b						
専	教授	玉岡 賀津雄	平成29年4月	日本語教育学講義 I a 日本語教育学講義 I b 日本語教育学演習 I a 日本語教育学演習 I b 応用言語学 I a 応用言語学 I b						
専	教授	杉村 泰	平成29年4月	日本語文法表現論 a 日本語文法表現論 b 日本語教育学特殊研究 I a 日本語教育学特殊研究 I b						

専	教授	HAIG EDWARD	平成29年4月	英語教材研究特論 英語表現演習Ⅱa 英語表現演習Ⅱb 言語と社会Ⅲ 理論的言語学Ⅱ メディア・ディスコース						
専	教授	尾関 修治	平成29年4月	リサーチ・倫理・情報リテラシー 英語教育学 英語教育学演習 英語教育学特論 英語情報処理演習 英語e-ラーニング開発演習 英語e-ラーニング開発特論 英語教育実践演習	専	教授	尾関 修治	平成29年4月	英語教育学 英語教育学演習 英語教育学特論 英語情報処理演習 英語e-ラーニング開発演習 英語e-ラーニング開発特論 英語教育実践演習	担当科目調整のため担当科目変更(29)
専	教授	木下 徹	平成29年4月	言語評価論 言語教育科学論 言語評価論演習 言語教育科学論特論 英語教育測定評価論 英語教育測定評価論演習 英語教育実践演習						
専	教授	杉浦 正利	平成29年4月	第二言語処理論 第二言語処理論演習 第二言語処理論特論 英語教材開発演習 英語習得論特論 英語教育実践演習						
専	教授	山下 淳子	平成29年4月	第二言語習得論 第二言語習得論特論 第二言語理解論a 第二言語理解論b						
専	教授	衣川 隆生	平成29年4月	比較社会文化論 応用日本語学Ⅰa 応用日本語学Ⅰb 日本語教育方法論発展演習a 日本語教育方法論発展演習b 多文化共生総合演習Ⅳb	専	教授	衣川 隆生	平成29年4月	比較社会文化論 応用日本語学Ⅰa 応用日本語学Ⅰb 日本語教育方法論発展演習a 日本語教育方法論発展演習b 多文化共生総合演習Ⅳa 多文化共生総合演習Ⅳb	担当科目調整のため担当科目変更(29)
専	教授	浮葉 正親	平成29年4月	日本事情論 日本語文化論						
専	教授	靱山 洋介	平成29年4月	現代日本語学Ⅰa 現代日本語学Ⅰb 日本語意味論特殊研究a 日本語意味論特殊研究b 多文化共生総合演習Ⅳb	専	教授	靱山 洋介	平成29年4月	現代日本語学Ⅰa 現代日本語学Ⅰb 日本語意味論特殊研究a 日本語意味論特殊研究b	担当科目調整のため担当科目変更(29)
専	教授	田村 均	平成29年4月	西洋哲学史研究Ⅰ 哲学・倫理学発展演習Ⅰ 哲学・倫理学発展演習Ⅱ	専	教授	田村 均	平成29年4月	西洋哲学史研究Ⅰ 西洋哲学史研究Ⅱ 哲学・倫理学発展演習Ⅰ 哲学・倫理学発展演習Ⅱ	担当科目調整のため担当科目変更(29)
専	教授	金山 弥平	平成29年4月	哲学・倫理学基礎演習Ⅱ 西洋哲学史基礎演習Ⅰ 哲学・倫理学研究Ⅳ 思想史	専	教授	金山 弥平	平成29年4月	哲学・倫理学基礎演習Ⅱ 西洋哲学史基礎演習Ⅰ 西洋哲学史基礎演習Ⅳ 哲学・倫理学研究Ⅳ 思想史	担当科目調整のため担当科目変更(29)
専	教授	宮原 勇	平成29年4月	テキストⅠ 哲学・倫理学基礎演習Ⅰ 西洋哲学史基礎演習Ⅱ 哲学・倫理学研究Ⅰ 哲学・倫理学研究Ⅲ 哲学・倫理学発展演習Ⅰ 哲学・倫理学発展演習Ⅱ						
専	教授	吉田 純	平成29年4月	中国哲学史研究Ⅰ 中国哲学史基礎演習Ⅰa 中国哲学史基礎演習Ⅰb 中国哲学史基礎講読a 中国哲学史基礎講読b 中国哲学史発展演習Ⅰa 中国哲学史発展演習Ⅰb						
専	教授	和田 壽弘	平成29年4月	インド哲学研究Ⅰ サンスクリット文献学演習Ⅰ 仏教思想史演習Ⅰ 仏教思想史演習Ⅱ インド哲学総合演習a インド哲学総合演習b インド言語論演習Ⅰ インド言語論演習Ⅱ インド論理学演習 インド宗教論演習						

専	教授	羽賀 祥二	平成29年4月	日本近・現代史研究 日本近・現代史基礎演習a 日本近・現代史基礎演習b 日本近・現代史発展演習a 日本近・現代史発展演習b	専	教授	羽賀 祥二	平成29年4月	文化資源学研究Ⅱ 文化資源学研究Ⅲ 日本近・現代史研究 日本近・現代史基礎演習a 日本近・現代史基礎演習b 日本近・現代史発展演習a 日本近・現代史発展演習b	教育内容の充実のため担当科目変更(29)
専	教授	池内 敏	平成29年4月	テキストⅡ 日本近世史研究 日本近世史基礎演習a 日本近世史基礎演習b 日本史科学基礎演習a 日本史科学基礎演習b 日本近世史発展演習a 日本近世史発展演習b						
専	教授	古尾谷 知浩	平成29年4月	文化資源学研究Ⅰ 文化資源学研究Ⅱ 文化資源学研究Ⅲ 文化資源学研究Ⅳ 日本古代史研究 日本古代史基礎演習a 日本古代史基礎演習b 日本古代史発展演習a 日本古代史発展演習b						
専	教授	斎藤 夏来	平成29年4月	日本中世史研究 日本中世史基礎演習a 日本中世史基礎演習b 日本中世史発展演習a 日本中世史発展演習b						
専	教授	井上 進	平成29年4月	中国近世史料講読a 中国近世史料講読b 中国近世史演習a 中国近世史演習b 東洋史学方法論演習a 東洋史学方法論演習b 中国古代史史料演習a 中国古代史史料演習b 中国近世史料演習a 中国近世史料演習b						
専	教授	加藤 久美子	平成29年4月	東南アジア史研究 東南アジア近世史英書講読a 東南アジア近世史英書講読b 東南アジア近世史演習a 東南アジア近世史演習b 東洋史学方法論演習a 東洋史学方法論演習b 東南アジア史料演習a 東南アジア史料演習b						
専	教授	周藤 芳幸	平成29年4月	人文学基礎 テキストⅡ 西洋古代史研究a 西洋古代史研究b 西洋古代史基礎演習a 西洋古代史基礎演習b 西洋古代史発展演習a 西洋古代史発展演習b 相關歴史科学特殊研究a 相關歴史科学特殊研究b						
専	教授	和田 光弘	平成29年4月	西洋近代史研究a 西洋近代史研究b 西洋近代史基礎演習a 西洋近代史基礎演習b 西洋近代史発展演習a 西洋近代史発展演習b 相關歴史科学特殊研究a 相關歴史科学特殊研究b						
専	教授	内田 綾子	平成29年4月	西洋現代史研究Ⅰa 西洋現代史研究Ⅰb 西洋現代史基礎演習Ⅰa 西洋現代史基礎演習Ⅰb 西洋現代史発展演習Ⅰa 西洋現代史発展演習Ⅰb 相關歴史科学特殊研究a 相關歴史科学特殊研究b						
専	教授	木俣 元一	平成29年4月	西洋美術史演習Ⅰa 西洋美術史演習Ⅰb 宗教芸術論研究 視覚文化論演習a 視覚文化論演習b	専	助教	松井 裕美	平成29年4月	西洋美術史演習Ⅰa	
				西洋美術史演習Ⅰb 宗教芸術論研究 視覚文化論演習a 視覚文化論演習b	専	教授	木俣 元一	平成29年4月	西洋美術史演習Ⅰb 宗教芸術論研究 視覚文化論演習a 視覚文化論演習b	担当教員の変更(29)

専	教授	伊藤 大輔	平成29年4月	人文学基礎	専	助教	松井 裕美	平成29年4月	人文学基礎	担当教員の変更(29)
				テキストⅡ 日本美術史研究a 日本美術史研究b 日本美術史演習a 日本美術史演習b 視覚文化論演習a 視覚文化論演習b	専	教授	伊藤 大輔	平成29年4月	テキストⅡ 日本美術史研究a 日本美術史研究b 日本美術史演習a 日本美術史演習b 視覚文化論演習a 視覚文化論演習b	
専	教授	山本 直人	平成29年4月	先史考古学研究 先史考古学基礎演習 先史考古学発展演習 先史考古学特殊研究 先史考古学総合演習 歴史考古学総合演習 フィールド調査実習						
専	教授	阿部 泰郎	平成29年4月	日本思想文化特論 アーカイヴス・テキスト基礎演習 アーカイヴス・テキスト概論 アーカイヴス・テキストフィールドワーク実習 テキスト学先端研究 アーカイヴス・テキスト発展演習 比較人文学総合演習						
専	教授	佐々木 重洋	平成29年4月	人文学社会連携演習 宗教学人類学基礎演習a 宗教学人類学基礎演習b 社会人類学基礎講読a 社会人類学基礎講読b 宗教学人類学発展演習a 宗教学人類学発展演習b 社会人類学発展演習a 社会人類学発展演習b 比較人文学総合演習	専	教授	佐々木 重洋	平成29年4月	人文学社会連携演習 宗教学人類学基礎演習a 宗教学人類学基礎演習b 社会人類学基礎講読a 社会人類学基礎講読b 宗教学人類学発展演習a 宗教学人類学発展演習b 社会人類学発展演習a 社会人類学発展演習b 比較人文学総合演習	担当教員の変更(29)
				多文化共生総合演習Ⅱa 多文化共生総合演習Ⅱb					専	
専	教授	藤木 秀朗	平成29年4月	人文学基礎 古典映像理論 現代映像理論 映像研究方法論Ⅱ 日本映画史Ⅰ 日本映画史Ⅱ 映像文化特論Ⅰ 古典映像理論 現代映像理論 1945年以前の日本映画 1945年以降の日本映画	専	教授	藤木 秀朗	平成29年4月	人文学基礎 古典映像理論 現代映像理論 映像研究方法論Ⅱ 日本映画史Ⅰ 日本映画史Ⅱ 映像文化特論Ⅰ 古典映像理論 現代映像理論 1945年以前の日本映画 1945年以降の日本映画 アジア映画史Ⅰ 映像研究先端論	教育の内容充実のため担当科目変更(29)
				映像批評分析論Ⅰ 映像研究方法論Ⅰ 映像文化特論Ⅱ					専	
専	教授	飯田 祐子	平成29年4月	比較社会文化論 日本文化論a 日本文化論b 日本近現代文化研究Ⅰa 日本近現代文化研究Ⅰb 日本文化学超域研究a 日本文化学超域研究b 日本文化学特殊研究Ⅰa 日本文化学特殊研究Ⅰb 多文化共生総合演習Ⅴa 多文化共生総合演習Ⅴb						
専	教授	胡 潔	平成29年4月	日本文化学超域研究a 日本文化学超域研究b 日本文化学特論a 日本文化学特論b 多文化共生総合演習Ⅵa 多文化共生総合演習Ⅵb	専	教授	胡 潔	平成29年4月	日本文化学超域研究a 日本文化学超域研究b 日本文化学特論a 日本文化学特論b 多文化共生基礎演習Ⅴ 多文化共生総合演習Ⅵa 多文化共生総合演習Ⅵb	担当科目調整のため担当科目変更(29)
専	教授	涌井 隆	平成29年4月	日本文化学超域研究a 日本文化学超域研究b 表象文化論Ⅰa 表象文化論Ⅰb 表象文化論Ⅱ 世界のアニメーション						

専	教授	田所 光男	平成29年4月	文化動態学講義 I a 文化動態学講義 I b 文化動態学総合演習 I a 文化動態学総合演習 I b 多文化共生特殊研究 II a 多文化共生特殊研究 II b 多文化共生総合演習 I a 多文化共生総合演習 I b	専	教授	田所 光男	平成29年4月	文化動態学講義 I a 文化動態学講義 I b 文化動態学総合演習 I a 文化動態学総合演習 I b 多文化共生基礎演習 VI a 多文化共生基礎演習 VI b 多文化共生特殊研究 II a 多文化共生特殊研究 II b 多文化共生総合演習 I a 多文化共生総合演習 I b	担当科目調整のため担当科目変更 (29)
専	教授	水戸 博之	平成29年4月	文化動態学講義 II a 文化動態学講義 II b 文化動態学総合演習 II a 文化動態学総合演習 II b 多文化共生基礎演習 VII a 多文化共生基礎演習 VII b 多文化共生特殊研究 I a 多文化共生特殊研究 I b	専	教授	水戸 博之	平成29年4月	文化動態学講義 II a 文化動態学講義 II b 文化動態学総合演習 II a 文化動態学総合演習 II b 多文化共生基礎演習 VII a 多文化共生基礎演習 VII b 多文化共生特殊研究 I a 多文化共生特殊研究 I b 多文化共生総合演習 I a 多文化共生総合演習 I b	教育の内容充実のため担当科目変更 (29)
専	教授	星野 幸代	平成29年4月	ジェンダー批評概論 ジェンダー学リサーチ演習 I a ジェンダー学リサーチ演習 I b ジェンダー批評 グローバル化社会共生論 IV	専	教授	星野 幸代	平成29年4月	ジェンダー批評概論 ジェンダー学リサーチ演習 I a ジェンダー学リサーチ演習 I b ジェンダー批評 グローバル化社会共生論 IV 多文化共生総合演習 III b	教育の内容充実のため担当科目変更 (29)
専	教授	松下 千雅子	平成29年4月	テキスト分析方法論 セクシュアリティ論 ジェンダー学リサーチ演習 II a ジェンダー学リサーチ演習 II b クィア理論 ジェンダーとセクシュアリティ	専	教授	松下 千雅子	平成29年4月	テキスト分析方法論 セクシュアリティ論 ジェンダー学リサーチ演習 II a ジェンダー学リサーチ演習 II b クィア理論 多文化共生総合演習 III a ジェンダーとセクシュアリティ	教育の内容充実のため担当科目変更 (29)
専	教授	栗田 秀法	平成29年4月	西洋美術史演習 II a 西洋美術史演習 II b 西洋美術史研究 視覚文化論演習 a 視覚文化論演習 b						
専	准教授	宇都木 昭	平成29年4月	テキスト学 I 音声学研究 a 音声学研究 b 音声学特殊研究 個別言語総合演習 III						
専	准教授	加藤 高志	平成29年4月	音韻論研究 言語学特殊研究 V a 言語学特殊研究 V b 個別言語基礎演習 II	専	准教授	加藤 高志	平成29年4月	音韻論研究 言語学特殊研究 V a 言語学特殊研究 V b 個別言語基礎演習 II 個別言語総合演習 I a 個別言語総合演習 I a	平成29年3月 町田健教授退職のため担当科目変更 (29)
専	准教授	井土 慎二	平成29年4月	歴史言語学研究 II 言語対照基礎演習 II 言語学特殊研究 IV 個別言語総合演習 II 言語と社会 II						
専	准教授	大島 義和	平成29年4月	意味論研究 I a 意味論研究 I b 個別言語総合演習 IV a 個別言語総合演習 IV b 日本語言語学						
専	准教授	宮地 朝子	平成29年4月	日本語文法史特論 a 日本語文法史特論 b 日本語学特殊研究 II 日本語学特殊研究 III 日本語学基礎演習 IV 日本語学総合演習 a 日本語学総合演習 b 日本語学発展演習 II						

専	准教授	大井田 晴彦	平成29年4月	日本文学先端研究Ⅱa 日本文学先端研究Ⅱb 日本文学特論Ⅱa 日本文学特論Ⅱb 日本文学特論Ⅳb 日本文学特論Ⅴb 日本文学先端演習Ⅱa 日本文学先端演習Ⅱb 日本文学基礎演習Ⅱa 日本文学基礎演習Ⅱb 日本文学総合演習a 日本文学総合演習b	専	准教授	大井田 晴彦	平成29年4月	日本文学先端研究Ⅱa 日本文学先端研究Ⅱb 日本文学特論Ⅱa 日本文学特論Ⅱb 日本文学特論Ⅳb 日本文学特論Ⅴb 日本文学先端演習Ⅱa 日本文学先端演習Ⅱb 日本文学基礎演習Ⅱa 日本文学基礎演習Ⅱb 日本文学総合演習a 日本文学総合演習b	担当教員の変更(29)				
				日本文学特論Ⅳa	兼任	講師	伊藤 伸江	平成29年4月	日本文学特論Ⅳa					
				日本文学特論Ⅴa	兼任	講師	佐藤 至子	平成29年4月	日本文学特論Ⅴa					
専	准教授	秋田 喜美	平成29年4月	英語学特殊研究Ⅱa 英語学特殊研究Ⅱb 英語学理論講義a 英語学理論講義b 共時英語学演習Ⅱa 共時英語学演習Ⅱb 理論的言語学Ⅰ	専	准教授	秋田 喜美	平成29年4月	テキスト学Ⅰ 英語学特殊研究Ⅱa 英語学特殊研究Ⅱb 英語学理論講義a 英語学理論講義b 共時英語学演習Ⅱa 共時英語学演習Ⅱb 理論的言語学Ⅰ	教育内容の充実のため担当科目変更(29)				
専	准教授	渡辺 美樹	平成29年4月	英米文学研究Ⅰa 英米文学研究Ⅰb 英語圏文化研究a 英語圏文化研究b										
専	准教授	安川 晴基	平成29年4月	人文学基礎 ドイツ文学研究Ⅱa ドイツ文学研究Ⅱb ドイツ文学上級演習Ⅱa ドイツ文学上級演習Ⅱb ドイツ文学特殊研究Ⅱa ドイツ文学特殊研究Ⅱb										
専	准教授	山口 庸子	平成29年4月	ドイツ文化研究Ⅲ ドイツ文化学上級演習Ⅲ ドイツ文化学特殊研究Ⅲa ドイツ文化学特殊研究Ⅲb	専	准教授	山口 庸子	平成29年4月	人文学基礎 ドイツ文化研究Ⅲ ドイツ文化学上級演習Ⅲ ドイツ文化学特殊研究Ⅲa ドイツ文化学特殊研究Ⅲb	担当科目調整のため担当科目変更(29)				
専	准教授	奥田 智樹	平成29年4月	フランス語学論Ⅰ フランス語学論Ⅱ フランス語学特殊研究Ⅰa フランス語学特殊研究Ⅱa	専	准教授	奥田 智樹	平成29年4月	フランス語学論Ⅰ フランス語学論Ⅱ フランス語学特殊研究Ⅰa フランス語学特殊研究Ⅱa フランス語学特論Ⅰa フランス語学特論Ⅰb フランス語学特論Ⅱb	担当科目調整のため担当科目変更(29)				
				フランス語学特論Ⅰb フランス語学特論Ⅱb					専		教授	藤村 逸子	平成29年4月	フランス語学基礎演習Ⅰ フランス語学基礎演習Ⅱ フランス語学特殊研究Ⅰb
専	准教授	加藤 靖恵	平成29年4月	人文学基礎 フランス文学基礎演習Ⅱ フランス文化研究Ⅰa フランス文化研究Ⅰb フランス文化研究Ⅱa フランス文化研究Ⅱb フランス文学基礎講義Ⅰa フランス文学基礎講義Ⅰb フランス文学基礎講義Ⅱa フランス文学基礎講義Ⅱb フランス文学特殊研究Ⅱb フランス文学特論Ⅱa フランス文学総合演習Ⅰa フランス文学総合演習Ⅰb フランス文学総合演習Ⅱa フランス文学総合演習Ⅱb	専	准教授	加藤 靖恵	平成29年4月	人文学基礎 フランス文学基礎演習Ⅱ フランス文化研究Ⅰa フランス文化研究Ⅰb フランス文化研究Ⅱa フランス文化研究Ⅱb フランス文学基礎講義Ⅰa フランス文学基礎講義Ⅰb フランス文学基礎講義Ⅱa フランス文学基礎講義Ⅱb フランス文学特殊研究Ⅱb フランス文学特論Ⅱa フランス文学総合演習Ⅰa フランス文学総合演習Ⅰb フランス文学総合演習Ⅱa フランス文学総合演習Ⅱb	担当教員の変更(29)				
				フランス文学特殊研究Ⅰb					専		教授	松澤 和宏	平成29年4月	フランス文学特殊研究Ⅰb
				フランス文学基礎演習Ⅰ フランス文学特論Ⅰa					専		教授	小栗栖 等	平成29年4月	フランス文学基礎演習Ⅰ フランス文学特論Ⅰa
専	准教授	田村 加代子	平成29年4月	中国古典語学研究 中国古典語学基礎演習 中国古典語学特論 中国古典語学特殊研究a 中国古典語学特殊研究b	専	准教授	田村 加代子	平成29年4月	中国古典語学研究 中国古典語学基礎演習 中国古典語学特論 中国古典語学特殊研究a 中国古典語学特殊研究b	担当教員の変更(29)				
				中国哲学史基礎演習Ⅱa 中国哲学史基礎演習Ⅱb					専		教授	神塚 淑子	平成29年4月	中国哲学史基礎演習Ⅱa 中国哲学史基礎演習Ⅱb

専	准教授	佐野 誠子	平成29年4月	人文学基礎 中国古典文学研究 I 中国古典文学基礎演習 I 中国古典文学特論 I 中国古典文学特殊研究 I a 中国古典文学特殊研究 I b 中国哲学史発展演習 II a 中国哲学史発展演習 II b	専	准教授	佐野 誠子	平成29年4月	人文学基礎 中国古典文学研究 I 中国古典文学基礎演習 I 中国古典文学特論 I 中国古典文学特殊研究 I a 中国古典文学特殊研究 I b	担当教員の変更 (29)
					専	教授	神塚 淑子	平成29年4月	中国哲学史発展演習 II a 中国哲学史発展演習 II b	
専	准教授	勝川 裕子	平成29年4月	現代中国語学研究 現代中国語学基礎演習b 現代中国語学特殊研究 II a 現代中国語学特殊研究 II b						
専	准教授	陳 朝輝	平成29年4月	中国近現代文学研究 中国近現代文学基礎演習 中国近現代文学特論 中国近現代文学特殊研究a 中国近現代文学特殊研究b						
専	准教授	笠井 直美	平成29年4月	中国古典文学研究 II 中国古典文学基礎演習 II 中国古典文学特論 II 中国古典文学特殊研究 II a 中国古典文学特殊研究 II b 中国哲学史研究 II						
専	准教授	鷺見 幸美	平成29年4月	日本語教育学概論a 日本語教育学概論b 日本語教育学特殊研究 II a 日本語教育学特殊研究 II b 日本語教育基礎実習a 日本語教育基礎実習b						
専	准教授	志波 彩子	平成29年4月	日本語教育文法論a 日本語教育文法論b 日本語教育学特殊研究 III a 日本語教育学特殊研究 III b						
専	准教授	林 誠	平成29年4月	テキスト学 I 日本語教育学講義 II a 日本語教育学講義 II b 日本語教育学演習 II a 日本語教育学演習 II b 言語と社会 I						
専	准教授	村尾 玲美	平成29年4月	英語コミュニケーション論 英語コミュニケーション論演習 英語習得論 英語習得論演習 第二言語習得 II a 第二言語習得 II b						
専	准教授	三輪 晃司	平成29年4月	第二言語運用論 第二言語運用論特論 第二言語習得 III a 第二言語習得 III b	専	准教授	三輪 晃司	平成29年4月	テキスト学 I 第二言語運用論 第二言語運用論特論 第二言語習得 III a 第二言語習得 III b	教育内容の充実のため担当科目変更 (29)
専	准教授	石崎 俊子	平成29年4月	応用日本語学 III 日本語教材開発総合演習a 日本語教材開発総合演習b						
専	准教授	李 澤熊	平成29年4月	日本語文法論 I 日本語意味論総合演習a 日本語意味論総合演習b	専	准教授	李 澤熊	平成29年4月	テキスト学 I 日本語文法論 I 日本語意味論総合演習a 日本語意味論総合演習b	教育内容の充実のため担当科目変更 (29)
専	准教授	俵山 雄司	平成29年4月	応用日本語学 II 日本語談話分析総合演習a 日本語談話分析総合演習b 地域社会共生論 I 多文化共生基礎演習 IV 多文化共生総合演習 IV b	専	准教授	俵山 雄司	平成29年4月	応用日本語学 II 日本語談話分析総合演習a 日本語談話分析総合演習b 地域社会共生論 I 多文化共生基礎演習 IV	担当科目調整のため担当科目変更 (29)
				多文化共生総合演習 IV a	専	教授	衣川 隆生	平成29年4月	多文化共生総合演習 IV a	担当教員の変更 (29)
専	准教授	佐藤 弘毅	平成29年4月	応用日本語学 IV 日本語教育学特論a 日本語教育学特論b						
専	准教授	布施 哲	平成29年4月	リサーチ・倫理・情報リテラシー 西洋哲学史基礎演習 III 哲学・倫理学研究 II 西洋哲学史基礎演習 IV 西洋哲学史研究 II	専	准教授	布施 哲	平成29年4月	西洋哲学史基礎演習 III 哲学・倫理学研究 II	担当科目調整のため担当科目変更 (29)
					専	教授	金山 弥平	平成29年4月	西洋哲学史基礎演習 IV	担当教員の変更 (29)
					専	教授	田村 均	平成29年4月	西洋哲学史研究 II	

専	准教授	吉武 純夫	平成29年4月	ギリシア語a ギリシア語b 西洋古典学発展セミナーa 西洋古典学発展セミナーb 西洋古典学演習Ⅰa 西洋古典学演習Ⅰb 西洋古典学基礎演習Ⅰa 西洋古典学基礎演習Ⅰb 西洋古典学基礎演習Ⅱa 西洋古典学基礎演習Ⅱb 西洋古典学発展演習										
専	准教授	畝部 俊也	平成29年4月	インド哲学研究Ⅱ サンスクリット文献学演習Ⅱ インド哲学総合演習a インド哲学総合演習b	兼任 講師	谷口 富士夫	平成29年4月	インド哲学研究Ⅱ	兼任 講師	平野 克典	平成29年4月	サンスクリット文献学演習Ⅱ	平成28年11月 退職のため担当教員変更(29)	
専	准教授	林 謙一郎	平成29年4月	中国民族史研究 中国古代史演習a 中国古代史演習b 中国民族史演習a 中国民族史演習b 東南アジア近世史英書講読b 東南アジア近世史英書講読b 東洋史学方法論演習a 東洋史学方法論演習b 中国民族史史料演習a 中国民族史史料演習b 相関歴史科学特殊研究a 相関歴史科学特殊研究b	専	准教授	林 謙一郎	平成29年4月	中国民族史研究 中国古代史演習a 中国古代史演習b 中国民族史演習a 中国民族史演習b 東南アジア近世史英書講読b 東南アジア近世史英書講読b 東洋史学方法論演習a 東洋史学方法論演習b 中国民族史史料演習a 中国民族史史料演習b	専	准教授	林 謙一郎	平成29年4月	担当科目調整のため担当科目変更(29)
専	准教授	加納 修	平成29年4月	西洋中世史研究a 西洋中世史研究b 西洋現代史研究Ⅱa 西洋現代史研究Ⅱb 西洋中世史基礎演習a 西洋中世史基礎演習b 西洋中世史発展演習a 西洋中世史発展演習a 相関歴史科学特殊研究a 相関歴史科学特殊研究b 西洋現代史基礎演習Ⅱa 西洋現代史基礎演習Ⅱb 西洋現代史発展演習Ⅱa 西洋現代史発展演習Ⅱb	専	教授	加納 修	平成29年4月	西洋中世史研究a 西洋中世史研究b 西洋現代史研究Ⅱa 西洋現代史研究Ⅱb 西洋中世史基礎演習a 西洋中世史基礎演習b 西洋中世史発展演習a 西洋中世史発展演習a 相関歴史科学特殊研究a 相関歴史科学特殊研究b	兼任 講師	北村 陽子	平成29年4月	西洋現代史基礎演習Ⅱa 西洋現代史基礎演習Ⅱb 西洋現代史発展演習Ⅱa 西洋現代史発展演習Ⅱb	平成29年1月 准教授から教授に昇格(29)
専	准教授	梶原 義実	平成29年4月	人文学基礎 テキストⅡ 文化資源学研究Ⅰ 日本中世史研究 日本中世史発展演習a 日本中世史発展演習b 歴史考古学研究 歴史考古学基礎演習 先史考古学総合演習 歴史考古学特殊研究 歴史考古学発展演習 歴史考古学総合演習 フィールド調査実習	専	准教授	梶原 義実	平成29年4月	人文学基礎 テキストⅡ 文化資源学研究Ⅰ 歴史考古学研究 歴史考古学基礎演習 先史考古学総合演習 歴史考古学特殊研究 歴史考古学発展演習 歴史考古学総合演習 フィールド調査実習	専	准教授	梶原 義実	平成29年4月	担当科目調整のため担当科目変更(29)
専	准教授	東 賢太郎	平成29年4月	テキストⅡ 現代人類学基礎演習a 現代人類学基礎演習b 現代人類学基礎講義 現代人類学発展演習a 現代人類学発展演習b 比較人文学総合演習 グローバル社会共生論Ⅲ 多文化共生基礎演習Ⅱ	専	准教授	東 賢太郎	平成29年4月	テキストⅡ 現代人類学基礎演習a 現代人類学基礎演習b 現代人類学基礎講義 現代人類学発展演習a 現代人類学発展演習b 比較人文学総合演習 グローバル社会共生論Ⅲ 多文化共生基礎演習Ⅱ 比較社会文化論 多文化共生総合演習Ⅱa 多文化共生総合演習Ⅱb	専	准教授	東 賢太郎	平成29年4月	教育の内容充実のため担当科目変更(29)

専	准教授	馬 然	平成29年4月	映像批評分析論Ⅱ アジア映画史Ⅰ アジア映画史Ⅱ 映像理論・実践特論Ⅰ 映像理論・実践特論Ⅱ 映像テキスト分析 1945年以前のアジア映画 1945年以降のアジア映画 映像学への新視点 視覚文化テキスト分析 大学院演習：映像理論・実践Ⅰ 大学院演習：映像理論・実践Ⅱ	専	准教授	馬 然	平成29年4月	映像批評分析論Ⅱ アジア映画史Ⅰ アジア映画史Ⅱ 映像理論・実践特論Ⅰ 映像理論・実践特論Ⅱ 映像テキスト分析 1945年以前のアジア映画 1945年以降のアジア映画 映像学への新視点 視覚文化テキスト分析 大学院演習：映像理論・実践Ⅰ 大学院演習：映像理論・実践Ⅱ 映像研究方法論Ⅱ	教育の内容充実のため担当科目変更(29)	
				映像研究先端論	専	教授	藤木 秀朗	平成29年4月	映像研究先端論		担当教員の変更(29)
				視覚文化批評分析論	専	准教授	小川 翔太	平成29年4月	視覚文化批評分析論		
専	准教授	岩田クリス ティーナ	平成29年4月	文学テキスト分析 日本文学と翻訳 日本文学とジェンダー トランスナショナル/マイノリティ文学 近代日本文学への新視点 大学院演習：文学理論・実践Ⅰ 大学院演習：文学理論・実践Ⅱ							
専	准教授	日比 嘉高	平成29年4月	日本近現代文化研究Ⅱ 日本近現代文化研究Ⅲ 日本文化学超越研究a 日本文化学超越研究b 日本文化学特殊研究Ⅱa 日本文化学特殊研究Ⅱb	専	准教授	日比 嘉高	平成29年4月	日本近現代文化研究Ⅱ 日本近現代文化研究Ⅲ 日本文化学超越研究a 日本文化学超越研究b 日本文化学特殊研究Ⅱa 日本文化学特殊研究Ⅱb	担当教員の変更(29)	
				多文化共生基礎演習Ⅴ	専	教授	胡 潔	平成29年4月	多文化共生基礎演習Ⅴ		
専	准教授	鶴巻 泉子	平成29年4月	比較社会文化論 国際社会動態論Ⅱa 多元文化論Ⅱ 文化動態学総合演習Ⅳa 文化動態学総合演習Ⅳb グローバル化社会共生論Ⅰ	専	准教授	鶴巻 泉子	平成29年4月	比較社会文化論 国際社会動態論Ⅱa 多元文化論Ⅱ 文化動態学総合演習Ⅳa 文化動態学総合演習Ⅳb グローバル化社会共生論Ⅰ 多文化共生基礎演習Ⅰ 多文化共生総合演習Ⅰa 多文化共生総合演習Ⅰb	教育の内容充実のため担当科目変更(29)	
				多文化共生基礎演習Ⅵa 多文化共生基礎演習Ⅵb	専	教授	田所 光男	平成29年4月	多文化共生基礎演習Ⅵa 多文化共生基礎演習Ⅵb		担当教員の変更(29)
専	准教授	西村 秀人	平成29年4月	比較社会文化論 国際社会動態論Ⅱb 多元文化論Ⅲ 文化動態学総合演習Ⅲa 文化動態学総合演習Ⅲb 地域社会共生論Ⅱ	専	准教授	西村 秀人	平成29年4月	比較社会文化論 国際社会動態論Ⅱb 多元文化論Ⅲ 文化動態学総合演習Ⅲa 文化動態学総合演習Ⅲb 地域社会共生論Ⅱ 多文化共生基礎演習Ⅰ 多文化共生総合演習Ⅰa 多文化共生総合演習Ⅰb	教育の内容充実のため担当科目変更(29)	
専	准教授	坂部 晶子	平成29年4月	比較社会文化論 国際社会動態論Ⅰb 多元文化論Ⅰ 文化動態学総合演習Ⅵa 文化動態学総合演習Ⅵb 地域社会共生論Ⅲ 多文化共生基礎演習Ⅰ	専	准教授	坂部 晶子	平成29年4月	比較社会文化論 国際社会動態論Ⅰb 多元文化論Ⅰ 文化動態学総合演習Ⅵa 文化動態学総合演習Ⅵb 地域社会共生論Ⅲ 多文化共生基礎演習Ⅰ 多文化共生総合演習Ⅰa 多文化共生総合演習Ⅰb	教育の内容充実のため担当科目変更(29)	
専	准教授	SAVELIEV IGOR	平成29年4月	国際社会動態論Ⅰa 多元文化論Ⅳ 文化動態学総合演習Ⅴa 文化動態学総合演習Ⅴb グローバル化社会共生論Ⅱ	専	准教授	SAVELIEV IGOR	平成29年4月	国際社会動態論Ⅰa 多元文化論Ⅳ 文化動態学総合演習Ⅴa 文化動態学総合演習Ⅴb グローバル化社会共生論Ⅱ 多文化共生基礎演習Ⅰ 多文化共生総合演習Ⅰa 多文化共生総合演習Ⅰb	教育の内容充実のため担当科目変更(29)	
専	准教授	新井 美佐子	平成29年4月	ジェンダー学概論 ジェンダー学特論a ジェンダー学特論b グローバル化社会共生論Ⅴ							
専	准教授	金 相美	平成29年4月	社会調査方法論 デジタル文化・社会論 ジェンダー学リサーチ演習Ⅳa ジェンダー学リサーチ演習Ⅳb オンライン・コミュニケーション 多文化共生基礎演習Ⅲ 多文化共生総合演習Ⅲa オンライン・コミュニケーション							

専	准教授	古田 香織	平成29年4月	比較社会文化論 ジェンダー学リサーチ演習Ⅲa ジェンダー学リサーチ演習Ⅲb 文化記号論 多文化共生総合演習Ⅲb ドイツ語学上級演習Ⅰ	専	准教授	古田 香織	平成29年4月	比較社会文化論 ジェンダー学リサーチ演習Ⅲa ジェンダー学リサーチ演習Ⅲb 文化記号論 多文化共生総合演習Ⅲb ドイツ語学上級演習Ⅰ	担当教員の変更(29)
専	准教授	重見 晋也	平成29年4月	リサーチ・倫理・情報リテラシー テキストⅠ テキストⅡ						
専	准教授	CROSS Jeremy david	平成29年4月	英語教授法概論 英語教授法特論 英語教授法 英語表現演習Ⅰa 英語表現演習Ⅰb 第二言語習得Ⅰa 第二言語習得Ⅰb						
専	准教授	WATSON Alex	平成29年4月	英語表現演習Ⅲa 英語表現演習Ⅲb 批評理論 文学理論 比較文学 比較文化						
専	准教授	TOMKINSON Fiona gail	平成29年4月	英米文学研究Ⅱa 英米文学研究Ⅱb						
専	准教授	CONRAD Marcus	平成29年4月	ドイツ文化研究Ⅳ ドイツ文化学上級演習Ⅳ ドイツ文化学特殊研究Ⅳ						
専	准教授	小松 雅宏	平成29年4月	言語処理プログラミング演習a 言語処理プログラミング演習b						
専	准教授	HOPSON Nathan edwin	平成29年4月	日本近・現代史研究 日本近・現代史発展演習a 日本近・現代史発展演習b 近代日本文化とアジア 近代日本史購読 世界史の中の東アジア 近代日本史への新視点 大学院演習：近代日本史Ⅰ 大学院演習：近代日本史Ⅱ	専	准教授	HOPSON Nathan edwin	平成29年4月	日本近・現代史研究 日本近・現代史発展演習b 近代日本文化とアジア 近代日本史購読 世界史の中の東アジア 近代日本史への新視点 大学院演習：近代日本史Ⅰ 大学院演習：近代日本史Ⅱ	担当科目調整のため担当科目変更(29)
専	准教授	MCGEE Dylan	平成29年4月	中国・日本の出版文化 日本中世文化論 日本視覚文化論 日本古典文学論 日本近世文化論 日本近世文学論 文化研究概論 日本絵巻物研究 中世日本文化 近世日本文化 中国・日本の印刷文化 古典日本文学 近世日本文学 日本の視覚文化						
専	講師	安井 永子	平成29年4月	言語と社会Ⅳ 社会的行為と言語	専	講師	安井 永子	平成29年4月	言語学特殊研究Ⅰa 言語学特殊研究Ⅰb 言語と社会Ⅳ 社会的行為と言語	平成29年3月 町田健教授退職のため担当科目変更(29)
専	講師	永澤 済	平成29年4月	日本語文法論Ⅱ 日本語彙論特殊研究a 日本語彙論特殊研究b						
専	講師	伊東 章子	平成29年4月	近現代日本の技術文化論						
専	助教	朱 宇正	平成29年4月	文化・歴史研究方法論Ⅰ 文化・歴史研究方法論Ⅱ						
専	助教	三田 昌彦	平成29年4月	西南アジア史研究						
専	助教	伊藤 伸幸	平成29年4月	フィールド調査実習						
兼任	講師	門脇 誠二	平成29年4月	外国考古学研究						
兼任	講師	小島 ますみ	平成29年4月	言語統計処理a 言語統計処理b						
兼任	講師	玉垣 あゆ	平成29年4月	ラテン語a ラテン語b 西洋古典文献学演習Ⅱa 西洋古典文献学演習Ⅱb						
兼任	講師	小坂 光一	平成29年4月	ドイツ語学研究Ⅱ ドイツ語学上級演習Ⅱ						
兼任	講師	栗木 梨衣	平成29年4月	多文化共生実地研修特論 多文化共生実地研修実習						

兼任	講師	小見山 直子	平成29年4月	西洋古典学研究a 西洋古典学研究b						
兼任	講師	中西 須美	平成29年4月	通訳技術演習 I a 通訳技術演習 I b 通訳技術演習a 通訳技術演習b						
兼任	講師	IVANCHENKO Andriy	平成29年4月	英語学術論文演習a 英語学術論文演習b リサーチ・スキルズa リサーチ・スキルズb						
兼任	講師	加藤 淳	平成29年4月	日本語論文作成法 I a						
兼任	講師	久保田 樹	平成29年4月	日本語論文作成法 I b						
兼任	講師	眞野 道子	平成29年4月	日本語論文作成法 II a 文学と東アジア						
兼任	講師	加藤 早苗	平成29年4月	日本語論文作成法 II b						
兼任	講師	渡邊 英幸	平成29年4月	中国史研究 I						
兼任	講師	柴田 昇	平成29年4月	中国史研究 II						
兼任	講師	柳 朋宏	平成29年4月	通時英語学研究 II a 通時英語学研究 II b						
兼任	講師	横手 裕	平成29年4月	中国哲学史研究 III						
					専	准教授	近本 謙介	平成29年4月	アーカイブス・テキスト学基礎演習 アーカイブス・テキスト学概論 アーカイブス・テキスト学フィールドワーク実習 比較人文学総合演習	教育の内容充実のため教員追加(29)
					専	准教授	小川 翔太	平成29年4月	アジア映画史 I 映像研究方法論 II	教育の内容充実のため教員追加(29)
					専	助教	伊藤 信博	平成29年4月	比較社会文化論	教育の内容充実のため教員追加(29)
					兼任	助教	市川 彰	平成29年4月	フィールド調査実習	教育の内容充実のため教員追加(29)

- (注) ・ 設置時の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。
 ・ 後任が決まっていない場合には、「後任未定」と記入してください。
 ・ 辞任者は「備考」に退職年月、氏名、理由を記入してください。
 ・ 年齢は、「**設置時の計画**」には当該学部等の就任時における満年齢を、「**変更状況**」には平成29年5月1日現在の満年齢を記入してください。
 ・ 教員を学年進行中に変更した又は変更する予定の場合(「新規採用」、「担当授業科目の変更」又は「昇格」をいう。)は、変更後の状況を記入するとともに、その理由、後任者が決まっていない場合は、「変更状況」の「氏名」に「後任未定」と記入し、及び今後の採用計画を「備考」に記入してください。
 ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査(AC教員審査)を受けてください。**AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
 ・ 「専任教員採用等変更書(AC)」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」、変更書を提出予定の場合は「〇年〇月変更書提出予定」と記入してください。
 なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「備考」に「(教員審査省略)」及びその変更の理由、変更年度()書き等のみを記入してください。

(2) 専任教員数等

(2) - ① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における設置基準上の必要研究指導教員数	うち、完成年度時における設置基準上の必要教授数	完成年度時における設置基準上の必要研究指導補助教員数
11 名	8 名	3 名

(注) ・ 大学院に専攻ごとに置くものとする教員の数について定める件（平成十一年九月十四日文部省告示第百七十五号）により算出される教員数を記入してください。

(2) - ② 専任教員数

設置時の計画					現在（報告書提出時）の状況					現在（報告書提出時）の完成年度時の計画				
教授	准教授	講師	助教	計	教授	准教授	講師	助教	計 (A)	教授	准教授	講師	助教	計 (B)
64	45	1	7	117	60	44	1	7	112	64	43	1	7	115
(60)	(44)	(1)	(7)	(112)						[0]	[Δ2]	[0]	[0]	[Δ2]
研究指導教員数	研究指導補助教員数	講義のみ担当の教員数			研究指導教員数	研究指導補助教員数	講義のみ担当の教員数			研究指導教員数	研究指導補助教員数	講義のみ担当の教員数		
110	7	28			105	7	28			108	7	28		
(105)	(7)	(28)								[Δ2]	[0]	[0]		

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、() 内に開設時の状況を記入してください。
 ・ 「現在（報告書提出時）の状況」には、報告書提出年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。
 ・ 「現在（報告書提出時）の完成年度時の計画」には、報告書提出年度の5月1日現在、完成年度時に計画している教員数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ1）

(2) - ③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める定年年齢（歳）	報告書提出時（上記 (A)）の教員のうち、定年を延長して採用している教員数	完成年度時（上記 (B)）の教員うち、定年を延長して採用する教員数
65 歳	0 名	0 名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、および、平成29年5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数および完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
 ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。
 ・ 専門職大学院の場合は、「研究指導教員」を「研究者教員」と、「研究指導補助教員」を「実務家教員」と修正して記入してください。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) - ① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由	
1	教授	町田 健	選択	意味論研究Ⅱ	①	平成29年3月退職のため就任辞退（29）	
			選択	歴史言語学研究Ⅰ	①		
			選択	言語学特殊研究Ⅰa	①		
			選択	言語学特殊研究Ⅰb	①		
			選択	個別言語総合演習Ⅰa	①		
			選択	個別言語総合演習Ⅰb	①		
2	准教授	畝部 俊也	選択	インド哲学研究Ⅱ	②	平成28年11月退職のため就任辞退（29）	
			選択	サンスクリット文献学演習Ⅱ	②		
			選択	インド哲学総合演習a	①		
			選択	インド哲学総合演習b	①		
合計（A）				後任補充状況の集計（B）			
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計（a）+（b）+（c）		①の合計数（a）	②の合計数（b）	③の合計数（c）	
2	人	必修	0 科目	必修	0 科目	必修	0 科目
		選択	10 科目	選択	8 科目	選択	2 科目
		自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目
		計	10 科目	計	8 科目	計	2 科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
- ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「(3) - ②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
- ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
- ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由	
1		該当なし					
2							
合計（C）				後任補充状況の集計（D）			
辞任した教員数		担当科目数の合計（a）+（b）+（c）		①の合計数（a）	②の合計数（b）	③の合計数（c）	
0	人	必修	0 科目	必修	0 科目	必修	0 科目
		選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目
		自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目
		計	0 科目	計	0 科目	計	0 科目

- (注) ・ 一度就任した後に、辞任した全ての専任教員の辞任の理由を具体的に記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
- ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
- ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

上記(3)－① ・ (3)－② の合計

合計 (A) + (C)			後任補充状況の集計 (B) + (D)									
辞任等した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)			②の合計数 (b)			③の合計数 (c)		
2	人	必修	0 科目	必修	0 科目	必修	0 科目	必修	0 科目	必修	0 科目	
		選択	10 科目	選択	8 科目	選択	2 科目	選択	0 科目	選択	0 科目	
		自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目	
		計	10 科目	計	8 科目	計	2 科目	計	0 科目	計	0 科目	

(注) ・ 就任辞退(未就任)及び辞任した全専任教員について、教員数、担当科目数の合計、後任補充の状況を記入ください。

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

就任辞退の教員が担当する科目については、当該教員と同様の研究領域の専任教員又は専門性の高い科目については当該分野を専門とする兼任教員が担当しており、授業の実施に支障はないと考えている。
 学生への周知については、シラバス及び年度当初のガイダンスで行った。

(注) ・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

6 留意事項等に対する履行状況等

区 分	留 意 事 項 等	履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
設 置 時 (27年6月)	<p>(同一設置者が設置する医学系研究科名古屋大学・アデレード大学国際連携総合医学専攻)</p> <p>1. 養成する人材像が一般的・包括的な記述となっており、このことからディプロマポリシーも明確ではない。国際連携教育課程制度の趣旨は、我が国の大学と外国の大学が、双方の強みを活かし、また、補完しあいながらより充実した教育研究を行うことであることを踏まえ設置計画の履行に当たっては以下について留意すること。</p> <p>(1) 社会一般や入学を希望する学生に対して、国際連携教育課程制度を通じて養成される人材がどのような専門分野で活躍するかなどを具体的に示すこと。特に、ディプロマポリシーにある「国際的共同研究を推進」について具体的に明示すること。</p>	<p style="color: red;">留意事項</p>	<p>(1) 医学分野において従来からの個別化医療とともに、Genome解析手法を加え、より診断技術の精度を上げた precision medicine (精密医療) を推進するため、本学における神経がん融合研究、アデレード大学における臨床と結びついたトランスレーショナルリサーチといった両大学の特色を相互補完的に取り入れたカリキュラムに基づく国際連携教育課程制度を通じて養成される人材は、医学分野、特に基礎医学研究と観察的・介入的臨床研究を融合したトランスレーショナルリサーチにおいて国際的に活躍する人材であり、ディプロマ・ポリシーに以下(参考1)のとおり追記して示すこととした。</p> <p>また、養成される人材の例として、①日本とオーストラリアの精神医学的疾患の特徴と研究体制を十分に把握し、この2国を含む複数国を巻き込んだ国際共同治験をリードする臨床医学研究者、②がん研究領域で研究者間の国際的関係を構築し、各国のがん研究の連携を図り、全体として世界のがん研究をリードする基礎医学研究者、③日本で高齢化社会に対する各種先駆的な取組に触れ、医学的見地から必要とされる技術について理解し、日本とオーストラリ</p>

アを含む世界各国で医学応用分野で指導的立場となる産業界リーダー、をホームページに掲載して社会一般や入学希望者に示すとともに、入学時全体ガイダンスにおいて入学者にも提示した。

さらに、ディプロマ・ポリシーに掲げる各項目については、論文審査以外にも学生から年次レポートを提出させ、指導教員と合同運営委員会によって評価・確認を行い、ディプロマ・ポリシーに沿った学位審査・学位授与が行われるようにした。

(参考1)

○ディプロマ・ポリシー

「豊かな人間性、高い倫理性、科学的論理性を備え、創造性に富み、多様な学問的素養を身に付け、医学分野、特にトランスレーショナルリサーチにおける国際的共同研究を推進し、医学と人類の福祉の発展に著しく貢献できる人材」を養成する。

(28)

(2) 養成する人材像やディプロマポリシーを明確化するには、アドミッションポリシーとして、どのような人材を求めているかをより具体的に示し、2つのポリシーの対応関係についても留意すること。その際、「国際的に活躍する強い意欲」の解釈に幅が出ないように、入学者選抜における判断基準を定めるなど連携外国大学を含めた選考全体の意思疎通を十分に図ること。

(2) 本専攻において求める人材について、ディプロマ・ポリシーに追記したトランスレーショナルリサーチ、また、加速度的な高齢化社会に対応できる医工連携を含めた異分野連携を進めるため、アドミッション・ポリシーに以下(参考2)のとおり追記して示すこととした。

また、アドミッション・ポリシーに沿った入学動機を備えた学生であるか適性を評価するために、書類審査と口頭試問を行うとともに、基軸となる英語能力が入学選抜の基準を満たしているかTOEFL iBT等のスコアについて基準を設け、専攻全体で統一した意志疎通のもと入学審査を行っている。

(参考2)

○アドミッション・ポリシー

① 人間に対する共感と深い洞察力を持つ。

② 知的好奇心旺盛で科学的探究心に富んでいる。

③ 広い視野を持ち、物事を多面的に捉えることができる。

④ 協調性があり、医学分野、特にトランスレーショナルリサーチにおいて国際的に活躍する強い意欲がある。

(3) カリキュラムポリシーについても、上記を踏まえつつ、対応関係に齟齬が生じないように留意すること。

2. 年間の研究指導計画や成績評価基準が不明確であるため、学生が十分に理解できるよう、あらかじめ十分な説明を行うこと。

3. 連携外国大学の教員組織について、本専攻の教育研究の目的を十分に果たし得る体制となっていることについて、社会一般や入学を希望する学生に対して、あらかじめ明示すること。

⑤ 独創力を備え、新たな分野を開拓する気概を持つ。
⑥ 異分野連携によるイノベーションの創出を行う資質を持つ。
(28)

(3) カリキュラム・ポリシーについて、ディプロマ・ポリシー及びアドミッション・ポリシーへの対応を踏まえ、トランスレーショナルリサーチについて、以下(参考3)のとおり追記して示すこととした。

このカリキュラム・ポリシーに沿って、トランスレーショナルリサーチの知識・技術・倫理に加え、国際的研究組織構築のための戦略・手法・実例など幅広い知識を教授する講義を設けるなど、国際的視野と国際的競争力を有する医学研究者の養成を目標としたカリキュラムを作成した。

(参考3)

○カリキュラム・ポリシー
「世界トップ大学同士の相互補完的協同教育により、高い倫理性、科学的論理性を修得させ、幅広い学問的素養を身に付けさせ、医学分野、特にトランスレーショナルリサーチにおける倫理と国際的共同研究の組織構築の戦略手法を学ばせること」

(28)

年間の学修計画書作成にあたっては、学生が既に身につけている知識、スキルや具体的な研究分野等に応じて、各指導教員から学生に対して履修モデル等を示しつつきめ細かな指導を行っている。また、成績評価基準についてはシラバスに記載するとともに、各指導教員が学生に対して個別に説明することとした。(28)

名古屋大学とアデレード大学で、基礎医学領域と臨床医学領域から幅広い専門分野を設定し、その医学研究領域をカバーする専任教員を有する教員組織についてシラバスとともに配付した。また、国際連携専攻入学時全体ガイダンスの中で、入学者に対して詳細に説明した。(28)

平成28年10月、連携外国大学の教員組織をホームページに掲載した。(29)

左記にあわせて、平成28年10月末までに連携外国大学の教員組織をホームページに掲載する。(28)

	<p>4. 連携外国大学との調整を行う教員に関する業績等が明らかでないが、調整を行い得る十分な能力を持った者を配置し、連携外国大学との連絡調整に支障をきたすことのないよう十分な体制を構築すること。</p>		<p>連携外国大学との調整を行う教員は、英語能力が高く、博士課程の学生を指導するのに十分な研究業績と国際経験を有するべきであると考え、オーストラリア国籍を有するとともに、カナダのSaskatchewan大学でBiologyの博士号、イギリスのCambridge大学で発行される英語教員免許を有し、オーストラリアのMonash大学薬学部でAssociate Professorとして薬物立体構造解析の研究を行っていた経歴を持つ教員を配置した。また、業務遂行を円滑に行うために語学能力の優れた専属秘書を配置し、体制を強化した。(28)</p>	
<p>設置時 (28年6月)</p>	<p>(同一設置者が設置する理学研究科名古屋大学・エディンバラ大学国際連携理学専攻)</p> <p>1. 本専攻に置く博士後期課程の教育を研究指導のみによって行うのであれば、双方の大学が同種の学位を授与するに当たって求めている標準的な要件を踏まえつつ、本専攻において行われる研究指導において最低限行われるべき内容や要件を協定書等において明確にすること。その上で、国際的に通用する質を備える専攻として、教育研究活動の一層の水準の向上に努めること。</p> <p>2. 双方の大学から研究指導教員を選出する際は、専攻分野に関して高度の専門性が求められる博士後期課程の目的を踏まえ、学生が志向する研究分野に関する実質的な指導を行うことができる体制を構築すること。</p> <p>3. 協定書の締結にあたっては、申請書に示されている内容を確実に反映させること。</p>	<p>留意事項</p>	<p>研究指導において最低限行われるべき内容である、 ①1年次の「口頭試問」 ②2年次の「Poster Presentation」 ③留学先における研究（最短6か月から1年間） ④3年次の「最終年次研究報告会」 ⑤博士論文執筆 ⑥最終的な口頭試問の実施については、両大学ですでに確認されている。また、学生に対しては、ガイダンスでこれらの内容を通知した。(29)</p> <p>研究指導教員選出の際は、専攻長及びアカデミックコーディネーターが、学生が志向する研究分野や内容を聴取し、学際的な共同研究の観点も踏まえつつ、効果的な研究指導が行われることを事前に十分検証した上で行うことにした。(29)</p> <p>協定書の締結にあたり、申請書に示した基本的な学務条項について記載した。また、研究指導に係る詳細については、ガイダンスにおいて周知した。(29)</p>	

<p>設置時 (28年11月)</p>	<p>(同一設置者が設置する医学系研究科名古屋大学・ルンド大学国際連携総合医学専攻) 国際連携専攻については、両大学の入学資格を満たす必要があることから、既設の専攻と比べて要件が厳格となり敬遠されることが想定される。 本専攻の継続的な運営に支障が生じないよう、入学希望者のニーズを踏まえつつ、学生確保に最善を尽くすこと。</p>	<p>留意事項</p>	<p>本専攻への応募に関心を示した学生に対して、応募前に面談し、本専攻の概要、入学資格、履修科目、修了要件などを説明することにより、本専攻への理解を促した。 連携外国大学における研究室の確保に当たっては、合同運営委員会が積極的に仲介し、希望に添った研究を実施できる適切な連携先の確保に努めた。(29)</p>	
-------------------------	--	-------------	--	--

- (注) ・ 「設置時」には、当該大学等の設置時（認可時又は届出時）に付された留意事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る留意事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入し、報告年度を（ ）書きで付記してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該設置計画履行状況調査の結果、付された意見に対する履行状況等について、具体的に記入するとともに、その履行状況等を裏付ける資料があれば、添付してください。
 - ・ 同一設置者が設置する既設学部等に付された意見は、当該大学から提出される全ての報告書に記入してください。
 - ・ 該当がない場合には、「該当なし」と記入してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査時」の（年月）には、調査結果を公表した月（通常2月）を記入してください。（実地調査や面接調査を実施した日ではありません。）

7 その他全般的事項

<人文学研究科 人文学専攻（前期課程）>

（1）設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
	該当なし

- （注）・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。
- ・ 設置時の「設置の趣旨等を記載した書類」の項目に沿って作成し、それ以外の事柄については適宜項目を設けてください。（記入例参照）

（2）教員の資質の維持向上の方策（FD活動含む）

① 実施体制

a 委員会の設置状況

- (1) 運営委員会
研究科長を委員長とし、評議員、副研究科長及び各コース長から構成
- (2) 教務委員会
副研究科長及び各コースから選出された委員から構成
- (3) 計画評価委員会
研究科長を委員長とし、評議員、副研究科長、各コース長及び研究科内主要委員会の委員長で構成

b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）

- (1) 運営委員会
月1回の開催を原則とし、必要に応じて臨時の委員会を開催
- (2) 教務委員会
月1回の開催を原則とし、必要に応じて臨時の委員会を開催
- (3) 計画評価委員会
各学期に2回程度開催

c 委員会の審議事項等

- (1) 運営委員会
研究科の教育研究に係る方針を協議し、委員会の下に設けた教育研究推進室でFD活動の企画を行う。
- (2) 教務委員会
教育カリキュラムの実施に係る事項を管掌し、授業評価アンケートを実施するとともに、授業の実施や授業評価に関するFD活動を教育研究推進室と共同で企画する。
- (3) 計画評価委員会
研究科の教育研究に係る計画を策定し、その実施状況を評価するとともに、計画の達成状況に関連してFDを企画する。

② 実施状況

a 実施内容

- ・教育研究上の課題に関する勉強会（運営委員会及び教育研究推進室が企画）
- ・授業の改善を目指した意見交換会（教務委員会が教育研究推進室と共同で企画）
- ・教育研究に係る計画の策定に向けた教員懇談会（計画評価委員会が企画）

b 実施方法

上記の各委員会で企画を立て、各学期2回を目途に実施

c 開催状況（教員の参加状況含む）

現在、企画立案中

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

現時点では未実施のため、該当なし

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

各学期末に、すべての授業について所定の様式による授業評価アンケートを実施

b 教員や学生への公開状況、方法等

授業評価アンケートの結果は教育研究推進室が集約し、授業改善を目指したFD等を通して教員間で共有を図る。学生に対しては、学内の教育研究ファイルサービスシステム上で、工夫点、改善点も含めて公開する。

（注）・「① a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

（3）自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

研究科の発足からまだ日が浅いが、開設に向けて準備を進めていた平成28年度中も含め、これまでのところ、設置の趣旨・目的は、概ね当初の計画通り実現している。

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

平成30年3月中に公表予定

b 公表方法

研究科のホームページ及び教育研究推進室が刊行する冊子で公表する予定

③ 認証評価を受ける計画

学内で検討中

（注）・設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(4) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書

a ホームページに公表の有無 (有 ・ 無)

b 公表時期 (未公表の場合は予定時期) (平成29年 6月 1日)

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設 置 者

国立大学法人 名古屋大学

(2) 大 学 名

名古屋大学大学院

(3) 大学の位置

〒464-8601
愛知県名古屋市千種区不老町

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職 名	設 置 時	変 更 状 況	備 考
学 長	(マツオ セイイチ) 松 尾 清 一 (平成27年4月)		
理 事	(ワタナベ ヨシヒト) 渡 辺 芳 人 (平成24年4月)		
理 事	(マツシタ ユウシュウ) 松 下 裕 秀 (平成27年4月)		
理 事	(キムラ ショウゴ) 木 村 彰 吾 (平成27年4月)		
理 事	(ザイマ シゲアキ) 財 満 鎮 明 (平成29年4月)		
理 事	(タカハシ マサヒデ) 高 橋 雅 英 (平成29年4月)		
理 事	(イソガイ ケイスケ) 磯 谷 桂 介 (平成29年1月)		
理 事	(ゴウ ミチコ) 郷 通 子 (平成27年4月)		

研究科長	(サクマ ジュンイチ) 佐久間 淳 一 (平成29年4月)		
副研究科長	(サクライ タツヒコ) 櫻 井 龍 彦 (平成29年4月)		
副研究科長	(フルオヤ トモヒロ) 古尾谷 知 浩 (平成29年4月)		

(注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。

(例) 平成27年度に報告済の内容 → (27)

平成29年度に報告する内容 → (29)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載（昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正）するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
- ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
- ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象研究科等の名称, 定員, 入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部/学科または研究科の専攻等, 定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。
 ・ 様式は, 平成27年度開設の博士後期課程の場合(平成29年度までの3年間)ですが, 開設年度・修業年限に合わせて作成してください。(修業年限が2年以下の場合には欄を削除し, 4年以上の場合には, 欄を設けてください。)

(5) - ① 調査対象研究科等の名称等

調査対象研究科等の名称(学位)	学位又は学科の分野	設置時の計画			備考
		修業年限	入学定員	収容定員	
人文学研究科 人文学専攻 (博士後期課程) 博士(文学) 博士(歴史学) 博士(学術)	文学関係	3年	61人	183人	基礎となる学部等 文学部

- (注) ・ 「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
 ・ 定員を変更した場合は, 「備考」に変更前的人数, 変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。
 ・ 学生募集停止を予定している場合は, 「備考」にその旨記載してください。
 ・ 「学位又は学科の分野」には, 「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要(別記様式第2号(その2の1))」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。

(5) - ② 調査対象研究科等の入学者の状況

区分	報告年度 平成29年度		平成30年度		平成31年度		平均入学定員超過率	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期		
A 入学定員	61 () []	() () []	() () []	() () []	() () []	() () []	0.86倍	
志願者数	79 (20) [32]	() () []	() () []	() () []	() () []	() () []		
受験者数	76 (20) [31]	() () []	() () []	() () []	() () []	() () []		
合格者数	56 (14) [21]	() () []	() () []	() () []	() () []	() () []		
B 入学者数	53 (13) [18]	() () []	() () []	() () []	() () []	() () []		
入学定員超過率 B/A	0.86							

- (注) ・ 数字は, 平成29年5月1日現在の数字を記入してください。
 ・ ()内には, 社会人の状況について**内数**で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 ・ 「社会人」については, 認可申請書において貴学が定める社会人の定義に従って記入してください。
 ・ []内には, 留学生の状況について**内数**で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 ・ 留学生については, 「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により, 我が国の大学(大学院を含む。), 短期大学, 高等専門学校, 専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 ・ 短期交換留学生など, 定員内に含めていない学生については記入しないでください。
 ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は, 春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は, その他の学期欄は「-」を記入してください。また, その他の学期に入学定員を設けている場合は, 備考欄にその人数を記入してください。
 ・ 「入学定員超過率」については, **各年度の春季入学とその他を合計した入学定員, 入学者数で算出**してください。なお, 計算の際は**小数点以下第3位を切り捨て, 小数点以下第2位まで記入**してください。
 ・ 「平均入学定員超過率」には, 開設年度から提出年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。なお, 計算の際は「**入学定員超過率**」と同様にしてください。

(5) -③ 調査対象研究科等の在学者の状況

報告年度 学 年	平成29年度		平成30年度		平成31年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	53 [18] (-)	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	
2年次	/		[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	
3年次			[] ()	[] ()			
計	53 [18] (-)	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	

- (注) ・ 数字は、平成29年5月1日現在の数字を記入してください。
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 - ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 - ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、**各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数**を記入してください。
 - ・ ()内には、**留年者の状況**について、内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	入学者数(b)	退学者数(a)	退学者数(内訳)			主な退学理由	入学者数に 対する退学者数 の割合 (a/b)
			退学した年度	退学者数	退学者数の うち留学生数		
平成29年度 入学者	53 人	0 人	平成29年度	0 人	0 人		0.00 %
			平成30年度	人	人		
			平成31年度	人	人		
平成30年度 入学者	人	人	平成30年度	人	人		%
			平成31年度	人	人		
平成31年度 入学者	人	人	平成31年度	人	人		%
合 計	53 人	0 人					0.00 %

(注)・数字は、平成29年5月1日現在の数字を記入してください。

- 各年度の入学者数については、該当年度当初に入学した人数を記入してください。(途中で退学者がいた場合でも、その退学者数を減らす必要はありません。)
- 各年度の退学者数については、退学年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記入してください。
- 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
- 「入学者数に対する退学者数の割合」は、【当該対象年度の入学者のうち、平成29年5月1日現在までに退学した学生数の合計】を、【当該対象年度の入学者数】で除した割合(%)を記入してください。その際、小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位までを記入してください。
- 「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(〇人)」というように、その人数も含めて記入してください。
 (記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
 ・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

2 授業科目の概要

<人文学研究科 人文学専攻（後期課程）>

(1) 授業科目表

科目区分	授業科目の名称		配当年次	単位数			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門科目	言語文化系	言語学分野	博士論文研究a	1・2・3前		2		2 3	4				平成29年3月退職のため(29)
		博士論文研究b	1・2・3後	2		2 3	4				平成29年3月退職のため(29)		
	文芸言語学領域	日本語分野	博士論文研究 I a	1・2・3前	2		2	1					
			博士論文研究 I b	1・2・3後	2		2	1					
			博士論文研究 II a	1・2・3前	2		1	1					
			博士論文研究 II b	1・2・3後	2		1	1					
			日本語学特別研究 I a	未開講 1・2・3前	2		1						履修希望者がいなかったため未開講(29)
			日本語学特別研究 I b	1・2・3後	2		1						
			日本語学特別研究 II	1・2・3後 1・2・3前	2			1					カリキュラムの調整のため開講期変更(29)
	英語英米文学分野		博士論文研究 I a	未開講 1・2・3前	2		1						履修希望者がいなかったため未開講(29)
			博士論文研究 I b	1・2・3後	2		1						
			博士論文研究 II a	未開講 1・2・3前	2		1						履修希望者がいなかったため未開講(29)
			博士論文研究 II b	1・2・3後	2		1						
			博士論文研究 III a	未開講 1・2・3前	2		1						履修希望者がいなかったため未開講(29)
			博士論文研究 III b	1・2・3後	2		1						
			博士論文研究 IV a	未開講 1・2・3前	2			1					履修希望者がいなかったため未開講(29)
			博士論文研究 IV b	1・2・3後	2			1					
			博士論文研究 V a	未開講 1・2・3前	2		1						履修希望者がいなかったため未開講(29)
			博士論文研究 V b	1・2・3後	2		1						
			博士論文研究 VI a	1・2・3前	2		1						
			博士論文研究 VI b	1・2・3後	2		1						
			博士論文研究 VII a	未開講 1・2・3前	2		1						履修希望者がいなかったため未開講(29)
			博士論文研究 VII b	1・2・3後	2		1						
			博士論文研究 VIII a	未開講 1・2・3前	2		1						履修希望者がいなかったため未開講(29)
			博士論文研究 VIII b	1・2・3後	2		1						
			博士論文研究 IX a	未開講 1・2・3前	2			1					履修希望者がいなかったため未開講(29)
博士論文研究 IX b	1・2・3後	2			1								
英語学特別研究 a	未開講 1・2・3前	2		2							履修希望者がいなかったため未開講(29)		
英語学特別研究 b	1・2・3後	2		2									

フランス語 フランス文学分野	博士論文研究 I a	未開講 1-2-3前	2	1			履修希望者がいなかったため未開講 (29)
	博士論文研究 I b	1-2-3後	2	1			
	博士論文研究 II a	1-2-3前	2	1	1		教育内容の充実のため教員追加 (29)
	博士論文研究 II b	1-2-3後	2	1	1		教育内容の充実のため教員追加 (29)
	博士論文研究 III a	1-2-3前	2	1	1		担当教員の変更 (29)
	博士論文研究 III b	1-2-3後	2	1	1		担当教員の変更 (29)
	博士論文研究 IV a	未開講 1-2-3前	2		1		履修希望者がいなかったため未開講 (29)
	博士論文研究 IV b	1-2-3後	2		1		
ドイツ語 ドイツ文学分野	博士論文研究 I a	未開講 1-2-3前	2	1			履修希望者がいなかったため未開講 (29)
	博士論文研究 I b	1-2-3後	2	1			
	博士論文研究 II a	未開講 1-2-3前	2		1		履修希望者がいなかったため未開講 (29)
	博士論文研究 II b	1-2-3後	2		1		
	博士論文研究 III a	未開講 1-2-3前	2	1			履修希望者がいなかったため未開講 (29)
	博士論文研究 III b	1-2-3後	2	1			
	博士論文研究 IV a	未開講 1-2-3前	2	1			履修希望者がいなかったため未開講 (29)
	博士論文研究 IV b	1-2-3後	2	1			
	博士論文研究 V a	未開講 1-2-3前	2		1		履修希望者がいなかったため未開講 (29)
	博士論文研究 V b	1-2-3後	2		1		
博士論文研究 VI b	1-2-3後	2		1			
中国語 中国文学分野	博士論文研究 I a	未開講 1-2-3前	2		1		履修希望者がいなかったため未開講 (29)
	博士論文研究 I b	1-2-3後	2		1		
	博士論文研究 II a	1-2-3前	2	1			
	博士論文研究 II b	1-2-3後	2	1			
	博士論文研究 III a	1-2-3前	2		1		
	博士論文研究 III b	1-2-3後	2		1		
	博士論文研究 IV a	未開講 1-2-3前	2		1		履修希望者がいなかったため未開講 (29)
	博士論文研究 IV b	1-2-3後	2		1		
	博士論文研究 V a	未開講 1-2-3前	2		1		履修希望者がいなかったため未開講 (29)
	博士論文研究 V b	1-2-3後	2		1		
	博士論文研究 VI a	1-2-3前	2		1		
	博士論文研究 VI b	1-2-3後	2		1		
日本語 教育学分野	博士論文研究 I a	1-2-3前	2	1			
	博士論文研究 I b	1-2-3後	2	1			
	博士論文研究 II a	1-2-3前	2		1		
	博士論文研究 II b	1-2-3後	2		1		
	博士論文研究 III a	1-2-3前	2	1			
	博士論文研究 III b	1-2-3後	2	1			
	博士論文研究 IV a	未開講 1-2-3前	2		1		履修希望者がいなかったため未開講 (29)
	博士論文研究 IV b	1-2-3後	2		1		
	博士論文研究 V a	未開講 1-2-3前	2		1		履修希望者がいなかったため未開講 (29)

	博士論文研究 Vb	1-2-3後	2		1					
	日本語教育総合実習a	未開講 1-2-3前	2		1				履修希望者がいなかったため未開講 (29)	
	日本語教育総合実習b	1-2-3後	2		1					
英語教育学分野	博士論文研究 I a	未開講 1-2-3前	2		1				履修希望者がいなかったため未開講 (29)	
	博士論文研究 I b	1-2-3後	2		1					
	博士論文研究 II a	未開講 1-2-3前	2	1					履修希望者がいなかったため未開講 (29)	
	博士論文研究 II b	1-2-3後	2	1						
	博士論文研究 III a	未開講 1-2-3前	2	1					履修希望者がいなかったため未開講 (29)	
	博士論文研究 III b	1-2-3後	2	1						
	博士論文研究 IV a	1-2-3前	2	1						
	博士論文研究 IV b	1-2-3後	2	1						
	博士論文研究 V a	未開講 1-2-3前	2	1					履修希望者がいなかったため未開講 (29)	
	博士論文研究 V b	1-2-3後	2	1						
	博士論文研究 VI a	未開講 1-2-3前	2	1					履修希望者がいなかったため未開講 (29)	
	博士論文研究 VI b	1-2-3後	2	1						
	博士論文研究 VII a	未開講 1-2-3前	2		1				履修希望者がいなかったため未開講 (29)	
	博士論文研究 VII b	1-2-3後	2		1					
応用日本語学分野	博士論文研究 I a	1-2-3前	2	1						
	博士論文研究 I b	1-2-3後	2	1						
	博士論文研究 II a	未開講 1-2-3前	2		1				履修希望者がいなかったため未開講 (29)	
	博士論文研究 II b	1-2-3後	2		1					
	博士論文研究 III a	1-2-3前	2			1				
	博士論文研究 III b	1-2-3後	2			1				
	博士論文研究 IV a	1-2-3前	2	1						
	博士論文研究 IV b	1-2-3後	2	1						
	博士論文研究 V a	1-2-3前	2		1					
	博士論文研究 V b	1-2-3後	2		1					
	博士論文研究 VI a	未開講 1-2-3前	2		1				履修希望者がいなかったため未開講 (29)	
	博士論文研究 VI b	1-2-3後	2		1					
	博士論文研究 VII a	1-2-3前	2		1					
	博士論文研究 VII b	1-2-3後	2		1					
博士論文研究 VIII	1-2-3後	2	1							
哲学倫理学領域	哲学分野	博士論文研究 a	1-2-3前	2		3 2	1 2			平成28年11月退職のため担当教員変更 (29)
		博士論文研究 b	1-2-3後	2		3 2	1 2			平成28年11月退職のため担当教員変更 (29)
	西洋古典学分野	哲学・倫理学総合演習 I	1-2-3前	2		2	2			担当教員の変更 (29)
		哲学・倫理学総合演習 II	1-2-3後	2		2	2			担当教員の変更 (29)
		博士論文研究 a	1-2-3前	2			1			
博士論文研究 b	1-2-3後	2			1					
西洋古典学総合演習	1-2-3通 1-2-3前	2			1				カリキュラムの調整のため開講期変更 (29)	

		中国哲学分野	博士論文研究a	未開講 1-2-3前	2	2 1					教育内容の充実のため教員追加(29) 履修希望者がいなかったため未開講(29)
			博士論文研究b	1-2-3後	2	2 1					教育内容の充実のため教員追加(29)
		インド哲学分野	博士論文研究 I	1-2-3前	2	1					平成28年11月退職のため担当教員変更(29)
			博士論文研究 II	1-2-3後	2	1 1					
歴史文化系	歴史学・人類学領域	日本史学分野	博士論文研究a	1-2-3前	2	4 2	2				担当教員の変更(29)
			博士論文研究b	1-2-3後	2	4 2	2				担当教員の変更(29)
			日本史学特別研究 I a	1-2-3前	2	1					
			日本史学特別研究 I b	1-2-3後	2	1					
			日本史学特別研究 II a	未開講 1-2-3前	2	1	1				履修希望者がいなかったため未開講(29) 担当教員の変更(29)
			日本史学特別研究 II b	1-2-3後	2	1	1				担当教員の変更(29)
			日本史学特別研究 III a	未開講 1-2-3前	2	1					履修希望者がいなかったため未開講(29)
			日本史学特別研究 III b	1-2-3後	2	1					
			日本史学特別研究 IV a	1-2-3前	2	1	1				担当教員の変更(29)
		日本史学特別研究 IV b	1-2-3後	2	1	1				担当教員の変更(29)	
		東洋史学分野	博士論文研究a	未開講 1-2-3前	2	2	1				履修希望者がいなかったため未開講(29)
			博士論文研究b	1-2-3後	2	2	1				
		西洋史学分野	博士論文研究a	1-2-3前	2	4 3	2				担当教員の職位の変更(29) 担当教員の変更(29)
			博士論文研究b	1-2-3後	2	4 3	2				担当教員の職位の変更(29) 担当教員の変更(29)
美学美術史学分野	博士論文研究a	未開講 1-2-3前	2	3					履修希望者がいなかったため未開講(29)		
	博士論文研究b	1-2-3後	2	3							
	美学美術史学特別研究a	未開講 1-2-3前	2	3					履修希望者がいなかったため未開講(29)		
	美学美術史学特別研究b	1-2-3後	2	3							
考古学分野	博士論文研究a	未開講 1-2-3前	2	1	1				履修希望者がいなかったため未開講(29)		
	博士論文研究b	1-2-3後	2	1	1						
文化人類学分野	博士論文研究 I a	1-2-3前	2	1							
	博士論文研究 I b	1-2-3後	2	1							
	博士論文研究 II a	未開講 1-2-3前	2	1					履修希望者がいなかったため未開講(29)		
	博士論文研究 II b	1-2-3後	2	1 1					担当教員の変更(29)		
	博士論文研究 III a	未開講 1-2-3前	2	1	1				履修希望者がいなかったため未開講(29) 担当教員の変更(29)		
	博士論文研究 III b	1-2-3後	2	1	1				担当教員の変更(29)		

		博士論文研究IVa	未開講 1-2-3前	2		1				履修希望者がいなかったため未開講(29) 担当教員の変更(29)	
		博士論文研究IVb	1-2-3後	2		1				担当教員の変更(29)	
		比較人文学総合演習	未開講 1-2-3通	2	2	2				教育内容の充実のため教員追加(29) 履修希望者がいなかったため未開講(29)	
総合文化学領域	映像学分野	博士論文研究a	1-2-3前	2		1	2			教育内容の充実のため教員追加(29)	
		博士論文研究b	1-2-3後	2		1	2			教育内容の充実のため教員追加(29)	
		映像文化論 I	1-2-3前	2		1					
		映像文化論 II	1-2-3後	2		1	1			担当教員の変更(29)	
		映像理論と実践 I	未開講 1-2-3前	2			1			履修希望者がいなかったため未開講(29)	
		映像理論と実践 II	1-2-3後	2			1				
	日本文化学分野	博士論文研究a	1-2-3前	2		3	1				
		博士論文研究b	1-2-3後	2		3	1				
	文化動態学分野	博士論文研究 I a	1-2-3前	2		1					
		博士論文研究 I b	1-2-3後	2		1					
		博士論文研究 II a	未開講 1-2-3前	2		1					履修希望者がいなかったため未開講(29)
		博士論文研究 II b	1-2-3後	2		1					
		博士論文研究 III a	未開講 1-2-3前	2			1				履修希望者がいなかったため未開講(29)
		博士論文研究 III b	1-2-3後	2			1				
博士論文研究 IV a		未開講 1-2-3前	2			1				履修希望者がいなかったため未開講(29)	
博士論文研究 IV b		1-2-3後	2			1					
博士論文研究 V a		未開講 1-2-3前	2			1				履修希望者がいなかったため未開講(29)	
博士論文研究 V b		1-2-3後	2			1					
博士論文研究 VI a		未開講 1-2-3前	2			1				履修希望者がいなかったため未開講(29)	
博士論文研究 VI b		1-2-3後	2			1					
ジェンダー学分野	博士論文研究 I a	1-2-3前	2		1	2				担当教員の変更(29)	
	博士論文研究 I b	1-2-3後	2		1	2				担当教員の変更(29)	
	博士論文研究 II a	1-2-3前	2			1	2			担当教員の変更(29)	
	博士論文研究 II b	1-2-3後	2			1	2			担当教員の変更(29)	
	博士論文研究 III a	未開講 1-2-3前	2			1				履修希望者がいなかったため未開講(29)	
	博士論文研究 III b	1-2-3後	2			1					

- (注) ・ 認可申請書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
- ・ 設置認可時の授業科目全て(兼任, 兼担教員が担当する科目を含む。)を黒字で記載してください。その上で, 前年度報告時(平成28年度に認可(届出)された大学等は設置認可(届出)時より変更されているものは赤字見え消し修正し, 「備考」に赤字で理由・変更年月等を記入してください。
なお, 昨年度の報告書において赤字で見え消した部分については, 見え消しのまま黒字にしてください。
 - ・ 兼任, 兼担の教員が担当する授業科目については, 備考欄に担当する教員数を「兼〇」と記入してください。
 - ・ 授業科目を追加又は内容を変更する場合で, 専任教員が担当するため教員審査が必要なものについては, 「専任教員採用等設置計画変更書」の審査予定年月等を「備考」に記入してください。(今後審査を受ける場合には, 「平成〇年〇月 提出予定」と記入してください。)
 - ・ 「配当年次」について, 設置認可申請時に開講時期を記入する必要がなかった学部等(平成19年度認可以前)についても, 設置認可時の状況を黒字で記入してください。また, 前年度報告時より修正があれば, 赤字で見え消し修正をしてください。
 - ・ 履修希望者がいなかったため未開講(29)に未開講となった科目についても記入してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計(A)	必修	選択	自由	計	
科目	科目	科目	科目	科目	科目	科目	科目	
0	167	0	167	0	167	0	167	
				[0]	[0]	[0]	[0]	

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに, [] 内に, 設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例: 1科目減の場合: Δ1)

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由, 代替措置の有無
1	該当なし					
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあった授業科目が配当年次に達しているにも関わらず, 何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお, 理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については, 記入しないでください。
 - ・ 教職大学院の場合は, 「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由, 代替措置の有無
1	該当なし					
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり, 何らかの理由で廃止(教育課程から削除)した授業科目について記入してください。なお, 理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は, 「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{\quad}{167} = \boxed{\quad} \%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て, 小数点以下第2位までを記入してください。
- ・ 「未開講科目と廃止科目の計」が, 「(3)未開講科目」と「(4)廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備考		
(1) 校地等	区 分	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計	大学全体 うち附属病院 51,789㎡		
	校舎敷地	617,966 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	617,966 ㎡			
	運動場用地	105,994 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	105,994 ㎡			
	小 計	723,960 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	723,960 ㎡			
	そ の 他	2,495,186 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	2,495,186 ㎡			
	合 計	3,219,146 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	3,219,146 ㎡			
(2) 校舎	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計	大学全体			
	578,743 ㎡ (578,743 ㎡)	0 ㎡ (0 ㎡)	0 ㎡ (0 ㎡)	578,743 ㎡ (578,743 ㎡)				
(3) 教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体		
	234 室	240 室	1,326 室	17 室 (補助職員 1 人)	14 室 (補助職員 0 人)			
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称			室 数				
	人文学研究科 人文学専攻			134 室				
(5) 図書・設備	新設学部等の名称	図 書	学術雑誌		視聴覚資料	機 械・器 具	標 本	
		[うち外国書]	[うち外国書]	電子ジャーナル				
	冊	種	[うち外国書]	点	点	点		
	人文学研究科 人文学専攻	596,741 [252,195] (580,346 [245,395])	(5,365 [1,972]) (5,365 [1,972])	82 [82] (82 [82])	5,807 (5756)	43 (43)	0 (0)	
計	596,741 [252,195] (580,346 [245,395])	(5,365 [1,972]) (5,365 [1,972])	82 [82] (82 [82])	5,807 (5756)	(43)	0 (0)		
(6) 図書館	面 積		閱 覧 座 席 数		収 納 可 能 冊 数		大学全体	
	24,829 ㎡		2,031 席		3,140,500 冊			
(7) 体育館	面 積		体育館以外のスポーツ施設の概要				大学全体	
	9,229 ㎡		弓道場、プール (25m×7コース)、陸上競技場 (400mトラック)、テニスコート (11面)、野球場 (1面)、相撲道場・ボクシング練習場・ゴルフ練習場・アーチェリー練習場・ライフル射撃場 (各1か所)					
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度
		教員 1 人当り研究費等	千円	千円	図書購入費	千円	千円	千円
	共同研究費等	千円	千円	設備購入費	千円	千円	千円	
	学生 1 人当り納付金	第 1 年次	第 2 年次	第 3 年次	第 4 年次	第 5 年次	第 6 年次	
		千円	千円	千円	千円	千円	千円	
学生納付金以外の維持方法の概要								

- (注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第 2 号 (その 1 の 1) に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1) 校地等」及び「(2) 校舎」は大学全体の数字を、その他の項目は A C 対象学部等の数値を記入してください。)
- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
 - ・ 「(5) 図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には平成 29 年 5 月 1 日現在の数値を記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(29)」を「備考」に赤字で記入してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消した部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
 - ・ 国立大学については「(8) 経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4 既設大学等の状況

大学の名称	名古屋大学							備考	
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	開年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍			
文学部 人文学科	4	125	3年次10	520 520	学士(文学)	1.06	昭和24年度 平成8年度	愛知県名古屋市千種区不老町	
教育学部 人間発達科学科	4	65	3年次10	280 280	学士(教育学)	1.10	昭和24年度 平成9年度	愛知県名古屋市千種区不老町	
法学部 法律・政治学科	4	150	3年次10	620 620	学士(法学)	1.05	昭和24年度 平成9年度	愛知県名古屋市千種区不老町	
経済学部 経済学科	4	140		840 560	学士(経済学)	1.06	昭和24年度 昭和24年度	愛知県名古屋市千種区不老町	経済学部の定員超過率については、学部単位で入学者を募集しているため学部単位で記入した。
経営学科	4	65		260	学士(経済学)		昭和24年度		
学部共通				20					
情報文化学部 自然情報学科	4	—		—	学士(情報文化学)	—	平成5年度 平成5年度	愛知県名古屋市千種区不老町	平成29年より学生募集停止 平成29年より学生募集停止
社会システム情報学科	4	—		—	学士(情報文化学)	—	平成5年度		
学部共通			3年次10	20					
情報学部 自然情報学科	4	38	—	135 38	学士(情報学)	1.02	平成29年度 平成29年度	愛知県名古屋市千種区不老町	
人間・社会情報学科	4	38	—	38	学士(情報学)	1.02	平成29年度		
コンピュータ科学科	4	59	—	59	学士(情報学)	1.11	平成29年度		
理学部 数理学科	4	55	—	1080 220	学士(理学)	1.05	昭和24年度 平成7年度	愛知県名古屋市千種区不老町	理学部の定員超過率については、学部単位で入学者を募集しているため学部単位で記入した。
物理学科	4	90	—	360	学士(理学)		昭和24年度		
化学科	4	50	—	200	学士(理学)		昭和24年度		
生命理学科	4	50	—	200	学士(理学)		平成8年度		
地球惑星科学科	4	25	—	100	学士(理学)		平成4年度		
医学部 医学科	6	107	3年次5	1520 662	学士(医学)	1.01	昭和24年度 昭和24年度	愛知県名古屋市昭和区鶴舞町65	
保健学科	4	200	3年次20 2年次6	858	学士(看護学) 学士(保健学) 学士(リハビリテーション学)	1.04	平成9年度	愛知県名古屋市東区大幸南1-1-20	

大学の名称	名古屋大学								備考	
既設学部等の名称	修業年限	入定学員	編入学員	収定容員	学位又は称号	平均入学定員超過率	開年度	所在地		
	年	人	年次人	人		倍				
工学部				—				昭和24年度 平成8年度	愛知県名古屋市千種区不老町	平成29年より学生募集停止 平成29年より学生募集停止 平成29年より学生募集停止 平成29年より学生募集停止 平成29年より学生募集停止 平成29年より学生募集停止
化学・生物工学科	4	—	—	—	学士（工学）	—				
物理工学科	4	—	—	—	学士（工学）	—	平成9年度			
電気電子・情報工学科	4	—	—	—	学士（工学）	—	平成7年度			
機械・航空工学科	4	—	—	—	学士（工学）	—	平成6年度			
環境土木・建築学科	4	—	—	—	学士（工学）	—	平成8年度			
化学生命工学科	4	99	—	99	学士（工学）	1.04	平成29年度			
物理工学科	4	83	—	83	学士（工学）	1.04	平成29年度			
マテリアル工学科	4	110	—	110	学士（工学）	0.99	平成29年度			
電気電子情報工学科	4	118	—	118	学士（工学）	1.02	平成29年度			
機械・航空宇宙工学科	4	150	—	150	学士（工学）	1.04	平成29年度			
エネルギー理工学科	4	40	—	40	学士（工学）	0.95	平成29年度			
環境土木・建築学科	4	80	—	80	学士（工学）	1.00	平成29年度			
農学部				680				昭和26年度	愛知県名古屋市千種区不老町	
生物環境科学科	4	35	—	140	学士（農学）	1.07	平成18年度			
資源生物科学科	4	55	—	220	学士（農学）	1.05	平成18年度			
応用生命科学科	4	80	—	320	学士（農学）	1.06	平成18年度			

大学の名称	名古屋大学								備考	
既設学部等の名称	修業年限	入定学員	編入学員	収定容員	学位又は称号	平均入学定員超過率	開年度	所在地		
	年	人	年次人	人		倍				
文学研究科								昭和28年度 平成12年度	愛知県名古屋市千種区不老町	平成29年より学生募集停止
人文学専攻 （博士前期課程）	2	—	—	—	修士（文学） 修士（歴史学）	—				
（博士後期課程）	3	—	—	—	博士（文学） 博士（歴史学）	—				
人文学研究科							平成29年度 平成29年度			
人文学専攻 （博士前期課程）	2	104	—	104	修士（文学） 修士（歴史学） 修士（学術）	1.03		愛知県名古屋市千種区不老町		
（博士後期課程）	3	61	—	61	博士（文学） 博士（歴史学） 博士（学術）	0.86				

大学の名称	名古屋大学							備考
既設学部等の名称	修業年限	入学員 入定	編入学員 入定	収容員 入定	学位又は 称号	平均入学 定員 超過率	開 設 年 度	所 在 地
	年	人	年次 人	人		倍		
教育発達科学研究科 教育科学専攻 (博士前期課程)	2	32	—	64	修士(教育学)	0.67	昭和28年度 平成12年度	愛知県名古屋市千種区不老町
(博士後期課程)	3	16	—	48	修士(教育) 博士(教育学) 博士(教育)	0.99		
心理発達科学専攻 (博士前期課程)	2	22	—	44	修士(心理学) 修士(臨床心理学)	0.83	平成12年度	
(博士後期課程)	3	15	—	45	博士(心理学)	1.06		
法学研究科 綜合法政専攻 (博士前期課程)	2	35	—	70	修士(法学) 修士(比較法学) 修士(現代法学)	0.87	昭和28年度 平成16年度	愛知県名古屋市千種区不老町
(博士後期課程)	3	17	—	51	博士(法学) 博士(比較法学) 博士(現代法学)	0.72		
実務法曹養成専攻 (専門職学位課程)	3	50	—	170	法務博士 (専門職)	0.52	平成16年度	
経済学研究科 社会経済システム専攻 (博士前期課程)	2	30	—	60	修士(経済学) 修士(経営管理学)	0.84	昭和28年度 平成12年度	愛知県名古屋市千種区不老町
(博士後期課程)	3	15	—	45	博士(経済学)	0.51		
産業経営システム専攻 (博士前期課程)	2	14	—	28	修士(経済学)	1.25	平成12年度	
(博士後期課程)	3	7	—	21	博士(経済学)	0.76		
情報学研究科 数理情報学専攻 (博士前期課程)	2	14	—	14	修士(情報学) 修士(学術)	0.78	平成29年度 平成29年度	愛知県名古屋市千種区不老町
(博士後期課程)	3	4	—	4	修士(情報学) 修士(学術)	0.75		

大学の名称	名古屋大学							備考
既設学部等の名称	修業 年限	入 学 員	編入学 定員	収 容 員	学位又 は称号	平均入学 定員 超過率	開 年 設 度	所 在 地
	年	人	年次 人	人		倍		
複雑系科学専攻 (博士前期課程)	2	36	—	36	修士(情報学)	1.27	平成29年度	
(博士後期課程)	3	8	—	8	修士(情報学) 修士(学術)	0.75		
社会情報学専攻 (博士前期課程)	2	18	—	18	修士(情報学)	0.88	平成29年度	
(博士後期課程)	3	5	—	5	修士(情報学) 修士(学術)	0.80		
心理・認知科学専攻 (博士前期課程)	2	15	—	15	修士(情報学)	0.33	平成29年度	
(博士後期課程)	3	7	—	7	修士(情報学) 修士(学術)	1.42		
情報システム学専攻 (博士前期課程)	2	32	—	32	修士(情報学)	0.96	平成29年度	
(博士後期課程)	3	9	—	9	修士(情報学) 修士(学術)	0.66		
知能システム学専攻 (博士前期課程)	2	29	—	29	修士(情報学)	1.13	平成29年度	
(博士後期課程)	3	10	—	10	修士(情報学) 修士(学術)	0.60		
理学研究科 素粒子宇宙物理学専攻 (博士前期課程)	2	66	—	132	修士(理学)	1.08	昭和28年度 平成7年度	愛知県名古屋市千種区不老町
(博士後期課程)	3	30	—	90	博士(理学)	0.73		
物質理学専攻 (博士前期課程)	2	63	—	126	修士(理学)	1.21	平成7年度	
(博士後期課程)	3	22	—	67	博士(理学)	0.68		

大学の名称	名古屋大学								備考
既設学部等の名称	修業 年限	入 定 学 員	編入学 定 員	収 定 容 員	学位又 は称号	平均入学 定員 超過率	開 年 設 度	所 在 地	
	年	人	年次 人	人		倍			
生命理学専攻 (博士前期課程)	2	42	—	84	修士(理学)	1.03	平成8年度		
(博士後期課程)	3	18	—	55	博士(理学)	0.30			
名古屋大学・エディンバラ大学国際連携理学専攻 (博士後期課程)	3	2	—	4	博士(理学)	0.25	平成29年度		
医学系研究科 総合医学専攻 (博士課程)	4	153	—	628	博士(医学)	1.14	昭和30年度 平成25年度	愛知県名古屋市昭和区鶴舞町65	
名古屋大学・アデレード大学国際連携総合医学専攻 (博士課程)	4	4	—	12	博士(医学)	0.33	平成27年度		
名古屋大学・ルンド大学国際連携総合医学専攻 (博士課程)	4	4	—	4	博士(医学)	0.50	平成29年度		
分子総合医学専攻 (博士課程)	4	—	—	—	博士(医学)	—	平成12年度		平成25年より募集停止
細胞情報医学専攻 (博士課程)	4	—	—	—	博士(医学)	—	平成11年度		平成25年より募集停止
機能構築医学専攻 (博士課程)	4	—	—	—	博士(医学)	—	平成12年度		平成25年より募集停止
健康社会医学専攻 (博士課程)	4	—	—	—	博士(医学)	—	平成10年度		平成25年より募集停止
医科学専攻 (修士課程)	2	20	—	40	修士(医科学)	1.07	平成13年度		
医療行政コース	1	10	—	10	修士(医療行政学)	1.00			
看護学専攻 (博士前期課程)	2	18	—	36	修士(看護学)	0.86	平成14年度	愛知県名古屋市東区大幸南1-1-20	
(博士後期課程)	3	6	—	18	博士(看護学)	1.33			

大学の名称	名古屋大学							備考		
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学員定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	開年度	所在地		
	年	人	年次人	人		倍				
医療技術学専攻 (博士前期課程)	2	20	—	40	修士(医療技術学)	1.27	平成14年度	愛知県名古屋市東区大幸南1-1-20		
(博士後期課程)	3	7	—	21	博士(医療技術学)	0.56				
リハビリテーション療法学専攻 (博士前期課程)	2	10	—	20	修士(リハビリテーション療法学)	1.40	平成14年度		愛知県名古屋市東区大幸南1-1-20	
(博士後期課程)	3	4	—	12	博士(リハビリテーション療法学)	1.50				
工学研究科 化学・生物工学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(工学)	—	昭和28年度 平成16年度	愛知県名古屋市千種区不老町	平成29年より学生募集停止	
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(工学)	—				
マテリアル理工学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(工学)	—	平成16年度		平成29年より学生募集停止	
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(工学)	—				
電子情報システム専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(工学)	—	平成16年度		平成29年より学生募集停止	
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(工学)	—				
機械理工学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(工学)	—	平成16年度		平成29年より学生募集停止	
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(工学)	—				
航空宇宙工学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(工学)	—	昭和35年度		平成29年より学生募集停止	
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(工学)	—				
社会基盤工学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(工学)	—	平成16年度		平成29年より学生募集停止	
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(工学)	—				

大学の名称	名古屋大学								備考
既設学部等の名称	修業 年限	入 学 定 員	編入学 定 員	収 容 定 員	学位又 は称号	平均入学 定員 超過率	開 設 年 度	所 在 地	
	年	人	年次 人	人		倍			
結晶材料工学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(工学)	—	昭和52年度		平成29年より学生 募集停止
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(工学)	—			
エネルギー理工学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(工学)	—	平成5年度		平成29年より学生 募集停止
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(工学)	—			
量子工学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(工学)	—	平成3年度		平成29年より学生 募集停止
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(工学)	—			
マイクロ・ナノシステム工学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(工学)	—	平成16年度		平成29年より学生 募集停止
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(工学)	—			
物質制御工学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(工学)	—	平成8年度		平成29年より学生 募集停止
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(工学)	—			
計算理工学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(工学)	—	平成9年度		平成29年より学生 募集停止
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(工学)	—			
有機・高分子化学専攻 (博士前期課程)	2	34	—	34	修士(工学)	1.23	平成29年度		
(博士後期課程)	3	8	—	8	博士(工学)	1.00			
応用物質化学専攻 (博士前期課程)	2	34	—	34	修士(工学)	1.00	平成29年度		
(博士後期課程)	3	8	—	8	博士(工学)	0.25			

大学の名称	名古屋大学							備考
既設学部等の名称	修業 年限	入 学 定 員	編入学 定 員	収 容 定 員	学位又 は称号	平均入学 定員 超過率	開 設 年 度	所 在 地
	年	人	年次 人	人		倍		
生命分子工学専攻 (博士前期課程)	2	28	—	28	修士(工学)	1.07	平成29年度	
(博士後期課程)	3	6	—	6	博士(工学)	1.16		
応用物理学専攻 (博士前期課程)	2	39	—	39	修士(工学)	0.97	平成29年度	
(博士後期課程)	3	9	—	9	博士(工学)	0.22		
物質科学専攻 (博士前期課程)	2	39	—	39	修士(工学)	0.94	平成29年度	
(博士後期課程)	3	9	—	9	博士(工学)	0.33		
材料デザイン工学専攻 (博士前期課程)	2	34	—	34	修士(工学)	1.08	平成29年度	
(博士後期課程)	3	8	—	8	博士(工学)	0.00		
物質プロセス工学専攻 (博士前期課程)	2	35	—	35	修士(工学)	1.28	平成29年度	
(博士後期課程)	3	9	—	9	博士(工学)	0.33		
化学システム工学専攻 (博士前期課程)	2	34	—	34	修士(工学)	1.14	平成29年度	
(博士後期課程)	3	8	—	8	博士(工学)	0.12		
電気工学専攻 (博士前期課程)	2	34	—	34	修士(工学)	0.97	平成29年度	
(博士後期課程)	3	9	—	9	博士(工学)	0.44		
電子工学専攻 (博士前期課程)	2	47	—	47	修士(工学)	1.19	平成29年度	
(博士後期課程)	3	13	—	13	博士(工学)	0.38		

大学の名称	名古屋大学							備考
既設学部等の名称	修業 年限	入 学 員	編入学 員	収 容 員	学位又 は称号	平均入学 定員 超過率	開 年 設 度	所 在 地
	年	人	年次 人	人		倍		
情報・通信工学専攻 (博士前期課程)	2	33	—	33	修士(工学)	1.33	平成29年度	
(博士後期課程)	3	8	—	8	博士(工学)	0.62		
機械システム工学専攻 (博士前期課程)	2	66	—	66	修士(工学)	0.78	平成29年度	
(博士後期課程)	3	14	—	14	博士(工学)	0.35		
マイクロ・ナノ機械理工学専攻 (博士前期課程)	2	36	—	36	修士(工学)	1.19	平成29年度	
(博士後期課程)	3	8	—	8	博士(工学)	0.75		
航空宇宙工学専攻 (博士前期課程)	2	38	—	38	修士(工学)	1.15	平成29年度	
(博士後期課程)	3	8	—	8	博士(工学)	0.62		
エネルギー理工学専攻 (博士前期課程)	2	18	—	18	修士(工学)	1.33	平成29年度	
(博士後期課程)	3	5	—	5	博士(工学)	0.60		
総合エネルギー専攻 (博士前期課程)	2	18	—	18	修士(工学)	1.11	平成29年度	
(博士後期課程)	3	4	—	4	博士(工学)	1.25		
土木工学専攻 (博士前期課程)	2	36	—	36	修士(工学)	0.88	平成29年度	
(博士後期課程)	3	9	—	9	博士(工学)	0.22		
生命農学研究科 生物圏資源学専攻 (博士前期課程)	2	35	—	70	修士(農学)	1.12	昭和30年度 平成11年度	愛知県名古屋市千種区不老町
(博士後期課程)	3	10	—	30	博士(農学)	0.86		

大学の名称	名古屋大学								備考
既設学部等の名称	修業 年限	入 学 員	編入学 員	収 容 員	学位又 は称号	平均入学 定員 超過率	開 年 度	所 在 地	
	年	人	年次 人	人		倍			
生物機構・機能科学専攻 (博士前期課程)	2	37	—	74	修士(農学)	1.14	平成9年度		
(博士後期課程)	3	11	—	33	博士(農学)	0.54			
応用分子生命科学専攻 (博士前期課程)	2	39	—	78	修士(農学)	1.21	平成10年度		
(博士後期課程)	3	12	—	36	博士(農学)	0.44			
生命技術科学専攻 (博士前期課程)	2	28	—	56	修士(農学)	1.10	平成16年度		
(博士後期課程)	3	9	—	27	博士(農学)	1.14			
国際開発研究科 国際開発専攻 (博士前期課程)	2	22	—	44	修士(国際開発学) 修士(学術)	1.22	平成3年度 平成3年度	愛知県名古屋市千種区不老町	
(博士後期課程)	3	11	—	33	博士(国際開発学) 博士(学術)	0.99			
国際協力専攻 (博士前期課程)	2	22	—	44	修士(国際開発学) 修士(学術)	1.20	平成4年度		
(博士後期課程)	3	11	—	33	博士(国際開発学) 博士(学術)	0.84			
国際コミュニケーション専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(学術)	—	平成5年度		平成29年より学生募集停止
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(学術)	—			
多元数理科学研究科 多元数理科学専攻 (博士前期課程)	2	47	—	94	修士(数理学)	1.07	平成7年度 平成7年度	愛知県名古屋市千種区不老町	
(博士後期課程)	3	30	—	90	博士(数理学)	0.39			

大学の名称	名古屋大学							備考		
既設学部等の名称	修業 年限	入 学 員	編入学 員	収 容 員	学位又 は称号	平均入学 定員 超過率	開 年 設 度	所 在 地		
	年	人	年次 人	人		倍				
国際言語文化研究科 日本語文化専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(文学)	—	平成10年度	愛知県名古屋市千種区不老町	平成29年より学生募集停止	
(博士後期課程)	3	—	—	—	修士(学術) 博士(文学) 博士(学術)	—	平成10年度			
国際多元文化専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(文学)	—	平成10年度			
(博士後期課程)	3	—	—	—	修士(学術) 博士(文学) 博士(学術)	—				
環境学研究科 地球環境科学専攻 (博士前期課程)	2	53	—	107	修士(環境学)	0.89	平成13年度			愛知県名古屋市千種区不老町
(博士後期課程)	3	24	—	74	修士(理学) 博士(環境学) 博士(理学)	0.42	平成13年度			
都市環境学専攻 (博士前期課程)	2	47	—	94	修士(環境学)	1.31	平成13年度			
(博士後期課程)	3	21	—	63	修士(工学) 修士(建築学) 博士(環境学) 博士(工学) 博士(建築学)	0.47				
社会環境学専攻 (博士前期課程)	2	27	—	63	修士(環境学)	1.00	平成13年度			
(博士後期課程)	3	13	—	49	修士(社会学) 修士(地理学) 修士(法学) 修士(経済学) 博士(環境学) 博士(社会学) 博士(地理学) 博士(法学) 博士(経済学)	0.58				

大学の名称	名古屋大学							備考	
既設学部等の名称	修業 年限	入 定 学 員	編入学 定 員	収 定 容 員	学位又 は称号	平均入学 定員 超過率	開 年 設 度	所 在 地	
	年	人	年次 人	人		倍			
情報科学研究科 計算機数理学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(情報科学) 修士(工学) 修士(学術)	—	平成15年度 平成15年度	愛知県名古屋市千 種区不老町	平成29年より学生 募集停止
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(情報科学) 博士(工学) 博士(学術)	—			
情報システム学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(情報科学) 修士(工学) 修士(学術)	—	平成15年度		
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(情報科学) 博士(工学) 博士(学術)	—			
メディア科学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(情報科学) 修士(工学) 修士(学術)	—	平成15年度		
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(情報科学) 博士(工学) 博士(学術)	—			
複雑系科学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(情報科学) 修士(工学) 修士(学術)	—	平成15年度		
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(情報科学) 博士(工学) 博士(学術)	—			
社会システム情報学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(情報科学) 修士(工学) 修士(学術)	—	平成15年度		
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(情報科学) 博士(工学) 博士(学術)	—			

大学の名称	名古屋大学								備考
既設学部等の名称	修業 年限	入 学 定 員	編入学 定員	収 容 定 員	学位又 は称号	平均入 学定員 超過率	開 年 設 度	所 在 地	
	年	人	年次 人	人		倍			
創薬科学研究科 基盤創薬学専攻 (博士前期課程)	2	32	—	59	修士(創薬科学)	1.05	平成24年度 平成24年度	愛知県名古屋市千 種区不老町	
(博士後期課程)	3	10	—	30	博士(創薬科学)	0.80			

(注) ・ 本調査の対象となっている大学等の設置者(国立大学法人)が設置している全ての大学(学部, 学科)及び大学院(専攻)(AC対象学部等含む)について, それぞれの学校種ごとに, 平成29年5月1日現在の上記項目の情報を記入してください。

- ・ 学部の学科または研究科の専攻等, 「入学定員を定めている組織」ごとに記入してください。
※「入学定員を定めている組織ごと」には, 課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
※なお, 課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は, 法令上規定されている組織上の最小単位(大学であれば「学科」, 短期大学であれば「専攻課程」)でも記載してください。
- ・ 専攻科に係るものについては, 記入する必要はありません。
- ・ AC対象学部等についても必ず記入してください。
- ・ 「平均入学定員超過率」には, 標準修業年限に相当する期間における入学定員に対する入学者の割合の平均の小数点以下第2位まで(小数点以下第3位を切り捨て)を記入してください。
- ・ 学生募集を停止している学部等がある場合, 入学定員・収容定員・平均入学定員超過率は「—」とし, 「備考」に「平成〇〇年より学生募集停止」と記入してください。

5 教員組織の状況

<人文学研究科 人文学専攻（後期課程）>

(1) 担当教員表

設置時の計画					変更状況					備考
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
専	教授	佐久間 淳一	平成29年4月	博士論文研究a 博士論文研究b						
専	教授	堀江 薫	平成29年4月	博士論文研究a 博士論文研究b						
専	教授	町田 健	平成29年4月	博士論文研究a 博士論文研究b			後任未定			平成29年3月 町田健教授就任辞退(29) 担当科目には複数の担当教員が配置されており支障はない。
専	教授	釘貫 亨	平成29年4月	博士論文研究 I a 博士論文研究 I b						
専	教授	齋藤 文俊	平成29年4月	博士論文研究 I a 博士論文研究 I b 日本語学特別研究 I a 日本語学特別研究 I b						
専	教授	塩村 耕	平成29年4月	博士論文研究 II a 博士論文研究 II b						
専	教授	大室 剛志	平成29年4月	博士論文研究 I a 博士論文研究 I b 英語学特別研究 a 英語学特別研究 b						
専	教授	田中 智之	平成29年4月	博士論文研究 III a 博士論文研究 III b 英語学特別研究 a 英語学特別研究 b						
専	教授	大名 力	平成29年4月	博士論文研究 II a 博士論文研究 II b						
専	教授	滝川 睦	平成29年4月	博士論文研究 VI a 博士論文研究 VI b						
専	教授	長畑 明利	平成29年4月	博士論文研究 VII a 博士論文研究 VII b						
専	教授	松岡 光治	平成29年4月	博士論文研究 V a 博士論文研究 V b						
専	教授	上原 早苗	平成29年4月	博士論文研究 VIII a 博士論文研究 VIII b						
専	教授	中村 靖子	平成29年4月	博士論文研究 I a 博士論文研究 I b						
専	教授	藤井 たぎる	平成29年4月	博士論文研究 III a 博士論文研究 III b						
専	教授	西川 智之	平成29年4月	博士論文研究 IV a 博士論文研究 IV b						
専	教授	松澤 和宏	平成29年4月	博士論文研究 I a 博士論文研究 I b						
専	教授	丸尾 誠	平成29年4月	博士論文研究 II a 博士論文研究 II b						
専	教授	玉岡 賀津雄	平成29年4月	博士論文研究 I a 博士論文研究 I b						
専	教授	杉村 泰	平成29年4月	博士論文研究 III a 博士論文研究 III b						
専	教授	HAIG Edward	平成29年4月	博士論文研究 II a 博士論文研究 II b						
専	教授	木下 徹	平成29年4月	博士論文研究 IV a 博士論文研究 IV b						
専	教授	尾関 修治	平成29年4月	博士論文研究 VI a 博士論文研究 VI b						
専	教授	杉浦 正利	平成29年4月	博士論文研究 III a 博士論文研究 III b						
専	教授	山下 淳子	平成29年4月	博士論文研究 V a 博士論文研究 V b						
専	教授	衣川 隆生	平成29年4月	博士論文研究 IV a 博士論文研究 IV b						
専	教授	浮葉 正親	平成29年4月	博士論文研究 VIII						
専	教授	靱山 洋介	平成29年4月	博士論文研究 I a 博士論文研究 I b						

専	教授	栗田 秀法	平成29年4月	博士論文研究a 博士論文研究b 美学美術史学特別研究a 美学美術史学特別研究b						
専	准教授	宇都木 昭	平成29年4月	博士論文研究a 博士論文研究b						
専	准教授	加藤 高志	平成29年4月	博士論文研究a 博士論文研究b						
専	准教授	井土 慎二	平成29年4月	博士論文研究a 博士論文研究b						
専	准教授	大島 義和	平成29年4月	博士論文研究a 博士論文研究b						
専	准教授	宮地 朝子	平成29年4月	博士論文研究 I a 博士論文研究 I b 日本語学特別研究 II						
専	准教授	大井田 晴彦	平成29年4月	博士論文研究 II a 博士論文研究 II b						
専	准教授	秋田 喜美	平成29年4月	博士論文研究 IV a 博士論文研究 IV b						
専	准教授	渡辺 美樹	平成29年4月	博士論文研究 IX a 博士論文研究 IX b						
専	准教授	安川 晴基	平成29年4月	博士論文研究 II a 博士論文研究 II b						
専	准教授	山口 庸子	平成29年4月	博士論文研究 Va 博士論文研究 Vb						
専	准教授	奥田 智樹	平成29年4月	博士論文研究 II a 博士論文研究 II b						
専	准教授	加藤 靖恵	平成29年4月	博士論文研究 III a 博士論文研究 III b 博士論文研究 IV a 博士論文研究 IV b	専 教授	小栗 栖 等	平成29年4月	博士論文研究 III a 博士論文研究 III b	担当教員の変更(29)	
				専 准教授	加藤 靖恵	平成29年4月	博士論文研究 IV a 博士論文研究 IV b			
専	准教授	田村 加代子	平成29年4月	博士論文研究 I a 博士論文研究 I b						
専	准教授	佐野 誠子	平成29年4月	博士論文研究 IV a 博士論文研究 IV b						
専	准教授	勝川 裕子	平成29年4月	博士論文研究 III a 博士論文研究 III b						
専	准教授	陳 朝輝	平成29年4月	博士論文研究 VI a 博士論文研究 VI b						
専	准教授	笠井 直美	平成29年4月	博士論文研究 V a 博士論文研究 V b						
専	准教授	鷺見 幸美	平成29年4月	博士論文研究 IV a 博士論文研究 IV b 日本語教育総合演習 a 日本語教育総合演習 b						
専	准教授	志波 彩子	平成29年4月	博士論文研究 V a 博士論文研究 V b						
専	准教授	林 誠	平成29年4月	博士論文研究 II a 博士論文研究 II b						
専	准教授	村尾 玲美	平成29年4月	博士論文研究 I a 博士論文研究 I b						
専	准教授	三輪 晃司	平成29年4月	博士論文研究 VII a 博士論文研究 VII b						
専	准教授	石崎 俊子	平成29年4月	博士論文研究 VI a 博士論文研究 VI b						
専	准教授	李 澤熊	平成29年4月	博士論文研究 II a 博士論文研究 II b						
専	准教授	俵山 雄司	平成29年4月	博士論文研究 VII a 博士論文研究 VII b						
専	准教授	佐藤 弘毅	平成29年4月	博士論文研究 V a 博士論文研究 V b						
専	准教授	布施 哲	平成29年4月	博士論文研究 a 博士論文研究 b	専 准教授	布施 哲	平成29年4月	博士論文研究 a 博士論文研究 b	担当教員の変更(29)	
				専 教授	田村 均	平成29年4月	哲学・倫理学総合演習 I 哲学・倫理学総合演習 II			
専	准教授	吉武 純夫	平成29年4月	哲学・倫理学総合演習 I 哲学・倫理学総合演習 II 博士論文研究 a 博士論文研究 b 西洋古典学総合演習	専 教授	宮原 勇	平成29年4月	哲学・倫理学総合演習 I 哲学・倫理学総合演習 II	担当教員の変更(29)	
				専 准教授	吉武 純夫	平成29年4月	博士論文研究 a 博士論文研究 b 西洋古典学総合演習			
専	准教授	畝部 俊也	平成29年4月	博士論文研究 a 博士論文研究 b 博士論文研究 II	専 教授	田村 均	平成29年4月	博士論文研究 a 博士論文研究 b	平成28年11月 退職のため担当教員変更(29)	
				専 教授	和田 壽弘	平成29年4月	博士論文研究 II			

専	准教授	林 謙一郎	平成29年4月	博士論文研究a 博士論文研究b	専 教授	池内 敏	平成29年4月	博士論文研究a 博士論文研究b	担当教員の変更(29)
専	准教授	林 謙一郎	平成29年4月	博士論文研究a 博士論文研究b 博士論文研究a 博士論文研究b	専 准教授	林 謙一郎	平成29年4月	博士論文研究a 博士論文研究b	担当科目調整のため担当科目変更(29)
専	准教授	加納 修	平成29年4月	博士論文研究a 博士論文研究b	専 教授	加納 修	平成29年4月	博士論文研究a 博士論文研究b	平成29年1月 准教授から教授に昇格(29)
専	准教授	梶原 義実	平成29年4月	博士論文研究a 博士論文研究b	専 教授	古尾谷 知浩	平成29年4月	博士論文研究a 博士論文研究b	担当教員の変更(29)
専	准教授	梶原 義実	平成29年4月	博士論文研究a 博士論文研究b	専 准教授	梶原 義実	平成29年4月	博士論文研究a 博士論文研究b	担当教員の変更(29)
専	准教授	東 賢太郎	平成29年4月	比較人文学総合演習	専 准教授	東 賢太郎	平成29年4月	比較人文学総合演習 博士論文研究II a 博士論文研究II b	担当科目調整のため担当科目変更(29)
専	准教授	近本 謙介	平成29年4月	博士論文研究III a 博士論文研究III b	専 教授	阿部 泰郎	平成29年4月	博士論文研究III a 博士論文研究III b	担当教員の変更(29)
専	准教授	近本 謙介	平成29年4月	比較人文学総合演習	専 准教授	近本 謙介	平成29年4月	比較人文学総合演習	教育内容の充実のため担当科目変更(29)
専	准教授	馬 然	平成29年4月	映像理論と実践 I 映像理論と実践 II	専 准教授	馬 然	平成29年4月	映像理論と実践 I 映像理論と実践 II 博士論文研究a 博士論文研究b	教育内容の充実のため担当科目変更(29)
専	准教授	小川 翔太	平成29年4月	博士論文研究a 博士論文研究b	専 准教授	小川 翔太	平成29年4月	博士論文研究a 博士論文研究b 映像文化論II	担当科目調整のため担当科目変更(29)
専	准教授	日比 嘉高	平成29年4月	博士論文研究a 博士論文研究b					
専	准教授	鶴巻 泉子	平成29年4月	博士論文研究IV a 博士論文研究IV b					
専	准教授	西村 秀人	平成29年4月	博士論文研究III a 博士論文研究III b					
専	准教授	坂部 晶子	平成29年4月	博士論文研究VI a 博士論文研究VI b					
専	准教授	SAVELIEV Igor	平成29年4月	博士論文研究V a 博士論文研究V b					
専	准教授	新井 美佐子	平成29年4月	博士論文研究III a 博士論文研究III b					
専	准教授	金 相美	平成29年4月	博士論文研究II a 博士論文研究II b	専 准教授	金 相美	平成29年4月	博士論文研究II b	担当科目調整のため担当科目変更(29)
専	准教授	古田 香織	平成29年4月	博士論文研究II a 博士論文研究II b	専 准教授	古田 香織	平成29年4月	博士論文研究II a	担当科目調整のため担当科目変更(29)
専	准教授	CONRAD Marcus	平成29年4月	博士論文研究VI b					
専	准教授	HOPSON Nathan edwin	平成29年4月	日本史学特別研究II a 日本史学特別研究II b 日本史学特別研究IV a 日本史学特別研究IV b	専 教授	斎藤 夏来	平成29年4月	日本史学特別研究II a 日本史学特別研究II b	担当教員の変更(29)
専	准教授	羽賀 祥二	平成29年4月	日本史学特別研究IV a 日本史学特別研究IV b	専 教授	羽賀 祥二	平成29年4月	日本史学特別研究IV a 日本史学特別研究IV b	
専	講師	永澤 済	平成29年4月	博士論文研究III a 博士論文研究III b					
					専 教授	藤村 逸子	平成29年4月	博士論文研究II a 博士論文研究II b	教育内容の充実のため教員追加(29)
					専 教授	神塚 淑子	平成29年4月	博士論文研究a 博士論文研究b	教育内容の充実のため教員追加(29)

- (注) ・ 設置時の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。
・ 後任が決まっていない場合には、「後任未定」と記入してください。
・ 辞任者は「備考」に退職年月、氏名、理由を記入してください。
・ 年齢は、「**設置時の計画**」には当該学部等の就任時における満年齢を、「**変更状況**」には平成29年5月1日現在の満年齢を記入してください。
・ 教員を学年進行中に変更した又は変更する予定の場合(「新規採用」、「担当授業科目の変更」又は「昇格」をいう。)は、変更後の状況を記入するとともに、その理由、後任者が決まっていない場合は、「変更状況」の「氏名」に「後任未定」と記入し、及び今後の採用計画を「備考」に記入してください。
・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査(aC教員審査)を受けてください。AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。
・ 「専任教員採用等変更書(aC)」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」、変更書を提出予定の場合は「〇年〇月変更書提出予定」と記入してください。
なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「備考」に「(教員審査省略)」及びその変更の理由、変更年度()書き等のみを記入してください。

(2) 専任教員数等

(2)-① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における設置基準上の必要研究指導教員数	うち、完成年度時における設置基準上の必要教授数	完成年度時における設置基準上の必要研究指導補助教員数
16 名	11 名	3 名

(注) ・ 大学院に専攻ごとに置くものとする教員の数について定める件（平成十一年九月十四日文部省告示第百七十五号）により算出される教員数を記入してください。

(2)-② 専任教員数

設置時の計画					現在（報告書提出時）の状況					現在（報告書提出時）の完成年度時の計画				
教授	准教授	講師	助教	計	教授	准教授	講師	助教	計 (a)	教授	准教授	講師	助教	計 (B)
64	45	1	7	117	60	44	1	7	112	64	43	1	7	115
(60)	(44)	(1)	(7)	(112)						[0]	[Δ2]	[0]	[0]	[Δ2]
研究指導教員数	研究指導補助教員数	講義のみ担当の教員数			研究指導教員数	研究指導補助教員数	講義のみ担当の教員数			研究指導教員数	研究指導補助教員数	講義のみ担当の教員数		
110	7	0			105	7	0			108	7	0		
(105)	(7)	(0)								[Δ2]	[0]	[0]		

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、() 内に開設時の状況を記入してください。
 ・ 「現在（報告書提出時）の状況」には、報告書提出年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。
 ・ 「現在（報告書提出時）の完成年度時の計画」には、報告書提出年度の5月1日現在、完成年度時に計画している教員数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ1）

(2)-③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める定年年齢（歳）	報告書提出時（上記 (a)）の教員のうち、定年を延長して採用している教員数	完成年度時（上記 (B)）の教員うち、定年を延長して採用する教員数
65 歳	0 名	0 名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、および、平成29年5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数および完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
 ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。
 ・ 専門職大学院の場合は、「研究指導教員」を「研究者教員」と、「研究指導補助教員」を「実務家教員」と修正して記入してください。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) - ① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由				
1	教授	町田 健	選択	博士論文研究a	①	平成29年3月退職のため就任辞退（29）				
			選択	博士論文研究b	①					
2	准教授	畝部 俊也	選択	博士論文研究a	①	平成28年11月退職のため就任辞退（29）				
			選択	博士論文研究b	①					
			選択	博士論文研究Ⅱ	①					
3	准教授	HOPSON Nathan edwin	選択	日本史学特別研究Ⅱa	①	担当科目を調整し、教授が担当することとしたため（29）				
			選択	日本史学特別研究Ⅱb	①					
			選択	日本史学特別研究Ⅳa	①					
			選択	日本史学特別研究Ⅳb	①					
合計（A）					後任補充状況の集計（B）					
就任を辞退した教員数			担当科目数の合計（a）+（b）+（c）		①の合計数（a）	②の合計数（b）	③の合計数（c）			
3	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	9	科目	選択	9	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	9	科目	計	9	科目	計	0	科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
- ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「(3) - ②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」 |
|---|

(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由				
1		該当なし								
2										
合計（C）					後任補充状況の集計（D）					
辞任した教員数			担当科目数の合計（a）+（b）+（c）		①の合計数（a）	②の合計数（b）	③の合計数（c）			
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 一度就任した後に、辞任した全ての専任教員の辞任の理由を具体的に記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」 |
|---|

上記(3)－① ・ (3)－② の合計

合計(A) + (C)			後任補充状況の集計(B) + (D)									
辞任等した教員数	担当科目数の合計(a) + (b) + (c)			①の合計数(a)			②の合計数(b)			③の合計数(c)		
3 人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
	選択	9	科目	選択	9	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
	計	9	科目	計	9	科目	計	0	科目	計	0	科目

(注) ・ 就任辞退(未就任)及び辞任した全専任教員について、教員数、担当科目数の合計、後任補充の状況を記入ください。

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

就任辞退の教員が担当する科目については、当該教員と同様の研究領域の専任教員が担当しており、授業の実施に支障はないと考えている。
 学生への周知については、シラバス及び年度当初のガイダンスで行った。

(注) ・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

6 留意事項等に対する履行状況等

区 分	留 意 事 項 等	履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
<p>設 置 時 (27年6月)</p>	<p>(同一設置者が設置する医学系研究科名古屋大学・アデレード大学国際連携総合医学専攻)</p> <p>1. 養成する人材像が一般的・包括的な記述となっており、このことからディプロマポリシーも明確ではない。国際連携教育課程制度の趣旨は、我が国の大学と外国の大学が、双方の強みを活かし、また、補完しあいながらより充実した教育研究を行うことであることを踏まえ設置計画の履行に当たっては以下について留意すること。</p> <p>(1) 社会一般や入学を希望する学生に対して、国際連携教育課程制度を通じて養成される人材がどのような専門分野で活躍するかなどを具体的に示すこと。特に、ディプロマポリシーにある「国際的共同研究を推進」について具体的に明示すること。</p>	<p style="color: red;">留意事項</p>	<p>(1) 医学分野において従来からの個別化医療とともに、Genome解析手法を加え、より診断技術の精度を上げた precision medicine (精密医療) を推進するため、本学における神経がん融合研究、アデレード大学における臨床と結びついたトランスレーショナルリサーチといった両大学の特色を相互補完的に取り入れたカリキュラムに基づく国際連携教育課程制度を通じて養成される人材は、医学分野、特に基礎医学研究と観察的・介入的臨床研究を融合したトランスレーショナルリサーチにおいて国際的に活躍する人材であり、ディプロマ・ポリシーに以下(参考1)のとおり追記して示すこととした。</p> <p>また、養成される人材の例として、①日本とオーストラリアの精神医学的疾患の特徴と研究体制を十分に把握し、この2国を含む複数国を巻き込んだ国際共同治験をリードする臨床医学研究者、②がん研究領域で研究者間の国際的関係を構築し、各国のがん研究の連携を図り、全体として世界のがん研究をリードする基礎医学研究者、③日本で高齢化社会に対する各種先駆的な取組に触れ、医学的見地から必要とされる技術について理解し、日本とオーストラリ</p>

アを含む世界各国で医学応用分野で指導的立場となる産業界リーダー、をホームページに掲載して社会一般や入学希望者に示すとともに、入学時全体ガイダンスにおいて入学者にも提示した。

さらに、ディプロマ・ポリシーに掲げる各項目については、論文審査以外にも学生から年次レポートを提出させ、指導教員と合同運営委員会によって評価・確認を行い、ディプロマ・ポリシーに沿った学位審査・学位授与が行われるようにした。

(参考1)

○ディプロマ・ポリシー

「豊かな人間性、高い倫理性、科学的論理性を備え、創造力に富み、多様な学問的素養を身に付け、医学分野、特にトランスレーショナルリサーチにおける国際的共同研究を推進し、医学と人類の福祉の発展に著しく貢献できる人材」を養成する。

(28)

(2) 養成する人材像やディプロマポリシーを明確化するには、アドミッションポリシーとして、どのような人材を求めているかをより具体的に示し、2つのポリシーの対応関係についても留意すること。その際、「国際的に活躍する強い意欲」の解釈に幅が出ないように、入学者選抜における判断基準を定めるなど連携外国大学を含めた選考全体の意思疎通を十分に図ること。

(2) 本専攻において求める人材について、ディプロマ・ポリシーに追記したトランスレーショナルリサーチ、また、加速度的な高齢化社会に対応できる医工連携を含めた異分野連携を進めるため、アドミッション・ポリシーに以下(参考2)のとおり追記して示すこととした。

また、アドミッション・ポリシーに沿った入学動機を備えた学生であるか適性を評価するために、書類審査と口頭試問を行うとともに、基軸となる英語能力が入学選抜の基準を満たしているかTOEFL iBT等のスコアについて基準を設け、専攻全体で統一した意志疎通のもと入学審査を行っている。

(参考2)

○アドミッション・ポリシー

① 人間に対する共感と深い洞察力を持つ。

② 知的好奇心旺盛で科学的探究心に富んでいる。

③ 広い視野を持ち、物事を多面的に捉えることができる。

④ 協調性があり、医学分野、特にトランスレーショナルリサーチにおいて国際的に活躍する強い意欲がある。

(3) カリキュラムポリシーについても、上記を踏まえつつ、対応関係に齟齬が生じないように留意すること。

2. 年間の研究指導計画や成績評価基準が不明確であるため、学生が十分に理解できるよう、あらかじめ十分な説明を行うこと。

3. 連携外国大学の教員組織について、本専攻の教育研究の目的を十分に果たし得る体制となっていることについて、社会一般や入学を希望する学生に対して、あらかじめ明示すること。

⑤ 独創力を備え、新たな分野を開拓する気概を持つ。
⑥ 異分野連携によるイノベーションの創出を行う資質を持つ。
(28)

(3) カリキュラム・ポリシーについて、ディプロマ・ポリシー及びアドミッション・ポリシーへの対応を踏まえ、トランスレーショナルリサーチについて、以下(参考3)のとおり追記して示すこととした。

このカリキュラム・ポリシーに沿って、トランスレーショナルリサーチの知識・技術・倫理に加え、国際的研究組織構築のための戦略・手法・実例など幅広い知識を教授する講義を設けるなど、国際的視野と国際的競争力を有する医学研究者の養成を目標としたカリキュラムを作成した。

(参考3)

○カリキュラム・ポリシー
「世界トップ大学同士の相互補完的協同教育により、高い倫理性、科学的論理性を修得させ、幅広い学問的素養を身に付けさせ、医学分野、特にトランスレーショナルリサーチにおける倫理と国際的共同研究の組織構築の戦略手法を学ばせること」

(28)

年間の学修計画書作成にあたっては、学生が既に身につけている知識、スキルや具体的な研究分野等に応じて、各指導教員から学生に対して履修モデル等を示しつつきめ細かな指導を行っている。また、成績評価基準についてはシラバスに記載するとともに、各指導教員が学生に対して個別に説明することとした。(28)

名古屋大学とアデレード大学で、基礎医学領域と臨床医学領域から幅広い専門分野を設定し、その医学研究領域をカバーする専任教員を有する教員組織についてシラバスとともに配付した。また、国際連携専攻入学時全体ガイダンスの中で、入学者に対して詳細に説明した。(28)

平成28年10月、連携外国大学の教員組織をホームページに掲載した。(29)

左記にあわせて、平成28年10月末までに連携外国大学の教員組織をホームページに掲載する。(28)

	<p>4. 連携外国大学との調整を行う教員に関する業績等が明らかでないが、調整を行い得る十分な能力を持った者を配置し、連携外国大学との連絡調整に支障をきたすことのないよう十分な体制を構築すること。</p>		<p>連携外国大学との調整を行う教員は、英語能力が高く、博士課程の学生を指導するのに足る十分な研究業績と国際経験を有するべきであると考え、オーストラリア国籍を有するとともに、カナダのSaskatchewan大学でBiologyの博士号、イギリスのCambridge大学で発行される英語教員免許を有し、オーストラリアのMonash大学薬学部でAssociate Professorとして薬物立体構造解析の研究を行っていた経歴を持つ教員を配置した。また、業務遂行を円滑に行うために語学能力の優れた専属秘書を配置し、体制を強化した。(28)</p>	
<p>設置時 (28年6月)</p>	<p>(同一設置者が設置する理学研究科名古屋大学・エディンバラ大学国際連携理学専攻)</p> <p>1. 本専攻に置く博士後期課程の教育を研究指導のみによって行うのであれば、双方の大学が同種の学位を授与するに当たって求めている標準的な要件を踏まえつつ、本専攻において行われる研究指導において最低限行われるべき内容や要件を協定書等において明確にすること。その上で、国際的に通用する質を備える専攻として、教育研究活動の一層の水準の向上に努めること。</p> <p>2. 双方の大学から研究指導教員を選出する際は、専攻分野に関して高度の専門性が求められる博士後期課程の目的を踏まえ、学生が志向する研究分野に関する実質的な指導を行うことができる体制を構築すること。</p> <p>3. 協定書の締結にあたっては、申請書に示されている内容を確実に反映させること。</p>	<p>留意事項</p>	<p>研究指導において最低限行われるべき内容である、 ①1年次の「口頭試問」 ②2年次の「Poster Presentation」 ③留学先における研究（最短6か月から1年間） ④3年次の「最終年次研究報告会」 ⑤博士論文執筆 ⑥最終的な口頭試問の実施については、両大学ですでに確認されている。また、学生に対しては、ガイダンスでこれらの内容を通知した。(29)</p> <p>研究指導教員選出の際は、専攻長及びアカデミックコーディネーターが、学生が志向する研究分野や内容を聴取し、学際的な共同研究の観点も踏まえつつ、効果的な研究指導が行われることを事前に十分検証した上で行うことにした。(29)</p> <p>協定書の締結にあたり、申請書に示した基本的な学務条項について記載した。また、研究指導に係る詳細については、ガイダンスにおいて周知した。(29)</p>	

<p>設置時 (28年11月)</p>	<p>(同一設置者が設置する医学系研究科名古屋大学・ルンド大学国際連携総合医学専攻) 国際連携専攻については、両大学の入学資格を満たす必要があることから、既設の専攻と比べて要件が厳格となり敬遠されることが想定される。 本専攻の継続的な運営に支障が生じないよう、入学希望者のニーズを踏まえつつ、学生確保に最善を尽くすこと。</p>	<p>留意事項</p>	<p>本専攻への応募に関心を示した学生に対して、応募前に面談し、本専攻の概要、入学資格、履修科目、修了要件などを説明することにより、本専攻への理解を促した。 連携外国大学における研究室の確保に当たっては、合同運営委員会が積極的に仲介し、希望に添った研究を実施できる適切な連携先の確保に努めた。(29)</p>	
-------------------------	--	-------------	--	--

- (注) ・ 「設置時」には、当該大学等の設置時（認可時又は届出時）に付された留意事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る留意事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入し、報告年度を（ ）書きで付記してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該設置計画履行状況調査の結果、付された意見に対する履行状況等について、具体的に記入するとともに、その履行状況等を裏付ける資料があれば、添付してください。
 - ・ 同一設置者が設置する既設学部等に付された意見は、当該大学から提出される全ての報告書に記入してください。
 - ・ 該当がない場合には、「該当なし」と記入してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査時」の（年月）には、調査結果を公表した月（通常2月）を記入してください。（実地調査や面接調査を実施した日ではありません。）

7 その他全般的事項

<人文学研究科 人文学専攻（後期課程）>

（1）設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
	該当なし

- (注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。
 ・ 設置時の「設置の趣旨等を記載した書類」の項目に沿って作成し、それ以外の事柄については適宜項目を設けてください。（記入例参照）

（2）教員の資質の維持向上の方策（FD活動含む）

<p>① 実施体制</p> <p>a 委員会の設置状況</p> <p>(1) 運営委員会 研究科長を委員長とし、評議員、副研究科長及び各コース長から構成</p> <p>(2) 教務委員会 副研究科長及び各コースから選出された委員から構成</p> <p>(3) 計画評価委員会 研究科長を委員長とし、評議員、副研究科長、各コース長及び研究科内主要委員会の委員長で構成</p> <p>b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）</p> <p>(1) 運営委員会 月1回の開催を原則とし、必要に応じて臨時の委員会を開催</p> <p>(2) 教務委員会 月1回の開催を原則とし、必要に応じて臨時の委員会を開催</p> <p>(3) 計画評価委員会 各学期に2回程度開催</p> <p>c 委員会の審議事項等</p> <p>(1) 運営委員会 研究科の教育研究に係る方針を協議し、委員会の下に設けた教育研究推進室でFD活動の企画を行う。</p> <p>(2) 教務委員会 教育カリキュラムの実施に係る事項を管掌し、授業評価アンケートを実施するとともに、授業の実施や授業評価に関するFD活動を教育研究推進室と共同で企画する。</p> <p>(3) 計画評価委員会 研究科の教育研究に係る計画を策定し、その実施状況を評価するとともに、計画の達成状況に関連してFDを企画する。</p>

② 実施状況

a 実施内容

- ・教育研究上の課題に関する勉強会（運営委員会及び教育研究推進室が企画）
- ・授業の改善を目指した意見交換会（教務委員会が教育研究推進室と共同で企画）
- ・教育研究に係る計画の策定に向けた教員懇談会（計画評価委員会が企画）

b 実施方法

上記の各委員会で企画を立て、各学期2回を目途に実施

c 開催状況（教員の参加状況含む）

現在、企画立案中

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

現時点では未実施のため、該当なし

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

各学期末に、すべての授業について所定の様式による授業評価アンケートを実施

b 教員や学生への公開状況、方法等

授業評価アンケートの結果は教育研究推進室が集約し、授業改善を目指したFD等を通して教員間で共有を図る。学生に対しては、学内の教育研究ファイルサービスシステム上で、工夫点、改善点も含めて公開する。

(注) ・ 「① a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

(3) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

研究科の発足からまだ日が浅いが、開設に向けて準備を進めていた平成28年度中も含め、これまでのところ、設置の趣旨・目的は、概ね当初の計画通り実現している。

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

平成30年3月中に公表予定

b 公表方法

研究科のホームページ及び教育研究推進室が刊行する冊子で公表する予定

③ 認証評価を受ける計画

学内で検討中

(注) ・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(4) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書

a ホームページに公表の有無 (有 ・ 無)

b 公表時期 (未公表の場合は予定時期) (平成29年 6月 1日)